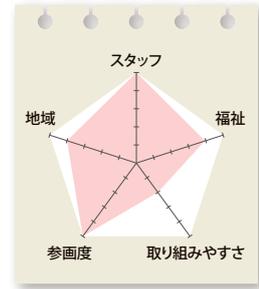


## 21 キッズクラブ ～母親同士の子どもの預けあいサポート～

### ▶ 子どものびのび、保護者はリフレッシュ

育児にストレスを感じている保護者を、相互子育て活動に巻き込み、保護者がリフレッシュしつつ、安心できる子育て環境を地域に築いていく事業です。活動内容は保護者が主体的に決めて実施します。児童館は活動の場を提供し、スタッフが保護者のサポートをします。



### ねらい

- 地域に安心して子育てできる環境をつくる。
- 児童館による保護者相互援助活動の推進を図る。
- 保護者の子育て力、社会性などを養う。
- 保護者が安心してリフレッシュできる機会を設け、育児ストレスの解消に役立てる。
- 保護者同士、子ども同士の仲間づくりの推進を図る。
- 地域の子どもたちの成長をみんなで見守るという意識の向上につなげる。

### 実施条件

対象年齢	2歳～4歳児とその保護者
参加する人数の目安	親子8～10組
必要なスタッフ数	親子8～10組の場合に児童館スタッフ（サポーター）1人、親子がそれ以上になる場合は適宜、サポーターを増やして対応する
設備/環境	児童館の常設設備で実施可能
実施時期	週1回・午前中 期間は、5月～翌年3月までの11か月または、4月～10月と11月～翌年3月までの半期ずつとする。
備品/道具	親用雑誌、子ども用の遊具や玩具 ※詳細は「実施資料」の【設備・遊具の準備】を参照
総予算	約15,000円/年間 ※子ども用個人玩具の購入費

## 事前準備

- 事業の趣旨とねらいを理解した専属スタッフを児童館に置きます。

---

- 実施日時と活動場所を決めます。
  - ・基本的に児童館内で活動します。
  - ・安全を考慮した上で、近隣の公園などの館外で行うこともあります。

---

- 会費の額を決めます。
  - ・神戸市では原則として無料ですが、行う活動によっては必要に応じて実費徴収する場合があります。

---

- 参加者を募ります。
  - ・当館では、キッズクラブにのみ参加する親子がいると、親の安心感が生まれづらいと判断しました。そのため、普段から児童館の親子クラブに参加している2～4歳児とその保護者を対象に広報を行い、参加者を募りました。

---

- プログラム内容を決めます。
  - ・ここからは、事業に参加する保護者たちが主体的に動くこととなります。
  - ・児童館スタッフはサポートにまわり、子どもたちを楽しませるノウハウや長時間活動時にメリハリをつける工夫、スムーズに活動予定を決める工夫などを助言します。

---

- 参加する保護者の間で保育当番を決めます。
  - ・当番の保護者はメンバー全員の子どもたちの保育をします。
  - ・当番以外の保護者は、外に出かけたり、別の部屋で読書やお茶を飲むなどしています。この間、保護者は子どもとは関わらない自分の時間を持つことができます。

---

- 設備・遊具の準備をします。 ※「実施資料」を参照

---

- 保険に加入しておきます。



保育担当の保護者による  
読み聞かせを聞く子どもたち



## 進め方

※詳細は、「実施資料」の【活動のスケジュール例】を参照

- ①朝9：30までに親子で来館します。
- ②保育当番の保護者は遊具などを使用しながら、子どもたちと遊んだり、体操をしたり、絵本の読み聞かせなどを行います（約2時間）。
  - 保育当番以外の保護者は、外出したり、別の部屋でリラックスした時間を過ごします。
  - 児童館スタッフは、必要に応じて保育当番の保護者をサポートします。
- ③AM11：45には、各保護者が自分の子どもを迎えに行きます。



## ポイント

- 少子化、核家族化で、自分自身の子どものしか関わりを持っていない大人が増えていきます。地域の保護者たちが交代で自分の子ども以外の子どもたちと関わることで、地域の子育て力の向上を図ります。それを児童館スタッフがサポートするのがこの事業の基本です。
- 保育当番以外の保護者が、わずか2時間でも子どもと離れリフレッシュし、子育てにゆとりを持てるようにすることが大切です。
- 保護者の保育担当当番は、プロの保育者ではありません。親子が離れている時間の様子のチェックや、着替え、水分補給、トイレトレーニングなど、保護者たちが気づかないことを児童館スタッフが援助します。
- 児童館スタッフは、保護者同士、子ども同士が仲よくなるよう援助します。この活動を通して、子育て相談などがしやすい雰囲気を作ります。



## 発展

-  参加した保護者たちは、本事業を通して子育て力を養うことができます。その保護者たちが、やがて地域の幼稚園や学校等のPTA活動や地域活動の担い手に育つことが期待されます。
-  相互見守りで、子育て支援の面白さを知った保護者たちが、児童館で実施する子育て支援事業のボランティアや、館のスタッフ等、地域の支援者に育つことが期待できます。

## ！安全への配慮

- 傷害保険に加入しておいた方がよいでしょう。

### 参加者の感想



- 親子クラブ（すこやかクラブ）は、児童館のスタッフ（児童厚生員）が、遊びやプログラムを決めて提供してくれるが、キッズはそのメンバーで決めることができます。親子クラブで楽しかったものを再度繰り返し遊べます。
- キッズクラブでは、子どもたち同士、長く遊べ、親同士は、ゆっくり交流できるので楽しいです。
- 2時間ほどであるが、子どもから離れられてリフレッシュできると共に、我が子はその時間頑張ってお留守番してくれただと思うと、また優しく対応できます。

### 参加者のOG



- 児童館のいろいろな親子行事、クラブに参加したが、キッズクラブが一番楽しかったです。ココから子ども同士、親同士のお友達ができました。
- 自分の子以外のこどもと触れ合えることが楽しく、今のPTA活動につながっています。
- すこやかクラブの時も、キッズクラブの時も、児童館のスタッフと共に、ボランティアさんにお世話になりました。今は幼稚園や学校に我が子が行っている間、児童館に来て、子育てボランティアをしています。赤ちゃんや幼児さんにふれあえてうれしいです。

### 保護者の主体的な取り組みの視点



昨今、第一子が生まれるまでは、他のお子さんに関わる機会がない保護者がほとんどである。そこで同じ地域の同じ世代の子を育てている保護者同士が、児童館という公共の施設で、相互に子どもたちを預かりあい、世話をを行い、成長していく子どもたちをみんなで見守る意義はとて大きいと思います。親も子も仲間意識が育ち、その存在は、これからの子育てに大きな力となることが期待出来ます。また、少しの間、子どもと離れることで、保護者にゆとりの時間が生まれ、子育てのストレス解消と共に、一層しっかり子どもを見つめることができるようになります。

プログラム  
アドバイザー

● 落合児童館（神戸市） 館長 古田説子  
浜野里香

【協力】

● 神戸市須磨区社会福祉協議会 主査 池本貴子

実際に  
やって  
みました。

- 子どもを預かる際に『当日メモ』を書いてもらい、当日の食事や機嫌、排せつの状況、緊急連絡先を保育ママにわかるようしてもらったところ、子どもの様子がわかり保育しやすかったと意見がありました。
- アドバイザー落合児童館古田館長に実際見てもらえたことで、実施する際の改善点やアドバイスを受けられ、今後も実施の励みになりました。



戸塚児童センター あすぱる (埼玉県川口市)

【活動のスケジュール例】

9:30	・親子で来館 ・当番以外の保護者お出かけ
10:00	・自由遊び(遊具を使用) ・片付け ・朝の挨拶、出席調べ
10:15	・体操
10:45	・自由遊び(遊具を使用)又はプログラム
11:00	・絵本の読み聞かせ ・自由遊び(粘土、お絵かきなど)
11:30	・片付け、終わりの挨拶
11:45	・お出かけしていた保護者お迎え

【設備・遊具の準備】

◆保護者向け

- ・保育担当の保護者には、エプロンを着ることで自覚を促す。
- ・保育当番ではない保護者が過ごす部屋には、リラックスした時間を過ごすための本や雑誌を準備しておく。
- ・個別の荷物を入れるカゴを準備。

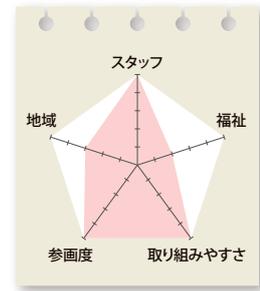
◆幼児向け

- ・幼児用便座やスリッパ
- ・遊具や玩具:大型ブロック、ソフトクッション、個人用粘土、ままごとセットなど

## 22 とり+かえっこ屋

### ▶ おもちゃリサイクルを楽しみ、子どもが事業に参画できる

おもちゃの交換をベースにした「とり+かえっこ屋」に参加していくなかで、子どもたちは自然と意見の表明や事業への参画ができるようになっていきます。「とり+かえっこ屋」の環境を多様にする事で、子どもたちがその場で自由に遊びの世界を広げていけるところも大きな魅力です。



### ねらい

- 子どもたちが、児童館の日常活動の中で、**大人の価値観に制限されることなく、自由に遊びの世界を展開すること**を目的としている。自分で考え、それを実現していくプロセスの中で、さまざまな**達成感を得ること**ができる。
- 「とり+かえっこ屋」の仕組みには、子ども同士で、さまざまなやり取りをする場面が設定されているため、**豊かなコミュニケーション**につながる。
- 少し年長の子どもたちにとっては、仕事をすることや催しを**運営する楽しさ**を体験することができる。

### 実施条件

対象年齢	幼児～高学年
参加する人数の目安	スペースによって何人でも可
必要なスタッフ数	1～2人（子どもが慣れてきたら1人でも対応可）
設備/環境	特になし
実施時期	時期はいつでも可能。期間としては、子どもたちがシステムを理解し、それぞれが役割を担うようになることを踏まえ、1日2～3時間で4～5日間程度、連続して開催するのが望ましい。
備品/道具	<ul style="list-style-type: none"> <li>● とり+かえっこカード（2,000枚で5,000円程度）</li> <li>● スタンプ（1本2,000円×2～3本）</li> <li>● バックシーラーテープ（青・黄・赤の3本）</li> <li>● ポイント引換券</li> <li>● 陳列用カゴ（10個程度）</li> <li>● 最初に陳列しておくおもちゃ（段ボールに2～3箱／購入可1箱750円+送料）</li> </ul>
総予算	初回で10,000円程度。カードやスタンプがあれば次回からは消耗品代で2,000～3,000円程度で済む。

### 【はじめに心得ておくこと】

「とり+かえっこ」は、使わなくなったおもちゃを交換する「子どものまち」です。仮想通貨の「カエルポイント」を使って、おもちゃを交換します。会場でゲームに参加して「カエルポイント」を手に入れたり、「お店」で働いて「カエルポイント」を稼ぐこともできます。

「かえっこ」は、美術家の藤浩志さんが始めたものです。許諾を得て、児童館版として実施しているのが「とり+かえっこ」や「とり+かえっこ屋」です。当児童館では、ポイントを貯めるワークショップを遊びに特化して、運営をより子どもに任せるようにしました。イベントとして大きな規模で行う時は「とり+かえっこ」、児童館の日常活動として数日間設置する時は「とり+かえっこ屋」と区別しています。

※実施資料の「かえっこ」のサイトを参照してください。

大切なポイントは、子どもの遊びの価値観を大切にするため、2つの原則を絶対に崩さないことです。

(ア) おもちゃのポイントは、原則として3段階です。「そこそこ」のもの1、「まあまあ」は2、「なかなか」は3ポイント。特例としての「たくさん（感動ポイント）」があります。お金という大人の価値観を持ち込まないために、このポイント制が設定されています。

(イ) 参加できるのは、子どもの心を持っている人に限られています。おもちゃのポイントの判断や、ゲームコーナーの運営などは、原則として子どもに委ねます。

#### 児童館だよりなどで告知をおこないます

児童館だよりなどで、とり+かえっこの仕組みを説明し、不要なおもちゃを持ってくるように呼びかけます。子どもといっしょにポスターをつくり、掲示してもよいでしょう。

#### 必要なアイテムを準備します

(準備に要するのは1～2日です)

- ・「とり+かえっこ」のカード：「かえっこ」のカードでも代用できます。このカードの有効期限は、「子どもの心を持っている間」と決められています。
- ・使わなくなったおもちゃやぬいぐるみなどで、壊れていないものを準備しておきます。ただし、トレーディングカードなど交換して遊ぶものは除きます。段ボールに2～3箱あるといいでしょう。
- ・かえるスタンプ：かえっこの専用スタンプです。サイトから購入でき、レンタルすることもできます。
- ・赤・黄・青のバックシラーテープを値札として利用します。

- ・カエルポイントの引換券。1～3ポイントの引換券があると便利です。
- ・おもちゃを入れるためのカゴ。
- ・「かえっこ」ののぼりやバンダナなどの小物があると、会場の雰囲気盛り上がります。サイトから購入でき、またレンタルもできます。
- ・ボールペンなどの文具。

#### □ 商品の陳列をします

あらかじめ準備しておいたおもちゃには、値札の赤・黄・青のバックシーラーテープを貼って、かごに入れて机などに陳列しておきます。「そこそこ」のものには赤（1ポイント）、「まあまあ」には黄（2ポイント）、「なかなか」には青（3ポイント）のテープを貼ります。

#### □ 遊びのコーナーを設置します

おもちゃを持って来なかった子どもがカエルポイントを得ることができるように、遊びのコーナーを設けます。そこには、ゲームや遊びの素材を準備しておきましょう。特定の用途だけにしか使えないものではなく、サイコロや百人一首など汎用性の高いものを用意すれば子どもたちが工夫して遊べます。「とり+かえっこ」のキャラクター（右）をチラシや館内表示などに活用すると雰囲気が出ます。



## 進め方

- 1 **参加の仕方**：来場者に「とり+かえっこ」カードを1枚渡します。カードには、自分の名前とカードの発行日を記入してもらいます。それが済んだら「とり+かえっこ屋」に参加できます。
  - ・会場には「お店」だけがあります。「お店」には「銀行」「問屋」「レジ」「遊びのコーナー」の機能があります。
  - ・子どもが持参したおもちゃをお店に持って行き、お店の人に査定してもらいます。ポイントが決まったら、「とり+かえっこ」カードにカエルポイントのスタンプをおしてもらいます。
  - ・貯めたカエルポイントと、お店にあるおもちゃを交換します。
  - ・遊びのコーナーで遊んだら、その結果でカエルポイント引換券をもらってカエルポイントを貯めることができます。
  - ・お店の人として働いてもカエルポイントをもらえます。
  - ・遊びのコーナーを自分で運営します。また、誰かがやっていたゲームコーナーを引き継ぐこともできます。



かえるバンダナをかぶった  
子どもが、スタッフとして  
スタンプを押す様子。

②「とり+かえっこ屋」店主の仕事：スタートの段階では、スタッフが店主の役割を果たします。店主の役割は次の5つです。

- **銀行の機能**：参加者が持ってきたおもちゃを査定し、参加者のカードにカエルスタンプをおします。おもちゃは原則として、1～3ポイントですが、そのおもちゃに感動した場合は、手が動くだけスタンプをおしても構いません。感動ポイントのおもちゃは最後のオークション用に使います。また、参加者がカエルポイントの引換券を持ってきたら、その分のカエルポイントをおして、引換券を回収します。
- **問屋の機能**：査定が済んだおもちゃは、赤・黄・青のバックシーラーテープを貼って、かごに入れて陳列します。テープを貼るときには、必ずしも最初の査定ポイントと同じでなくても構いません。つまり、3ポイントで取得したおもちゃに、赤のテープを貼っても構いません。別の人がそれぞれを担当すると、このようなことが起きますが、問題としません。
- **レジの機能**：おもちゃが欲しい子どもが来たら、おもちゃに貼ってあるテープをはがして渡します。その時に、相当するカエルポイントを、ボールペンでカードに斜線を引いて消します。
- **遊びのコーナーの機能**：あらかじめ準備しておいたゲームを参加者で行います。その結果に基づいて、ゲーム参加者にカエルポイントの引換券を渡します。
- **すべての機能の引き継ぎ**：それぞれの役割を引き継いでくれそうな子どもを見つけて、必要な物品を渡して仕事を引き継ぎます。引き継いだ子どもには、仕事の時間に応じて、カエルポイントの引換券を渡します。

③遊びのコーナー：普段から児童館で子どもたちがやっているゲームや、「とり+かえっこ屋」ならではのゲームをいくつか準備します。

- **いつもの遊び系**：マンカラなど普段から子どもたちがやっているゲームを準備して、遊びのコーナーの担当者と対戦します。勝つと2ポイント、負けたら1ポイントなどとルールを設定します。
- **チャレンジゲーム系**：子どもたちが自分の記録に挑戦できるような遊びです。ペットボトルのキャップを決められた時間内にいくつ積めるかにチャレンジする「つもったワー」や、1つの言葉を一息でどれだけ長く言い続ける「ヤッホー100%」など、『遊び王』にもあるような種目です。ストップウォッチや数取器などを準備しておく、その場でいろいろ工



値付けされてカゴに入ったおもちゃが、子どもたちを待っています。



遊びのコーナーで「積みタワー」に挑戦する子どもたち。

夫できます。

- **偶然系の遊び**: 幼児でもチャレンジできるように、例えば「坊主めくり」のような偶然性が勝敗の鍵になるような遊びです。「とり」と「カエル」のカードを準備しておくと言気が出ます。
- ④ **オークション**: 感動ポイントをつけたおもちゃについては、子どもたち同士で取り合いにならないように、最終日にオークションを実施します。オークションでは、いくつか注意すべきポイントがあります。
  - **自分のポイントを確認する**: 子どもたちは、オークション自体が楽しく、自分の持っているカエルポイント以上の数を言うことがあります。そのため、自分のポイント数を事前に確認させて、その範囲の中でオークションに参加するように伝えます。
  - **自分の欲しいおもちゃのオークションのみに参加する**: オークションに夢中になって、欲しくないおもちゃのオークションにも参加する子どもがいます。できるだけ多くの子どもが、欲しいおもちゃを手に入れられるように、欲しいおもちゃのみに参加するようにお願いします。
  - **壊れている可能性についても話をしておく**: 「とり+かえっこ」のおもちゃは、「壊れていないものを…」と、お願いしていますが、すべての動作確認をすることは不可能です。そのため、オークションで手に入れたおもちゃが電池を入れても動かないというケースもあります。このことを事前に注意喚起しておきましょう。
  - **最初はスタッフが司会、慣れてきたら子どもに委ねる**: オークションで司会をしたい子どもがいれば子どもに委ねます。初めてであれば、最初の2～3品をスタッフが言い、子どもに要領を見てもらってから司会を代わりましょう。

## ポイント

- 「とり+かえっこ屋」は、児童館の日常活動の中で、自分の意見を表明すること、参画することを目的としています。全国（全世界）共通で行われている「かえっこ」の

ルールを逸脱しない限り、子どもたちのアイデアを大切にしましょう。子どもからの提案があれば、「面白そうだからやってみたら…」と後押しをし、それを子どもが実

現できるように支援します。

- スタッフの役割は、最初の段階での案内役です。子どもが全体運営を理解してきたら、運営すべてを子どもに委ねてスタッフはサポートに徹しましょう。時には、場から少し離れることも大切です。
- 時には、ストリートパフォーマンスのように、スタッフが新たな遊びのコーナーを行

うと、子どもたちの発想が広がることがあります。

- 場に保護者などの大人がいる場合は、「とり+かえっこ屋」の主旨をお話し、子どもたちの活動に支障がないように配慮することも大切です。特に、おもちゃのポイントに対して、「これは高価だったから…」「おまけだから…」など、大人の価値観を持ち込むことのないように注意しましょう。



「とり+かえっこ屋」は、「とり+かえっこ」のアレンジの一つです。「銀行」「問屋」「レジ」「遊びのコーナー」「お仕事相談所」などをそれぞれ独立させて行えば、「とり+かえっこ」になります。子どもが企画・運営する「子どものまち」としての活動も可能となります。



ミニ・ミュンヘン<sup>(※)</sup>に代表される「ミニ・シティ」は、準備や導入に時間も手間もかかりますが、「とり+かえっこ」はおもちゃの交換が核となるため、比較的簡単に導入できます。「とり+かえっこ」を何回かやった後ならば子どもたちにとってもイメージがしやすいため、「ミニ・シティ」に移行していくことができます。



この活動を核に、ポスターづくり、コマーシャルづくり、ホームページなどへの情報発信など別の活動を実施することもできます。

※ミニ・ミュンヘン：ミニ・ミュンヘンは7歳から15歳までの子どもだけが運営する「小さな都市」です。8月の夏休み期間3週間だけ誕生する仮設都市で、ドイツのミュンヘン市ではすでに30年以上の歴史があります。

(ミニ・ミュンヘン研究会HPより > <http://www.mi-mue.com/>)

## ！安全への配慮

- 広いブルーシートなどにおもちゃを広げるのはやめましょう。子どもが散乱したおもちゃを踏んでしまう危険が伴います。おもちゃは机の上や棚に並べましょう。床に並べる時は、養生シートなどを使って、おもちゃと子どもたちが動くところを分ける工夫が必要です。
- 小さなおもちゃや壊れたおもちゃの部品なども陳列されることがありますので、間違って口に入れないように配慮する必要があります。

## 子どもの主体的な 取り組みの視点



遊びのシステムとしては、子どもでもすぐに理解できるため、スタッフは子どもとの距離を考えながら支援することが大切です。極端に言えば、何もする必要はありません。どんな遊びが生まれているのか、子ども同士でどんな会話がされているのかをじっと見守ることが大切です。

その中で、敢えてスタッフがすることを見つけるとすれば、子どもたちが新たな遊びを創り上げる時に、必要な物品を揃えるための相談に乗ることか、子どもの心を持つ大人として参加者の一人になることなどです。ただし、参加者の一人になる場合は、心から楽しむことが必要です。

プログラム  
アドバイザー

● 氷川児童センター（埼玉県草加市） 館長 下村 一

実際に  
やって  
みました

- 当日のポスターが載っていれば、どのように宣伝するかがイメージできます。
- 当日の「とり+かえっこ」の概要を載せるとわかりやすいと思います。
- オークションについては、「人気のありそうなおもちゃを、最終日に時間を設定して行う」と明記したほうがよりよいと思います。
- 貼ったシールは折っておくと剥がしやすい。
- おもちゃは系統で分けておくのもよい。
- まとめて売らないようにする。



熊野前ひろば館 (東京都荒川区)・京ヶ瀬児童館 (新潟県阿賀野市)

実施資料



かえるスタンプを貯める「とり+かえっこカード」。「かえっこカード」を元にして児童館バージョンを作りました。



(上)「かえっこ」サイト> <http://www.geco.jp/kaekko/>  
 (下)「かえっこ」ブログ> <http://kaekko.exblog.jp/>  
 「かえっこ」についての説明や運営の仕方、グッズについて記載されています



遊びのコーナーのマンカラで遊ぶ参加者とスタッフ役の子ども。ゲームの結果でかえるスタンプがもらえます。

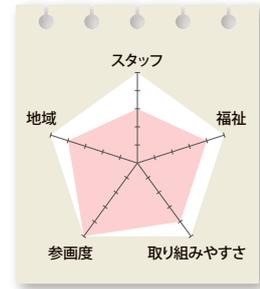


(左)かえっこノボリ、(上)かえっこパンダナ。かえっこサイトにのっているグッズです。

## 23 めざせ6秒動画100連発 ~ビデオムービーづくり~

### ▶ 創造力と自己表現力を培う動画制作

子どもたちから6秒で収まる動画を募集します。集まった動画を館内で放映し、100本集まったら、投票によってグランプリ作品を決めるというプログラムです。子どもたちの創造力と自己表現力が培われるとともに、保護者に児童館で活動する子どもたちの様子を伝える手段にもなります。



### ねらい

- 子どもの**自由な自己表現**を可能にする機会とする。
- 豊かな創造性**を育む機会とする
- より身近で**気軽な参加・参画の機会**とする。
- 保護者などに、**児童館でいきいきと活動する姿**を見てもらう機会とする。

### 実施条件

対象年齢	小学生～高校生
参加する人数の目安	何人でも可 ※個人でも、グループでの参加でも
必要なスタッフ数	1人
設備/環境	特になし
実施時期	いつでも可
備品/道具	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ビデオカメラ</li> <li>●ビデオ機材 ※子どもでも使用できるもの</li> <li>●動画を放映するモニター ※施設にあるもの、あるいは、準備できるサイズでかまいません。</li> <li>●編集ソフト ※編集ソフトは、パソコンに標準的にインストールされているソフトを使用してもよりが、「VideoPad」等、フリーウェアでダウンロード出来るソフトが便利。</li> </ul>
総予算	※備品や道具は、施設にあるものを活用。また、デジカメの動画機能や、スマートフォンの動画機能を使用すれば、低予算でも実施可能。

## 事前準備

### □ 子どもたちへの告知活動を開始します。

- ・スタッフや子どもに声をかけ、本プログラムの商業用の6秒動画を撮影します。
- ・商業用の6秒動画を使い、プログラムの告知を行います。告知に関しては、ポスターで行ってもよいでしょう。告知期間は2週間程度とします。
- ・スタッフは、数多くの子どもたちに声をかけ、施設全体で気運を盛り上げていくようにします。

## 進め方

### ① 6秒動画作品を受け付けます。

- ・子どもたちが「6秒動画を撮りたい」とスタッフに声をかけてきたら、ビデオカメラで撮影を行います。その際、少しアドバイスも入れながら、子どもと一緒に内容を考えるようにします。
- ・撮影した作品は、なるべく早く6秒に編集し、館内のモニターで放映します。
- ・応募作品数をリアルタイムで掲示し、100本到達に向けた目標を常に意識できるようにします。

※児童館の規模（入館者数）によっては、100本集めることがむずかしい場合があります。目標本数に関しては、児童館の入館数から、1～2ヶ月程度で到達可能な本数を設定しましょう。

### ② 投票を開始します。

- ・100本集まったら受付を締め切り、投票期間を告知します。投票期間は、1～2週間くらいがよいでしょう。



- スタッフたちで第1次審査とを行い、100本の作品を10本程度に絞り込みます。
- 第1次審査を通過した作品を、再び館内モニターで2週間ほど放映します。
- 館内モニターで流れている作品を見て、気に入った作品に投票できるよう、投票箱、投票用紙、ペンを準備しておきます。
- 投票は1日1回までとし、毎日投票してもよいルールにします。自分の作品に投票してもかまいません。

### ③ グランプリ作品を発表します。

館内モニターやポスター等で、グランプリ作品を発表します。



## ポイント

### ● 「やってみよう！」と子どもが思ったときの瞬間を捉えることが大切です。

本プログラムにおいて重要なことは、子どもが気軽に参加できることです。子どもたちは日常の中で「これ面白いでしょ?」、「こんなことが出来るんだぜ」など、「見てもらいたい」、「伝えたい」といった思いを、幾度となく芽生えさせています。その思いが芽生えた瞬間を逃すことなく、キャッチすることが大切です。したがって、スタッフは、どんなに多忙でも、子どもから「撮って!」と言われたときは、笑顔ですぐに対応するようにしましょう。なお、スタッフにとって、「撮影」はさほどの負担にはなりませんが、「編集」は一定の負担になります。したがって、できるだけ多くのスタッフが編集作業を行えるよう、ノウハウを共有しておくとういでしょう。

### ● 次第に高まる参加意欲を捉えましょう。

最初は動画が集まりにくいものです。しかし、バスケットボールやドミノなど、子どもたちが日常の中で遊んでいる動画が徐々に

に集まり、それが放映され始めると、皆がそれを真似し始めます。自分が活躍している姿が放映され、皆に見てもらえることは、恥ずかしさ半分、うれしさ半分なのです。こうした、子どもたちの自然な参加意欲の高まりを確実に捉えることで、より多くの子どもたちの参加へとつなげていきます。

### ● スタッフはファシリテーターとして関わるようにします。

一度作品を作り、楽しさを覚えた子どもは、何度も応募してきます。その結果、似たような作品が多くなります。そこで1作目の作品は無条件で受け入れ、2作目からはスタッフが作品づくりに少し介入するようにします。子どもの発想や行動力を上手く引き出し、そこに技術的なアドバイスなども加え、より質の高い作品づくりを目指すことが大切です。このようにスタッフがファシリテーターの役割を担うことで、子どもたちの中で表現したいことがだんだんと具体的になっていきます。

## 発展

-  子どもたちの日常における生き生きとした姿を、一定期間館内のテレビモニターで流すことで、来館した保護者の方たちに、児童館の楽しさを伝える役割を果たすことができます。そういう意味では、日常の記録映像としての資料価値もあると考えられます。
-  子どもたちから投稿される動画は時間の長さがまちまちなので、6秒で切っても意味が分かるものであればバツサリと6秒で切り、動きの流れでどうしても6秒で切れないものは、再生速度をかえて早送りにするなど、なるべく子どもたちの意向に沿うような形で編集していきます。早送り自体が面白い効果なので、なんでもない動画でも面白くすることができます。また、慣れてきたら効果音やエフェクトなどを入れると、さらに盛り上がります。
-  館内での撮影にとどまらず、地域に出向いて撮影することで、地域とのつながりを築ける可能性があります。

## 考察

-  子どもの表現活動は、ダンスや演劇等がポピュラーです。この活動形態の多くは練習や準備が必要になりますから、どうしても、「誰でも気軽に参加」というわけにはいかないのが実際です。しかし、遊びそのものを「子どもの自己表現」と捉えるなら、それは児童館で過ごす子どもたちの日常と密接に関係していると考えられます。  
今回はビデオ撮影という「簡単で手軽な自己表現」を手段とすることで、できるだけ多くの子どもたちが「やってみたい!」と思う機会をつくりました。そして、自分が表現したことをみんなに見てもらい、それが他の子どもたちの欲求を刺激し、より豊かで、創造性に富んだ自己表現への機会とつながるように計画しました。児童館の日常の様々な機会、様々な場面で表出する子どもの自己表現を、スタッフが敏感に捉え、それを継続性のあるプログラムへと結び付けていくことが重要だと考えています。

### 安全への配慮

- 個人情報の関係で、動画を館内のみで放映する場合でも、写っている本人と保護者の同意を得る必要があります。

## 子どもの主体的な 取り組みの視点



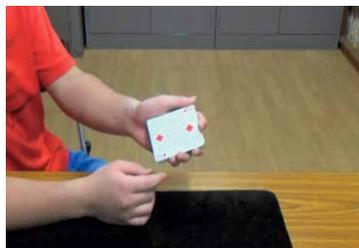
このプログラムでは、子どもの主体性が高まっていく過程をよく観察し、その主体性に合わせたスタッフのアプローチが重要になります。子どもが「ちょっとやりたいな！」と思っている時には、「どんな事でもOKだよ、やってみよう！」とハードルを低くする、「もっとやりたい、またやりたい」と思っている時には、「もっと面白くないとなあ…」とか「ここ工夫すると、見応えあるかもね！」とハードルを高くする。こうしたスタッフの働きかけは、子どもの好奇心、探究心、創造性と言う遊びに内在する力を少しずつ、そして確実に育てていきます。児童館で行うプログラムが子どもの豊かな育ちを支える体験になるためには、このような専門的なアプローチが重要です。

プログラム  
アドバイザー

● 麻布子ども中高生プラザ（東京都港区） 館長 佐野真一

実際に  
やっ  
て  
みました！

- 最初はなかなか動画が集まりませんでした。6本集まった時点で、受付に置いたモニターで、けんだまやマジックをしている子どもたちの様子を上映したところ、「僕にもできる！」「僕のほうが上手！」といった形で意欲を見せる子どもたちが増えました。
- 子どもたち同士で意見を出し合ったり、一緒に練習する姿を見ることができました。また、自分の作品が上映されたときの子どもたちは照れながらも誇らしげな様子でした。
- カメラを恥ずかしがる子どもと、撮影に積極的な子どもに二分するので、スタッフの働きかけが大切だと思います。



野川こども文化センター

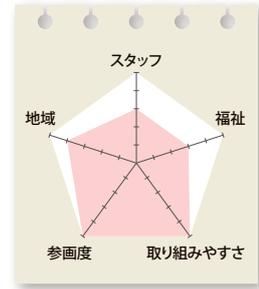
野川こども文化センター（川崎市）・宇福寺児童館（愛知県北名古屋市）

24

# 中高生が教える科学実験

## ▶ 科学遊びで広がる異年齢交流

中高生が企画運営する科学実験を、「遊び」として小学生に教えるイベント。教える側、教わる側共に、好奇心を膨らませながら取り組むことができます。また、学校、関係施設、人材と協力して行うことで、地域における多様な関係性の構築や、多様な社会資源の発見につながります。



### ねらい

- 小学生、中高生の**遊び心**を刺激し、**好奇心**を膨らませる。
- 子どもが感じる日常の不思議が気づきになるように、**科学実験を遊びの一つ**としてする。
- 中高生の「知ると教えたくなる」という気持ちを大切にしながら、ボランティア体験の機会を提供し、**中高生自身による企画運営事業**とする。
- 準備から本番へ向かうプロセス重視と子どもの意見を尊重するなかで、子どもの**自主性と自己実現**を図る。
- 小学生、中高生、地域の大人の**異年齢交流**を図る。
- 遊びの持つ力が、子どもを地域で健全に育てる力となる**ことを児童館が発信する。

### 実施条件

対象年齢	小学生から18歳
参加する人数の目安	小学生40名（20名×2回）、中高生10名
必要なスタッフ数	全体を把握するスタッフは4名、各グループでは小学生2名に中高生1名が就く
設備/環境	科学館や学校の理科室など、簡単な実験が安全にできる器具や機材のある会場が望ましい。そのような環境がなければ、仕切られた部屋で適度な広さと、水道等の設備があれば実施は可能
実施時期	近隣の学校や地域のイベントと重ならない時期（特に中高生の試験期間は回避する）
備品/道具	理科室など施設の設置備品がない場合は、新たに備品や道具を購入する必要がある。消耗品は毎回購入する
総予算	購入する場合の予算については「実施資料」を参照

## 事前準備

- スタッフがイベントに対する理解を深め、薬品や器具の使用の仕方に関する知識を身に付けられるよう安全対策を含めた研修を実施します。
- 中学校や高等学校の理科部や大学の講師等、科学実験に精通している地域人材の発掘をします。
- 専門的な知識に基づいた配慮ができれば、科学に対する子どもの興味を広げることができることをPRし、協力者を確保します。
- 簡易な科学実験に適した会場を確保します。

## 進め方

### 準備（1年前～半年前）

#### 初年度

- ・地域社会資源の調査と把握をします。
  - ・地域懇談会等の開催、学校、科学館、大学、主任児童委員、青少年委員、町会等との連携や懇談を頻繁に根気よく開催して地域の社会資源を探ります。
  - ・遊びを通して科学に触れれば、子どもの興味を広げることができることをPRして、協力団体や人材を確保します。
  - ・会場となる学校や公共施設等を視察します。

#### 1年前もしくは年度計画の時点

- ・協力者、会場、日程、財源など、実施概要案を決定します。
  - ・大学の講師や学校の理科の教師や理科部等にイベントへの協力依頼をします。
  - ・会場、財源を確保します。

#### 半年前～

- ・指導、協力団体や協力者を決定、会議を開いて活動概要を策定します。
  - ・実験の深さに重きを置くのではなく、中高生が理解をして、小学生に教えることが可能な実験プログラムを検討します。
  - ・ねらい、目標、日時、会場、参加対象、予算、スタッフの確保、科学実験内容、今後のスケジュール、安全対策等を検討して、活動概要を策定します。
- ・中高生ボランティアを募集します。
  - ・児童館利用の中高生を対象にチラシでボランティアを募集します。
  - ・中学校、高等学校の理科部員など学校単位でボランティアを募集します。



サイエンスドームでの  
中学生が教える科学  
実験の様子

- ・ポスターやチラシにはイラストを使用し、中高生が興味を持つように配慮し、印象に残る広報を心がけます。

## 準備（2か月前～1か月前）

### 2か月前

- ・中高生実行委員会を組織し、会議と準備会を開催します。
  - ・児童館内で定期的に会議や準備会を開催します。
  - ・学校で適宜準備をします。
  - ・中学校、高等学校、大学、公共の施設を借りて、児童館が出張し、中高生と一緒に準備会を開催します。
  - ・中高生が、小学生に教える実験を体験して楽しみ、科学と触れ合う面白さを実感するとともに、危険な場合もあることを理解する準備会を開催します。

\*以後、葉脈標本やカルメ焼きの内容を例に説明します。

- ・小学生への開催広報、PR、情報発信をします。
  - ・児童館のチラシやホームページ等でイベント参加者を募集します。
  - ・実施会場周辺地域や子どもが利用する施設などに、子どもの目に触れるよう掲示場所にも配慮し、ポスターなどで効果的な情報提供を行います。
  - ・実施会場周辺、学校、町会等に開催の案内を配布して、イベントの告知をします。
- ・具体的な準備を始めます。
  - ・イベント全般の運営に必要な準備を始めます。配置図、案内看板、横断幕、参加者アンケート、科学実験の安全対策も含めたマニュアル等を中高生と協力して作成します。
  - ・必要備品の在庫確認、消耗品を購入します。

### 1か月前

- ・当日運営計画の策定と関係者への周知をします。
  - ・進行表と、協力者・中高生実行委員・スタッフの役割分担表を作成します。

- ・当日の運営について関係者に周知します。
- ・中高生実行委員が、実験の進め方、器具の使用、安全対策、小学生への指導の仕方について理解するよう学習・研修を行います。

### 前日

- ・災害情報（警報・注意報など）を考慮し、開催の判断をします。
- ・搬入する必要備品の最終チェックを行います。協力者、中高生実行委員、小学生の参加者等の変更事項の可否の確認をします。



### 当日の進め方

- ・前日と同様、災害情報（警報・注意報など）と会場の状況等考慮し、会場の変更や延期、中断、中止等、開催の判断を行います。
- ・午前中に協力者と中高生が会場に集合し、各テーブルの必要な実験用具をセットします。
- ・イベント開始1時間前に整理券を配り、受付を開始します。
- ・イベントスタート：挨拶、高校生自己紹介、実験の手順・注意など説明後、実験に入ります。
- ・終了後、再度受付をして、2回目の実験を行います。  
※詳細は資料の「タイムスケジュール」を参照。

●安全対策を講じながらも、規制や管理をしすぎずに、子ども主体のイベントになるように配慮して対応します。

- ・イベント終了後は、中高生実行委員による反省会を行い、イベントを振り返るとともに評価し、次回への展望を検討します（アンケート、会議等）。

### 年内、年間計画時

- ・実行委員、参加者のアンケートを分析し、改善策を検討し、次年度への引き継ぎをします。



## ポイント

●中高生のやる気が出るように受容的な傾聴を心がけ、言葉のかけ方や、ほめ方などスタッフが高いスキルを持って関わるようにします。

●中高生が参加しやすくするために、交通費など、できるだけ負担のないように会場の設定や交通手段について配慮します。

●中高生のキャンパススケジュールを把握

し、学校行事や定期試験、部活の日程に重ならないように開催日時等に配慮します。

- PDCAのサイクルを重視して、開催後に必ず評価と改善を行います。また数年に1回、見直しを含めた再計画を行います。
- 子どもの意見を尊重して、実験を成功させるだけでなく、子ども参画のイベントであることを常に意識して接します。
- 可能な限り、中高生実行委員の主体性に任せて、スタッフは困った時にサポートする

役割に徹します。

- 参加者が面白いと思える児童館の遊びを通じた健全育成を柱としたプログラムとします。
- 安定した財源確保をします。
- 子ども自身が安全について理解ができるよう、マニュアルの作成や安全対策に徹底し、事故を防ぎます。
- このイベントを通して高等学校などにつながることを意識して接します。

## 発展



サイエンスドームなどの施設とコラボすることで、施設側の科学員の方が講師となって児童館と協力して実施するイベントを行うことができます。

※当児童館が会場に選んだサイエンスドームは、遊びながら子どもたちの科学する心を育てる施設です。「見る、触る、創る」3つの体験スペースから構成されており、プラネタリウムや科学展示室、図書コーナー、工作室、地下鉄電車展示があります。



児童館がコーディネートをし、子ども科学館の科学員が教える工作出張事業に発展させると、児童館における科学遊びや工作のプログラムのバリエーションが広がり、子どもの科学遊びへの興味が広がります。



地域性を活かして、多数の高等学校や大学との協働事業を行うことで、地域連携が充実します。



### 安全への配慮

#### 【葉脈標本】

- 参加者には実験用ゴーグルを着用させましょう。
- 水酸化ナトリウム水溶液が目や皮膚や衣服に付いても触らないように注意します。

- 水酸化ナトリウム水溶液で煮るときには、必ずステンレスやホーロー、ガラス製品を使います。
- 水酸化ナトリウム水溶液は、塩酸か酢などを混ぜて中和させてから捨てましょう。

#### 【カルメ焼き】

- 食物アレルギー調査を行い、書面で保護者の確認をとります。
- 手洗い、うがいを徹底し、爪は短く切ります。
- 加熱したザラメを混ぜる時に飛び散ってやけどをしないよう、ゆっくりとかき混ぜることを促します。
- できるだけその場で食べるよう徹底します。

※手順上の注意点は「実施資料」を参照。

#### 子どもの主体的な 取り組みの視点



中高生の「知ると教えたい」という主体的な気持ちを大切に、ボランティア体験の機会を提供し、中高生による企画運営事業とします。準備から本番へ向かうプロセスを重視し、中高生の意欲が出るように、受容的な傾聴や声かけを心がけ準備にあたります。

中高生が、科学実験を成功させるだけでなく、小学生にわかりやすく説明をするなど他者への視点を重視します。安全対策を講じながらも、規制や管理をしすぎずに子どもの意見を尊重して接し、可能な限り、困った時にサポートする役割に徹します。

日頃、児童館を利用していない中高生が参加しやすくするために、交通費などできるだけ負担のないように会場の設定や交通手段について配慮し自発性を促します。

プログラム  
アドバイザー

●中野児童館（東京都八王子市） 児童館長 井垣利朗

実際に  
やって  
みました。

- 普段から中高生が相当数来ている児童館でないと一から集めるのは難しいので、中学高校のサイエンス部を「協働相手」という形で招く方法はとても有効だと思います。
- 当日の分担表例や事故防止マニュアルを実施施設で十分に検討して作成した方が良いと思います。
- 安全上の注意事項が書かれていたおかげで、安全対策に気をつけることができました。
- 科学館や高校、大学が近隣にない場合は、地域の人材を探すなどの工夫が必要と感じました。
- 「イベントを通して高等学校とつながることを意識して接する」が非常に役に立つアドバイス、初年度の児童館にとってこれこそがねらいではないかと思いました。



小中川児童館（新潟県燕市）・蒲江児童館（大分県佐伯市）

【児童館やサイエンスドームとのコラボ企画の実施例】

① 幼児でも楽しい科学実験

スライム・シャボン玉



中高生が教えるスライムづくりの様子

② 後で遊ぶことのできる科学実験

浮沈子・空気砲・黒いごみ袋の熱気球・電気クラゲ

③ 食べられる科学実験

カルメ焼き・サイダーづくり・バターづくり・かんたんシャーベットづくり・増えるヨーグルト

④ 子ども科学館(サイエンスドーム)とのコラボ企画

3Dめがね・葉脈標本づくり



タイムスケジュール

時間		内容	備考
11:30	集合	翔陽高等学校に迎え※参加人数に合わせて公用車手配	
12:15	集合・準備	各テーブルに必要な用具をセットする(6テーブル4人)	水酸化ナトリウムとアルコールランプの取り扱いには注意。葉脈標本作りの説明と諸注意。担当テーブル分け。
12:50頃	1回目受付開始	サイエンスドーム職員担当	当日整理券配布
13:00	開始	①サイエンスドームより一言 ②高校生の自己紹介 ③葉脈標本作り説明、諸注意 ④葉脈作り ⑤飾り付け、ラミネートで仕上げる	始まるまではテーブルの上のものには触れないように注意  水酸化ナトリウムが温まり変化が出るまでの時間を使って、順番にラミネート準備をする。  ※型抜きは事前に高校生に抜いておいてもらう。
14:00	1回目終了	終了しているところから片付け・掃除	
14:30	2回目・準備	各テーブルに必要な用具をセットする	
14:35頃	2回目受付開始	1回目と同様	
14:45	開始	1回目と同様	
15:45	2回目終了	全体の片付け・反省	
16:15	終了・解散		

必要備品

※「科学実験」の記入は、南大谷で保管している中高生科学実験用のもの

水酸化ナトリウム溶液		有り	お皿	24枚	科学実験24浅川10
ビーカー(500ml)	10個	科学実験 2個コニカより借用	歯ブラシ	24本	科学実験
ビーカー小	6個	酢酸中和用コニカより借用	雑巾		元八
ごとか	12個		軍手	多数	科学実験
金網	13個	科学実験	タオル	多数	科学実験
アルコールランプ	13個	科学実験	ペットボトル	1本	廃棄用
燃焼用メチルアルコール	13本		型抜き	各種	南大谷
ビニールもしくはゴム手袋	10	科学実験	ラミネート(70×100)	3箱	購入済
ピンセット 大・小	27本	科学実験	穴あけパンチ	1	北野
ガラス棒	8本	科学実験	はさみ		浅川
デジカメ		元八	ラミネーター大・小	大1小1	浅川1北野1
筆記用具一式		元八	中高生ドリンク		
救急用具		元八	画用紙・色紙(型抜き用)	台紙用	
ロールペーパー	1個	科学実験	ゴミ袋		元八
ティッシュ	1個	科学実験	水入れ	16	科学実験
酢酸(お酢)	1個	浅川	消毒用アルコール		元八
保護メガネ(子ども用24大人用12)	36個	科学実験	ライターまたはマッチ		
葉(ひいらぎ)		元八・浅川			

※水酸化ナトリウムは100ml程度が沸騰するのに時間がかからず良い

【必要な備品と購入価格】

＊葉脈標本の場合

- 保護めがね（子ども用24個、大人用8個：18,000円）
- ビニール手袋（12組2,000円）
- 軍手（25組：2,500円）
- 金網（10個：10,000円）
- ビニール袋（1袋100枚入り400円）
- ピンセット（大・小30本：3,000円）
- ごとか（10個：10,000円）
- アルコールランプ（10個：15,000円）
- タオル（10枚：1,300円）
- 雑巾（10枚：400円）
- 燃焼用アルコール（4,000円）
- 水酸化ナトリウム（3,000円）
- ビーカー（大500ml 10個：8,000円）
- ビーカー（小10個：4,000円）
- ガラス棒（10本：3,000円）
- 歯ブラシ（20本：2,000円）
- ロールペーパー（2本400円）
- ラミネーターフィルム（70×90cm100枚400円）
- 酢酸（お酢：少々）
- ヒイラギ（60葉程度）
- はさみ（5本）
- 水入れ（バケツ1個：500円）
- 消毒用アルコール液（2個：700円）
- 画用紙（40枚）

＊カルメ焼きの場合

- カセットコンロ（5台：17,500円）
- カセットボンベ（5本：1,000円）
- 温度計（5本：5,000円）
- 銅製おたま、すりこぎ棒セット（10組：12,000円）
- ザラメ（2kg：700円）
- 黒糖（900g：1,000円）
- 重曹（500g：400円）
- 計量スプーン（大15g 5本1,500円）
- 卵（1個）
- 紙コップ（2個）
- お湯（2.2ℓ×2個ポット）
- アルミホイル（1巻：350円）
- 金網（5個：5,000円）
- 軍手（5つ：500円）
- ビニール袋（1袋100枚入り500円）

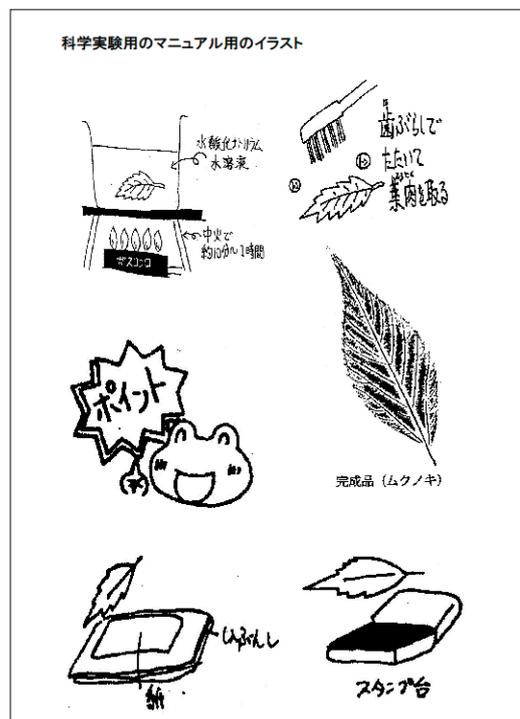
【実験の手順と注意】

＊葉脈標本の場合

- (ア) 葉（ヒイラギの葉等）を水洗いして汚れを取る。  
位葉を水酸化ナトリウム水溶液で10分ほど煮て葉肉をやわらかくする。
- (イ) 葉を酢酸等で中和してから水洗いをする。
- (ウ) 歯ブラシや筆で軽く叩きながら、葉脈から葉肉を取り除く。
- (エ) 水洗いして、葉肉をよく取り除く。
- (オ) 葉脈の水分をティッシュ等で拭き取り乾燥させる。
- (カ) 台紙にのせて飾り付けをしてパウチをして完成

＊カルメ焼きの場合

- (ア) お玉にザラメ黒糖水を入れる。
- (イ) すりこぎ棒の先に重曹をつけます。
- (ウ) 一人がお玉を持ち、もう一人が温度計でゆっくりとかき混ぜる。
- (エ) 温度計が120度になったら、火からおろして濡れた布巾の上で冷やす。
- (オ) すりこぎ棒ですばやく真ん中をかき混ぜる。
- (カ) 膨らむのが止まったら、もう一度火にかけて、お玉からカルメ焼きをはずす。



中学生・高校生及び保護者の皆さんへ

八王子市立児童館

## ボランティア体験

# 中高生が教える科学実験

コニカミノルタサイエンスドームの催しで、子どもたちに科学実験の体験指導をしてみませんか？小学生時代に学んだ「葉脈標本作り」を子どもたちに教えて、夏休みの奉仕活動及び思い出のひとつにしてください。参加をお待ちしております。

内容：中高生が教える科学実験「葉脈標本作ろう」

日時：7月26日（水）・27日（木）13：00～16：00

集合場所及び時間：各児童館

集合 11：45 解散 17：00 予定

行き・帰りは各児童館から公用車で送迎します。



場所：コニカミノルタサイエンスドーム

費用：無料

持ち物：昼食、飲み物、タオル、汚れてもよい服装

申し込み・問い合わせ先：〇〇児童館

締め切り：7月 15日（土）

事前練習日：7月22日（土）※都立翔陽高等学校にて実施

※事前練習日の参加については、児童館職員と調整します。

問い合わせ先：〇〇児童館 電話〇〇〇-〇〇〇〇



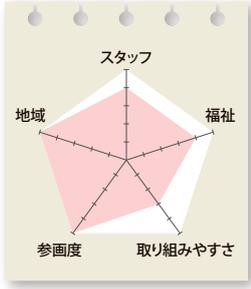
主催：八王子市立児童館・コニカミノルタサイエンスドーム



# 25 おいしいよ農園 ～会社経営ごっこ～

## ▶ 農作物の栽培・販売体験を通して社会に参画

児童館の社会参画として、小学生と保護者が作物の栽培、商品化、販売を行います。企画や運営にも主体的に取り組み、農園経営ごっこを楽しみながら体験できる事業です。農業の形式が難しい場合は、地域資源や特産物を活かして品物の商品企画や売る事業として実施することができます。



### ねらい

- 自由な発想や創造性を働かせ、子どもなりに役割を担い、**作物の栽培、商品化と販売**、様々な企画、行事など農園経営ごっこに取り組む。
- 子どもの意見が活動に反映され**主体的に取り組める**よう、地域や他団体と連携を深める。
- 作物の栽培や販売、様々な企画、行事などに取り組み農園経営ごっこを体験することで**多くの人との関わり**や多面的な物の見方を学ぶ。

### 実施条件

対象年齢	小学校全学年
参加する人数の目安	10人前後（多くても少なくても可）
必要なスタッフ数	スタッフ1～2名と連携団体の方 ※参加人数が多い場合、スタッフの数を増やすより連携団体の方の協力があつた方がよい
設備/環境	畑、田んぼ
実施時期	4月から準備を始め、会社の運営や農園行事や収穫祭、農産物販売などを行う。12月の反省会まで、9ヶ月間の事業。また、活用する地域資源や子どもの様子に合わせて実施時期や事業期間は変えて良い
備品/道具	● 農作業用道具と米代金（3万円程度） ● 看板用木材（5枚 2万円程度） ● 模造紙、コピー用紙、ノート、マジックなど（2万円程度） ※農園企画行事に応じて必要な備品は異なる
総予算	70,000円程度



## 事前準備

### 取組までの経緯

2016年、小学生たちは「農園ごっこ」として、作物の栽培や収穫祭、商品化と販売に取り組みました。その小学生を中心に、2017年は会社を設立、会社役員として主体的に一定期間継続して、地域や児童館利用の子どもを巻きこんでの「農園経営ごっこ」に取り組むことになりました。

- 放課後児童クラブ保護者会や児童館運営委員会の人を中心に、農業指導や商品化と販売の指導、会社運営企画に関する指導など連携していくことを確認し、そのうえで内容や目標の設定、日程調整を行います。また、必要に応じて放課後児童クラブOB会や児童館活動を通してできたお母さんと幼児の会など、児童館活動に関わる全ての人に協力を求め連携していくことを確認しました。
- 作物栽培用の土地代は無料で提供していただき、肥料や苗は農作業代金に含めました。米は、子どもが苗を植えた分を買い取り、芋は苗代金、スイカは商品代金を参加費として参加者が負担しました。
- 自由来館児童や放課後児童クラブの子どもに声をかけて子ども会議を開催します。
- 農園の社長は児童館で任命し、副社長、専務、課長、係長などの役職は参加人数に応じて子ども会議で決めます。社長、副社長は役割が明確なので1名ずつ、専務以下は役割に違いはないので複数でもよいでしょう。体験を通してそれぞれの役割の違いを理解するため、会社に応じて役員を決めます。農園主催行事などの企画は役職付きの子どもを中心に取り組みます。地域の人や子どもは自由に参加できる取り組みにしますが、作物の栽培など農業体験は土、日曜日に設定し、原則として親子での参加をお願いします。
- 児童館は、子どもが農園経営ごっこに取り組める場所と時間などの環境を準備します。

## 進め方

- 「農園ごっこ」の活動を体験した子どもが中心になって子ども会議を開催すれば、会社の運営や企画、商品化、販売、収穫祭など話し合いが活発に進みます。しかし、必ずしも体験が不可欠ではありませんので、子どもと楽しく会議を進めて農園経営ごっこを担う子どもの役職も決めましょう。
- 子ども会議で決まった活動の内容と予定、また昨年度との違いを連携団体や地域の人に伝えます。
- 農園会社開設一日目には、会社役職付きの子どもを中心に農園経営ごっこ



農園経営ごっこに必要な  
会社の看板、タイムカー  
ドなどを準備します。

この進め方、日程や時間、場所、会社としての規則など話し合います。  
※当館における農園経営ごっこでは、月2回（第2、第4木曜日）の15  
時30分から18時頃まで、児童館の一室を使用して取り組みました。

- 会社のイメージアップを考えて社名を考えます。  
※当館では、明るく元気が出るとの理由から社名を「おいしいよ農園」  
にしました。
- 子ども会議で会社での過ごし方を確認します。おいしいよ農園の社員は、  
希望すればいつからでも社員になることができます。  
※当館では、仕事が無い日は会社で宿題をするなど自由に過ごしてよい  
ことにしました。
- 農園経営ごっこでは、その日の仕事内容を確認してから、2、3人のグルー  
プで意見を出し合い仕事を進めます。時には1人で考えて行動すること  
もあります。
- 米の商品化と販売などを目的に農園経営ごっこに取り組みます。おいし  
いよ農園社員募集企画や地域への周知を目指し、田んぼでの泥遊び、地  
域文化祭での舞台発表、児童館での収穫祭など、さまざまな企画にも取  
り組みます。
- 農園経営ごっこは、子どもが自分の意見を持って切磋琢磨しながら進め  
ます。そのためには、児童館行事など他の都合で会社開催日程や時間の  
変更はしません。また、子どもの意見を反映させた企画や運営を進めます。

### おいしいよ農園の年間スケジュール

- |          |  |
|----------|--|
| 4月13日（木） | ・米の歴史や品種について調べる。<br>・会社開設に必要な物を準備する。<br>・キャラクター募集に向けて話し合い。 |
| 4月       | おいしいよ農園キャラクター募集を小学校で行うこと<br>になり、自主的に校長先生にお願いと説明に行く。        |
| 4、5月     | おいしいよ農園のキャラクター募集とポスター募集箱                                   |

を小学校に設置。

- 4月27日（木）
  - ・米の歴史や品種についての報告
  - ・おいしいよ農園広報活動（新聞製作）
- 5月11日（木） キャラクターについて話し合い
- 5月7日（日） 田植え体験（地域の田んぼ）
- 5月27日（木） 米の商品化について話し合い
- 5月28日（日） 五郎島金時（サツマイモ）の苗植え
- 6月8日（木）
  - ・キャラクターについて話し合い
  - ・おいしいよ農園社員募集について
- 6月22日（木） スイカ収穫チラシ作成、運動会企画
- 7月13日（木） キャラクター原画依頼（保護者）
- 7月15日（土） スイカの収穫
- 7月27日～  
8月4日 「めっちゃう米」商品シール募集
- 8月10日（木）
  - ・「めっちゃう米」商品シール決定
  - ・おいしいよ農園キャラクター原画完成
- 8月24日（木）
  - ・新聞づくりとおいしいよ農園「夢」作品の原案を作成
  - ・キャラクターの形を決定する
  - ・キャラクター缶バッチとステッカー
- 8月29日（火） 社員募集イベント（遊びの会、サバ鬼）



可愛い原画ができあがり、副社長、専務、係長の3人の子どもがキャラクターの原画を囲んでキャラクターをどうするか活用するか話し合います。子どもから募集したキャラクターの仕上げには、絵の上手な保護者の方に協力してもらいました。

9月3日（日） 稲刈り体験



9月14日（木） 「おいしいよ農園」舞台発表に向け、  
アーティストさんと顔合わせ

9月17日（日） 脱穀と田んぼで泥遊び「ミニ運動会」

9月 精米と新米試食会

9月21日～  
10月22日 おいしいよ農園企画舞台製作（13回のワークショップ）

9月28日（木） 販売用米袋準備

10月 めっちゃう米袋詰め

10月15日（日） 五郎島金時（さつまいも）収穫

10月22日（日） ・文化際でお米とサツマイモの販売  
・舞台発表「あさののぼんどり」  
※ぼんどり：「みの」の様なもので雨がっぱ

11月25日（土） おいしいよ農園収穫祭と報告会

12月2日（土） 反省会



## ポイント

- 子どもに働きかける場合には、面白いと感じる体験や日ごろあまり体験できない活動を心がけて、子どもの自由参加を促します。
- 児童館の協力団体や社会資源（地域にある田んぼの借用や特技を持った保護者や企業の協力）を活かして、他団体との連携を進めると活動内容がより楽しくなります。
- 特技のある保護者や放課後児童クラブの子ども、日ごろから児童館活動に協力的な地域の人、自由来館の子どもに声をかけ、より多くの人を農園経営ごっこに巻き込む活動が大切です。
- 健全育成の願いを込めて社長を任命し、社長と他の役職の子どもの関係づくりを大切に見守り、必要があれば援助します。
- 農園経営ごっこや目標の設定など、連携団体と話し合い活動参加者全員で共有します。
- 役職付きの子どもが企画した農園主催の行事は、小学校を通じてチラシを配布して地域に知らせ、参加は自由にします。
- 原則として親子での参加をお願いしますが、保護者が参加できない場合は厚生員が柔軟に対応することも必要です。
- 活動に取り組む場所や時間は、児童館を利用する他の団体や自由来館の子どもや放課後児童クラブの子どもの迷惑にならないよう、子ども同士が話し合い規則を考えることが大切です。
- おいしいよ農園経営ごっこに子どもが楽しく取り組めるように「芋畑で砂遊びがしたい」や「キャラクターは募集したけど形にできない」など、子どもの要求や困りごとに応じた協力や解決を目指して適材適所で必要な団体や人と連携を積極的に進めます。
- おいしいよ農園経営ごっこに主体的に関わっている子どもの姿は、見逃さずに認めて積極的に褒めましょう。
- 子どもを見守り、らせてみる態度も必要です。
- 子どもが社長、副社長など役割を意識して果たす為にも一人一人が名刺を持ち名刺交換などの場を作ります。また、会社企画の行事などでは、役員として挨拶するなど子どもの出番を作ります。
- 子どもの意識変化を見守る為に、一日の終わりに子どもが感じたことや考えたことを一人一人が業務日誌に書くことを社員としての義務にします。



長さ110メートルの芋畑、さつまいもの苗を植えた後は、まだ苗が植えていない畑でおもいっきりかけっこをしました。みんな笑顔になりました。

- 業務日誌の内容についてはあれこれと指導はしません。

作物の栽培や米の商品化と販売など、農園経営ごっこを仲間と意見をぶつかり合わせながら自分の意見が言えて、仲間と意見の調整ができる様に援助します。

- 連携団体や子どもの意見が農園経営ごっこに反映するように活動を進めます。

- 子ども同士の関係作りに取り組みます。

- 誰でも、いつからでも、どこからでも、おいしいよ農園経営ごっこに参加できる様に活動を進めます。

- 農作業等など、危険が伴う体験を行う場合は、事前に連携団体と打ち合わせて、作業内容を確認して安全に道具を使える様にします。



畑や田んぼが絶対に必要ではなく、米や野菜を提供してくれる方がいれば、会社経営として農園経営ごっこで商品開発や売り場の開発などができます。



農作物でなくても、地域のあるもの（地域資源）を活かした経営ごっこや従来の児童館活動を会社経営ごっことして展開できる可能性もあります。



児童館のおいしいよ農園経営ごっこを地域の拠点の一つの活動として取り組むことができれば、楽しみも増えて、より幅広い地域の連携ができ、人のつながりも広がる可能性があります。



親子で地域向けの企画や農業体験に参加することで親子の楽しみが共有でき、地域に顔見知りも増えます。



農園経営ごっことして、役職の子どもが水の管理や草取りなど取り組むことは難しいですが、無理をせず身近に作物の成長を見る工夫や農業体験の配布チラシ作り、体験当日の社長や副社長として参加者への挨拶など、農園経営ごっこの活動として地域の人に参加できる田植えや稲刈りを企画したり、米の商品化と販売に向け、商品企画、商品シールの開発やキャラクター募集、販売などならば子どもが考えて子どもが取り組みます。それぞれの児童館が、地域の特性を生かし、他団体との連携を生かして経営ごっこを楽しめれば、子どもの夢を展開していくことができます。

-  社会資源と連携して、仲間と切磋琢磨しながら活動に取り組めば、子どもの主体性や自主的を育むことができます。
-  農園経営ごっこに子どもが様々な行事や企画に関わることができれば、子どもの楽しみも増え、地域での参加者も増えて連携も広がります。
-  おいしいよ農園社員募集やキャラクター募集、舞台発表を目指したワークショップ、児童館フェスティバルでの作品展示など、農園運営ごっことして活動を広げることができます。その活動の中で、子ども同士の仲間意識を育てる可能性も生まれます。
-  児童館でのおいしい農園経営ごっこを通して、自分の居場所を作り、社会参画への一歩につながります。

## 安全への配慮

- 農作業、農機具の使い方には十分注意して、安全を心がけます。
- 安全な活動のために親子での参加を促します。
- 作業前には、手足に傷がないか確認し、作業後にはきれいな水を用意して洗浄するようにします。
- 小まめな水分補給を心がけ、熱中症に気をつけます。

## 子どもの主体的な 取り組みの視点



子どもが農作物の栽培や商品のネーミングや形、農園のキャラクター作り、地域に向けたイベント企画など農園経営ごっこに主体的に取り組むには、子ども一人ひとりが意見を持ち一つの意見にまとめて行く力が求められます。その為には、農園経営ごっこを通して子どもの能力が発揮され、お互いの力を認め合う関係作りが必要になります。たとえ、ふざけた態度で参加する子どもがいても自覚や意欲が生まれると信じ柔軟な関わり合いも必要です。その為には、取り組みの中心に子どもの「やりたい」気持ちがあることが大切です。また、子どもが一連の作業を最後までやり遂げる為には、多くの人との連携や継続した取り組みが大事です。活動をより主体的に進めるには、中心となる子ども集団があると展開しやすくなります。

  
プログラム  
アドバイザー

● 浅野町児童館（石川県金沢市） 三浦啓子

実際に  
やって  
みました。

- 「イベント会社経営をしませんか？」と呼びかけて、3～6年生が10人集まり、新年会を企画して、120人が参加しました。内容は、クイズ大会、宝探し、カレーパーティ、冬の縁日でした。
- 子どもなりに役割を担い、想像力を働かせるのはうまくいきました。社長役の子どもは年下の子に気遣いするなど、頼もしくなってきました。
- 子どもたちは、大人が計画するより子どもたちのことを、ずっと考えていることがわかりました。「1年生は歯が生え換わる人が多いから硬いお菓子は買わない」など、大人が思いもつかない意見が出ました。



金沢市立三和児童館（石川県金沢市）

### 【おいしいよ農園：第1弾 田植え】

苗を植える型枠を転がしたくて子どもは順番待ちです。しかし、型枠通りに苗が植えられることはなく花畑の様に苗が植わっていました。

### 【おいしいよ農園：第2弾 五郎島金時の苗植え】

さつまいも畑は、砂地でフカフカ裸足になると砂が冷たくて気持ちよくて楽しくサツマイモの苗を植えました。

長さ110メートルの芋畑、さつまいもの苗を植えた後は、まだ苗が植えていない畑でおもいきりかけっこをしました。みんな笑顔になりました。

砂地の大きなさつまいも畑で一日、砂遊びができればと思い、連携団体の方に相談しました。返事を頂く前においしいよ農園で砂遊び大会や運動会の話し合いを進めてしまいましたが実現できませんでした。

砂場で運動会をするなど、おいしいよ農園で役員が内容を考えて準備を進めていました。何とか実現できる方法はないか考えて連携団体に相談した結果、脱穀と田んぼ遊びを開催する事にしました。

おいしいよ農園企画と地域の連携で、より連携が広がり少しずつですが地域で顔見知りも増えてきていました。



### 【おいしいよ農園：第3弾 スイカの収穫】

スイカの収穫の仕方やスイカの甘味の見分け方をレクチャーしてもらいました。スイカはたたいて音を聞き分けます。

- ・低い音は中身が詰まっている。
- ・高い音は少しスがあるが甘い。
- ・高く売れるには中身が詰まっている物です。



### 【美味しいよ農園：第4弾 稲刈り】

秋晴れの中、汗を流して最後まで稲刈りを頑張りました。

鎌の使い方も指導して頂き親子で安全に作業ができました。

### 【今後のおいしいよ農園主催行事】

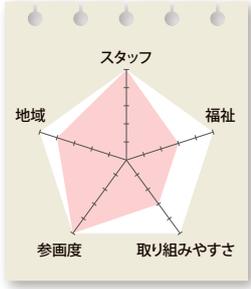
- ・米の脱穀作業観察と田んぼで泥遊び
  - ・販売用紙袋準備と新米試食会
  - ・米の精米と袋詰め
  - ・文化祭での販売と舞台発表
  - ・収穫祭
- などです

※上記企画は「おいしいよ農園のスケジュールの写真」を参照してください。

# 26 TV 番組 撮影 クルマ 体験 ～ 撮影 ごっこ を し て み よ う ～

## ▶ グループ 作業 で 多様 な 力 が 育つ

撮影、取材、編集等をグループ作業で行う中で、役割分担の仕方、責任感、団結力、助け合いの精神など、生きていく上で必要となる様々な力を身につけることができるプログラムです。また、YouTubeやSNSに投稿する上での注意点やリスクなども同時に学ぶことができます。



## ねらい

- 撮影を通し、チームとして活動する中で、各役割分担の**責任感や団結力、チームワーク**などを築く。
- 子どもたちの活動を**子どもたちの目線(感性)**でとらえ、記録し表現する。
- 目的を持った撮影を行なうことで、**物事を集中してとらえ、必要な情報をまとめる力**をつける。
- 映像作品づくりを通して仲間づくりや協調性、団結力など**集団生活で必要な力**を身につける。
- 多くの人、出来事、**本物(プロ)**に出逢う**機会**をつくる
- **他者や他者の気持ち、自分、自分のやるべき役割**に気づかせる。

## 実施条件

対象年齢	小学4年～中学3年(高校生も可能)
参加する人数の目安	10人前後(機材の数による)
必要なスタッフ数	子ども10人前後に対して1～2名
設備/環境	特になし
実施時期	いつでも可 <当館では通年の活動で年間で24回実施> カメラでの撮影方法、パソコンを使っての編集、インタビューなどのしゃべる事といった基本技術を習得し、習得した技術を使っての館のPRビデオづくり、番組の収録を行うといった作業を1つの流れとすると、最低でも5回～6回程度の活動は必要である。実施する時期に制限はないが、道具がない場合や、地域や外部機関との連携が必要な場合は早い時期から動き出し、十分な準備をしてから活動に移るのが望ましい。
備品/道具	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ビデオカメラ(30,000程度～)</li> <li>●マイク(2,000円程度～)</li> <li>●三脚(2,000円程度～)</li> <li>●編集機材(パソコン等)</li> <li>●編集ソフト(5,000円～10,000円程度)</li> </ul>

●DVD-R（10枚 1,000円程度～）

短時間の作品づくりは、スマートフォンやデジタルカメラ等も可能で、導入としては取り組みやすい。スマートフォンで撮ったものをパソコンで編集することも可能。

総予算 約45,000円+パソコンの費用

## 事前準備

子どもたちが「その気」になれるような環境づくりを行います。

- 子どもたち自身で、撮影のテーマや詳細などを決め、スタッフ等（援助者）は、子どもたちの、「したい」「やってみたい」をできるだけ実現できるように支援します。
- メディアに関係する仕事をしている方（プロ）ならではのすごさ、かっこよさにふれる機会をつくり、子どもたちのモチベーションを高めます。

例) <<TV局に協力してもらう>>

TV局を見学させてもらうなど、番組制作の裏側を見るだけでも、1回のプログラムとして楽しいものになります。一般向けにスタジオ見学を実施しているTV局もあります。また、来館している子どもの保護者や関係者、ボランティアで関わってくださる方などの中に、TV局関係者がいることもあるので、普段から多様な人に、自分たちのやりたいことを話しておくとういでしょう。

## 進め方

1回2～3時間程度の枠の中で、計6回程度の時間をかけ、番組作りの基本を学びます。

### <<ステップ1>> 撮影方法を学ぶ



### <<ステップ2>> インタビューやリポートの方法を学ぶ



### 《ステップ3》 編集を学ぶ

PC操作  
を学ぶ

映像を  
取込む

映像を  
編集

作品  
完成



## ポイント

- 作品をつくっていく中で、子どもたちが目標に向かい、持っている力を発揮する機会をつくるよう心がけます。
- 共同作業や集団活動が、子どもたちの様々な気づきにつながるよう支援します。
- 作品をつくっていく中で、子どもたちが自分の考えや意見をみんなに伝える体験ができるよう支援します。
- 子どもたちが、他の人の話や意見を聞く（認める）体験をしたり、グループとしての折合いをつけ作品をつくりあげていく体験ができるよう援助します。
- 撮影NGの「もの」や「人」が映らないよう指導することが大切です。また、撮影される人が嫌な思いをすることがないように挨拶や言葉づかい、対応に気をつけて行うよう指導します。
- 活動内容によっては、子どもたちが消極的になり、活動が進まないことがあります（取材対象に興味を持てなかったり、得意分野ではない係を担うことになったりしたときなど）。そんなときは、スタッフが取材対象の魅力に気付くよう語りかけるようにします。
- 子ども同士でやりたいことがぶつかり、揉めることもあります。子ども同士が十分に話し合い、納得したうえで先に進むことを大切にするのは前提ですが、すべての係が機能することでプログラムや番組作成が進むことなどを、スタッフが説明することも重要です。

## 発展



出来上がった作品をYouTubeなどで発信することもできます。その際、YouTube やSNSに投稿する上での危険性についても、子どもたちが学べるよう配慮します。



児童館の紹介VTRやコマーシャルなどをつくることもできます。



撮影活動だけではなく、学んだスキルを活かし、イベントでの司会・進行、映像の撮影や映画祭、ラジオ番組制作など、活動を通して得た「伝える（表現する）」という経験を、別の活動に発展させることができます。



スタッフが作業したほうが早いことであっても、「子どもたちにできること」を増やすようにすると、より有意義な活動になります。

例) 取材依頼や活動への協力依頼における交渉などを子ども達自身が対象者へ行う。



### 安全への配慮

- ちまたに溢れる多くの情報の中には、誤ったものや反社会的なもの、他を誹謗中傷したものなど、健全育成上不適切なものも多々あります。また、音楽や映像には様々な権利が発生します。したがって、メディア遊びを行う中で「あまたの情報の中から正しいものを選び取り、且つ正しく使う」といった力を育てることが大切です。
- 撮影に夢中になり、周りが見えなくなると、道路に飛び出したり、子どもたち同士が衝突することがあるため、安全には充分注意して撮影するよう心がけます。
- 編集にあたり、使用する音楽などには著作権等があるため、著作権フリーのものを探すなど、権利関係でトラブルが起きないように、スタッフが細心の注意を払うようにします。

### 子どもの主体的な 取り組みの視点



映像作品や番組づくりを行う際には、大きなテーマや最低限のルール(完成目標やその日の達成度、タイムスケジュール)は、共有しますが、できるだけ子どもたちが主体的、積極的に関わって目標を実現する為に話し合う時間を多く作ります。話し合いには必要以上に干渉せず、子どもたちが、「やってみたいこと」「やりたいこと」を自由な発想で活動できるように環境を整え、出来ないことは出来る子が助けるように支援していきます。この事により、子どもたちは自分たちで決めた明確な目標に向かって、役割・責任・協力など、活動に必要なことを考え始め、積極的に参画していきます。また、長く関われば関わるほど個々の力を発揮し、責任感を持って、子どもたちそれぞれの良さが引き出され参画度が増すと考えられます。

プログラム  
アドバイザー

- 福岡県立中央児童会館 あいくる(福岡市) 副館長 片本 仁  
諫山大輔  
堤 博之



- エントリークラスのビデオカメラだと、外部入力できるマイクやイヤホンの端子が付いてない事の方が多いようです（必要最低限の機能に簡素化されているため）。
- 無料の動画編集ソフトでは、使用期間や編集機能に制限がかかっている場合があるため、有料のソフトを購入した方が安心して作業ができると感じました。
- ビデオカメラよりも、デジタルカメラの方が扱いやすいので、写真素材を集めたスライドショーを作る等の制作から始められるとよいと思いました。
- 当館では3月に卒業・卒園する子ども向けのプランとして、将来の自分に向けたメッセージビデオを作成し、配布する予定で次の展開を考えています。
- 必要機材の購入や編集ソフトの使用など、活動に入るまでのハードルをいかに下げられるかが大きな鍵となると感じました。



新潟県立こども自然王国（新潟県柏崎市）



## 映像撮影

### 撮影してみよう

映像を見た人に、その様子が、簡潔でわかりやすく、伝わるように、重要なポイントをおさえて撮影します。

「よい映像」というのは、見ていて安定している見やすい映像のことをいいます。「安定した映像」というのは、映っている人物や風景の映像がフラフラとブレないことです。編集のことも考えて、長すぎず、短かすぎないように撮影しましょう。

準備物 ビデオカメラ マイク 三脚 イヤホン ストップウォッチ

### 上手に撮影するために

#### ① 機材（カメラ）の調節

動画撮影モードに切替え、持ちやすい状態（グリップベルトなど）に調整し、指でズーム操作がしやすい位置に準備をする。

#### ② 撮影の姿勢・姿勢

- ① 上体が安定するように少し足を開く
- ② 脇をしめるブレにくくする
- ③ しっかりと両手で持つ  
※片手持ちは“手ブレ”の原因

#### ③ 用具を活用

ブレない映像を撮影するには、三脚を利用しましょう。  
※カメラの水平に気をつけましょう。

#### ④ 三脚の代用を利用

三脚がない場合は、テーブルや木、電信柱、壁など、体を安定できるものに、ヒジをついたり、寄りかかったりして撮影する。



#### ⑤ 基本の撮影アングル

撮影では、自分の目の高さで撮影するのが基本。  
その他、撮影の対象により、高さを変えて撮影してみる

#### ⑥ 表情を撮る

- ・ 近くから撮っているからこそ「良い表情」が撮れる。
- ・ 楽しそうな顔を撮りましょう
- ・ がんばっている顔たくさんの表情を撮りましょう!!

#### ⑦ 景色を撮る

ポイントになる景色や建物、天気等はきちんと撮っておきましょう。  
※編集を行う時に場所を表す大事なカット（場面）になります

#### ⑧ 全体の様子を撮る

被写体の少し離れた場所から、人と景色を写し、どんな場所のどんな感じの様子なのかを撮る。  
※前、後ろ、横から、移動して撮る

#### ⑨ 撮影のルール

- ① 映るのが嫌な人もいます。撮影前に、必ず確認しましょう。
- ② 撮る事に集中しすぎて、周りの人に迷惑をかけないように注意。
- ③ 撮影後は、お礼を伝えましょう。

#### ◎ 注意点 ◎

- ・ 「手ブレ」を防ぐために、近付ける場所は、近づいて撮影する。  
※やたらズームを使わない。 ※遠くを撮るときは手ぶれに気をつけて
- ・ 太陽や、光の向きを考え「逆光」に注意する。人物等が黒く影になります。
- ・ マイクを使用時は、イヤホンをつけ、音声の管理をする。

**参考：**特別な撮影機材がそろわなくても、現在は安価なデジタルカメラやスマートフォン、簡単に撮れる撮影機材があるので活用してください



インタビュー・リポートってなに？

映像だけでは伝わりにくい状況等を伝える（レポート）や参加した方の声（感想など）を引き出して伝える（インタビュー）は紹介などの映像の中では大変重要なものです。

**上手に引き出し、正しく伝えましょう**

準備物 取材メモ 質問事項

インタビュー・リポートをしよう

① 聞く・伝える内容を考える

『5W(ダブル)1H(えいち)』

when (いつ)  
where (どこで)  
who (だれが)  
what (なにを)  
why (なぜ)  
How (どのように)  
を考える。

② 話す原稿をつくる

潤滑にインタビューができるように、内容をまとめ、話す為の原稿をつくれます。  
内容をメモすることを普段から心掛ける。

③ 撮影場所を決める

伝える内容が伝わりやすい周りの情景なども考え、レポーターが立つ位置について考える。  
また、撮影しやすい場所を選ぶ。  
周りの邪魔にならない場所を選ぶ。

④ 聞く内容を伝える

突然、質問しても相手は戸惑ってしまいます。インタビューの目的や内容を伝え、心の準備をしてもらうことも大切。

⑤ リハーサルを行う

どのように進んでいくか理解してもらい、又相手の緊張をほぐす意味も込めて、練習してみる。マイクの音が入っているか、カメラが録画されるかなどの機材の確認もしておく。

⑥ 本番

録画ボタン（REC）を押して、撮影する。マイクのON/OFFを必ず確認する。マイクは相手側に近いほうの手に持つと、インタビューしやすい。  
※マイクをONにする事を忘れずにRecがまわって2～3秒してからしゃべりだす（前後2～3秒）

⑦ 聴き上手になろう

楽しく会話を進めるためには、リアクションが大切です。

肯定するー「そう」「フムフム」「ふーん」「ハイハイ」「なるほど」「そうなんだ」等  
先を聞くー「それで？」「それから？」「どうしたの？」「どういうこと？」等  
深く聞くー「どうして？」「どうなってるの？」「（あなたは）どう思うの？」等  
賛同するー「そうだよね」「いいんじゃない」「私もそう思う」等  
驚くー「へー！！」「本当ー！？」「信じられない！」等  
ほめるー「すごいね」「たいしたものだ」「やるねえ」「えらい！」等  
祝福ー「よかったね」「おめでとう」等  
※「聞き上手」で、相手から話を「引き出し上手」になりましょう！

⑨ 感謝を伝える

インタビューに答えてくれる人は、わざわざ時間をとってくれています。「ありがとうございました」と、お礼の言葉は必ず伝えましょう。

◎ 注意点◎

- ・マイクのON/OFFの確認は絶対！後から、気が付いても、後戻りできない場合もたくさんあります！
- ・相手に、礼儀正しく。必要以上に時間をかけすぎずに、短時間でスムーズに行う





## 映像編集

### 編集ってなんだろう？

見る人に、よりわかりやすく表現するために必要な部分だけを残し、不要なものを削除し、つなぎ合わせ、文字や音楽、効果などをつけて、決められた時間内に収めて1つの作品にすることです。

準備物 パソコン 編集ソフト 使用可能な音楽 マイク イヤホン

### 編集ってどうやってするの？

#### ① 機器同士をつなぐ

撮影機器とパソコンをつなぐなど、映像を取り込む準備をする  
(※機材によって方法が違う為確認)

#### ② 映像を取り込む

撮影した映像(素材)の中から、使えそうなものを選びパソコンへ取込む(キャプチャ)

#### ③ 映像をカット

取り込んだ映像の必要な部分だけを切り取って残す(カット)

#### ④ 映像を並べる

伝えたいものが、よりわかりやすい順番になるようにカットした映像を並べる

#### ⑤ 効果などをつける

場面と場面を切り替える時の効果をつけ境目をわかりやすくする(エフェクト)

#### ⑥ 文字などを入れる

タイトルや説明などの必要な文字を差し込み、映像に情報を補足する

#### ⑦ 音や声などを調整

全体の音の大きさの調節する  
BGM(音楽)をいれる  
不要な個所の声や音を消す  
ナレーションをつける

#### ⑧ 確認作業

映像の長さ、映像と音のズレなどがないか確認し調整する。  
必要に応じて、映像の形式を変換する

#### ⑨ 作品のできあがり

できあがった作品はいろんなところへ発信する

#### ◎ 注意点 ◎

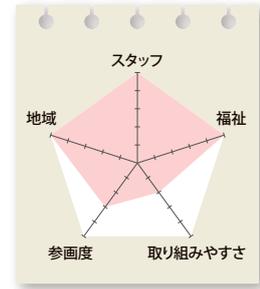
- ① 編集用のソフトは有料のもの、無料のものがあります。  
条件はあるものの無料で使えるものもあるようです。
- ② BGMで使う音楽は著作権があるものもある為取り扱いには要注意。  
著作権フリーの曲や効果音もあるのでそれを利用しましょう。
- ③ 撮影する場合、映り込む人には必ず承諾を得ましょう。
- ④ 映像のファイルには様々な形式のファイルがあります。



## 27 多文化交流クッキング ～「おいしい」体験は地域を繋ぐ～

### ▶ 「食」からはじめる異文化理解が人や地域を繋ぐ

その国の食を味わうことから外国を知ろうという取り組みです。地域に住む外国出身保護者を講師に迎えます。子どもたちにとって未知の料理であっても、調理と会食の「おいしい」体験によって異文化理解が進み、それが人と人、人と地域を繋いでいきます。



### ねらい

- 地域に住む、外国から来た保護者とその子どもたちが、**自国の文化を誇りに思い**、その文化を維持したまま**地域の中にそれぞれの居場所**を見つけられるようにする。
- 地域が、外国から来た保護者とその子を受け入れ、その文化を尊重し、**地域の多様性**として認め合うようにする。
- 外国から来たことで問題を抱え、生きづらさを感じている場合には、問題部分ばかりに焦点を当てず、広い視野で**異文化理解の働きかけから問題改善**の糸口を探る。
- 外国の文化を紹介する場合、「食」からはじめると受け入れてもらいやすい。今まで食べたことがない料理や調理法がいつもと違う料理であっても、むしろ、珍しい料理ほど地域に住む一般の方にも興味を持ってもらえる。「おいしい」ものであれば、その満足感から、その国を知りたい気持ちが沸き、それを活かし、地域と地域、そこに住む人と人を繋ぐことができる。

### 実施条件

対象年齢	小学生以上
参加する人数の目安	20人前後（親子参加20組程度）
必要なスタッフ数	5名。児童5名を1班として4人＋司会進行・緊急対応に1人（班付きはボランティアでも可能）親子参加の場合も同様で5名
設備/環境	ガス台、水道を備えた調理室が望ましい。 ●熱源（コンロ、電熱器、オーブントースター、ホットプレート等）があれば遊戯室等でも可能だが、作る料理が限られる。
実施時期	どの時期でも実施可能
備品/道具	●参加費は1人300円 1家族1,000円以内に収まるように調整する。 ●調理内容により必要な調理器具が違うが、ホットプレート、オーブントースターを購入すれば、それぞれ

1万～1万5千円程度。班に1台必要。ただし、必ずしも購入する必要はなく、当館の場合、他施設から借りて来ている。

総予算 約20,000円（材料費のみ、調理器具購入は別途）

## 事前準備

- まず最初に、保護者と普段家で食べている母国の料理について、丁寧に事前打ち合わせを行います。保護者が作りたい料理と、児童館で作れる料理は必ずしも一致しないので、この打ち合わせが非常に重要なものとなります。
  - ・打ち合わせの中で、子どもと一緒にできない調理もあることを保護者に納得していただきましょう。例えば、揚げ物は事前に揚げておく方がよいこと、児童館で出来るのは、材料を切る、混ぜ合わせる、こねる、茹でる、煮る、焼くなどであることを保護者に伝えます。
  - ・材料については、1人当たり300円、家族で1,000円など、上限を設けてその範囲でできるようにしましょう。特殊な材料を使う料理は、日本の代替え品で作れるか、よく確認しましょう。出身国から送ってもらった高価な原材料でなければ作れないものは紹介に留めるようにしましょう。
  - ・講師を務める保護者には、当日、あるいは前日の打ち合わせで、必要な材料の量、支払方法など明記したメモを渡しましょう。可能ならばスタッフが買い出しに同行しましょう。分量の誤解や金銭トラブルが防げます。
- 事前の参加者募集の段階で、国名と料理の名前をしっかりと宣伝しましょう。例えば「本場中国の皮から作る水餃子」のように、興味を持ってもらえる謳い文句を考えるとアピールできます。
- 食育活動として、以下の点には特に配慮しましょう。
  - ・事故防止のために、食物アレルギーの児童を把握しておきましょう。同時に、募集の段階では、チラシなどで使用食材を明記しておきましょう。
  - ・国際理解の体験活動においては、宗教上の理由から食べられない食材があることについても対応が必要です。具体的には、イスラム教の児童に配慮して、豚汁を鶏肉で作るなどの例があります。
  - ・調理前に、調理器具の安全な取り扱い方の指導を行います。包丁で切る時は猫の手で食材を押さえるなど、子どもに理解し易い言葉で伝えましょう。
  - ・万一のケガには、応急処置ができるようあらかじめ救急セットを用意しておきましょう。



## 進め方

- 1 まず、保護者を先生役として紹介します。  
「〇〇さんのおかあさんは、中国から来ました。今日は、中国の水餃子の作り方を教えてもらいましょう」のように親しみを持ってもらえる言い方で紹介します。
- 2 調理にあたっては、衛生管理を怠らないようにしましょう。注意したいのは、身支度、手洗い、調理器具の消毒、鮮度・賞味期限、十分な加熱などです。
- 3 一般の参加者になじみの少ない料理や素材・調理法が登場することもあります。このため、調理では、どこがポイントなのか参加者に分かりやすく示します。
- 4 講師の保護者が、非常に上手にできて見せ場となる工程がある場合は、そこを参加者によく見てもらえるように工夫しましょう。水餃子では、皮作りで粉をまとめるところで、見る人から歓声上がるくらい見事な技でした。この名人芸を見もらうために、粉に水を入れる段階から参加者に講師のすぐ近くに集まるよう声掛けをしました。
- 5 調理系の活動は、おいしく食べられると満足度が高まります。温かいうちがおいしい料理は、みんなが一斉に食べることにはあまりこだわらず、おいしいうちにできたところから食べられるよう、あらかじめ段取りをしておきましょう。
- 6 調理時間は1時間を上限とし、もっとかかるようならば下準備をスタッフがします。また、オープン料理の場合は、焼けるのを待っている間、別の活動をするなど、工夫しましょう。



でき上がったら、さっそく  
「いただきまあ〜す」



## ポイント

- 必ず、子どもが調理に参加できる場面を作りましょう。皮から作る水餃子の場合は、具材を混ぜることや、小麦粉をこねて皮を作る工程ならば幼児でも参加できました。事前に、講師の保護者と、ボランティアとで、大量の野菜のみじん切りなどをしており、混ぜ合わせる工程は子どもに任せるとよいでしょう。
- 調理の場合は、家族単位で保護者や地域の方が一緒に入るとよいでしょう。そのため、最初から「親子参加行事」として参加者を募集する方法も考慮してみましょう。
- ともすると、子どもは一番決めたがります。そうではなく、「どちらも」、「みんな」、というように言葉掛けをしたいものです。例えば、水餃子の場合、焼き餃子とどちらがおいしいかではなく、どちらもおいしいとか、新しい食べ方を教わった、というように多様性を是とする展開としましょう。
- 調理の行程を日本語でうまく説明できない保護者の場合は、スタッフの支援が必要です。ただし、あくまで“先生”として活躍できるように心掛けます。「固さは耳たぶくらいでしょうか、先生」などの様に、「そうですね」で答えられる質問を上手に投げ、ポイントを示しつつ保護者を立てることに徹しましょう。
- 特に学童期の食育については、以下のような特徴を生かせることを視野に入れて活動を展開しましょう。
  - ・“作りたい”“食べたい”“誰かに伝えたい”という思いが強い時期であること。
  - ・もっと知りたい、人に伝えたいという思いが、食の世界の広がりにつながる。
  - ・外国の人々など、様々な食文化に興味関心を持つ時期であること。
  - ・作り方を知っている子どもが、他の子に伝えることで、誇らしい気持ちを持つことができます。このような体験は、自己肯定感を高めます。
  - ・食体験を通じて人との関わりを持ち、「生きる力」を培うこと。

## 発展



### <クッキング前後の発展>

調理活動を通して、その国の文化、風習、言葉などを知ることができるのも、この活動の大きな利点で、それらを活かして展開することもできます。水餃子の活動の時には、男性の保護者や男子中学生が参加しましたが、その時に講師から、「中国では男性が料理するのは普通です。日本のように『男子厨房に入らず』はありません」との話がありました。また、「おいしいは中国語で何というの」という質問が子どもから出て、「『ハオチー』と言います」との答えに全員が「ハオチー」と唱和する場面がありました。活動の中で、子どもたちの間に、中国について興味が自然と湧いて来たのを感じました。活動後、参加者からのリクエストがあったため、中国の家庭料理の写真や観光地の写真を集めて掲示しています。

教わった成果を載せた食育新聞などを作成して、掲示することで、日程が合わずに参加できなかった「潜在的参加希望者」の興味を惹くことができます。日本国内だけでも、地域の食文化の違いがあることに気づき、異文化は身近かにもあることを知ることができます。

国際的な感覚を培える活動なので、中高生の興味を引き、活動に参加してもらうことができます。異文化理解に対する地域の認識を変えて行くためにも、中高生ボランティアを上手く巻き込んで展開するとよいでしょう。

・ 高校生による国際理解講座

地域の高校生が外国に研修旅行などに行った場合、児童館に講師として招いて体験談を話してもらいます。

・ 国際理解教育プレゼンテーションコンテスト参加

地域出身の高校生が別々の高校に進学後も児童館に集い、小学生に対する国際理解講座を開きました。また、その成果をまとめた発表が、県の国際理解教育プレゼンテーションコンテストで特別賞を受賞、燕市教育委員会教育長特別賞も受けました。



自分の児童館に留まらず、他の児童館や小学校の総合的な学習の時間、中学の異文化理解講座などにスタッフを派遣し、異文化理解の裾野を広げる活動を行えます。

＜調理ができない状況がある場合＞

児童館の状況や、保護者に調理経験があまり無いなどの理由で調理が難しい場合には、出身国の特別な料理を写真で紹介する活動が考えられます。例えば、クリスマスやお正月のご馳走などです。お正月の場合は、お雑煮など、地域の郷土料理も一緒に並べて紹介することで活動が広がります。

保護者主体の活動として、読み聞かせや子どもの歌なども有効です。ポイントは、保護者に先生役を務めてもらうことです。スタッフが生徒役を演じて、保護者を一段立てる感じで進めます。

保護者が、小さい頃に出身国で遊んだ遊びを一緒にすることでも異文化理解活動となります。この活動では、必ず事前に一回以上スタッフと一緒に遊んでみて、どこが楽しいポイントなのか確認しておくとういでしょう。

-  外国の遊びで、日本のじゃんけんや鬼ごっこなどとよく似ているが、掛け声や微妙なルールが違う遊びを活動として取り入れることができます。似た遊びを知っているため低学年の児童でも受け入れ易いからです。また、高学年や中高生になると、その微妙な違いがどこから来るか考えさせることが異文化理解に繋がります。
-  外国から来た保護者や児童を受け入れるに当たり、習慣の違いやいわゆる常識が違うことで戸惑うことがあります。違っていても構わない、違ってからおもしろい、と発想を変える起点に、料理はとても有効です。未知のおいしい料理体験は、戸惑いを吹き飛ばす力があります。
-  高校生からの提案の活動として、中国体験の報告会を行いました。高校生になると自分が外国に行く機会もあり、児童館での報告会を完全に主体的に行えます。小学生が主体的にこの活動を行うのは難しいですが、中学生は、小学生の班にボランティアとして加わることで、親子参加としなくても活動を行うことができます。

## 参考

### ●今回の事業を行う起点となった事例について

地域に住むある児童が、小学校入学を機に大変荒れて、母親の言うことを全く聞かなくなり、毎日のように学校から呼び出される状況がありました。このため、母親に聞き取りを行なったところ、次のような状況がわかりました。

母親は中国出身で、入学準備の頃から、日本の習慣等でわからないことが多々ありました。このため、親戚から「児童が肩身の狭い思いをする」という趣旨の発言があり、その場に児童もいたという話でした。

ある日のお迎え時に、母親が「ありがとうございます」と言うのを聞き付けた同じ学年の子に「ごじゃる」などとからかわれました。児童にとって大好きな母親なのに、周囲の人が蔑視していることを感じてやるせない思いになったのでしょう。それが反抗的な態度となって表れているのではないかと思われました。

児童からの聞き取りの中に、母親が料理上手で毎日の食卓に手の込んだ料理が並ぶのを児童がとても嬉しく思っていること、また児童は母親の料理上手な面を少し自慢に思っていることが伺えました。

小中川児童館では、以前から地域の方を講師に招いて、子どもたちにいろいろなことを教えてもらう活動を行った経験が数多くあり、スタッフにもそのノウハウがありました。これらの条件から、目の前にいる児童と母親のために児童館として何ができるかを模索、それが繋がった結果の活動がこの「多文化クッキング」なのです。同様の問題を抱えた他地域の児童館への処方箋として活用できるのではないのでしょうか。

なお、母子関係はこの活動の後、劇的に改善されました。また、「ごじゃ

る」とからかっていた子は、水餃子のおいしさに感激して、児童の母親を料理の先生とみなすようになりました。さらに、当日、参加者のみんながこの母子を盛大にうらやましがったことから、児童が母親を見直したと聞いています。

### ！安全への配慮

- 身支度をきちんと整えましょう。エプロン、三角巾は必須です。必要に応じてマスク、ビニール手袋なども用意します。
- 手洗い、消毒は徹底しましょう。
- 食品の鮮度、賞味期限は事前にチェックしましょう。
- 調理では、十分な加熱を心掛けましょう。

### 子どもの主体的な 取り組みの視点



このプログラムにおいては、外国から来た親を持つ子の役割が大きいです。家での得意料理や保護者の出身国の名物料理を紹介したり、保護者が、日本語が不自由な場合、通訳を務めたりもします。「おかあさんのすごいところを地域の人に知ってもらおう」との声掛けで保護者自身も気付かなかった地域へのアピールポイントを考えたり、それを指摘して中心的な役割を果たします。

また、参加する子どもたちについては、クッキングの時に疑問に思ったことを上手に掘り上げると自主的な活動に繋がられます。「中国のお正月料理は？」から中国だけでなく他県出身の保護者から実家の正月料理写真を集め、掲示しました。同様の手法で中国のレストラン料理写真も紹介しました。「おいしいってなんて言うの？」から中国語講座への展開もありました。ポイントは、子どもの疑問に対して誠実に応えることです。

#### ・発展した活動：中高生が教える異文化理解講座

地域の中高生が、海外に行く機会として、市の派遣事業、学校の海外研修、県の高校生代表団訪問等があります。それらの事業が計画され、参加者が決まった段階からアプローチをし、帰国後の児童館での報告会を打診することで自発的な活動へと繋げることができます。児童館は、中高生が報告会をする場を整え、小学生を集めます。話を聞いた小学生は、いつかは自分もという気持ちを持って地域で育っていき、次の活動へと繋がっていきます。

### プログラム アドバイザー

- 小中川児童館（新潟県燕市） 館長 大橋美樹  
酒井啓子
- 児童研修館「こどもの森」（新潟県燕市） 神保一江



- 食育活動、地域活動、利用者の多様性、配慮が必要な児童、児童館ができる家庭への支援など、児童館ならではの事例と感じました。
- 児童館活動の幅広さ、実現の可能性を再認識することができました。

.....

**東部児童館**（愛知県東郷町）

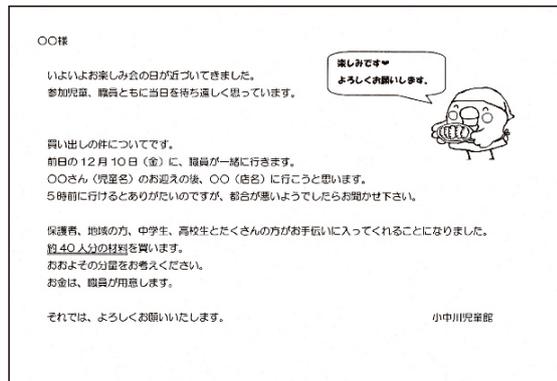
## 実施資料



粉をまとめる工程



小麦粉をこねて皮を作る工程



講師に渡す手紙



具材を混ぜ合わせる工程



中国の料理の写真



中国のお正月料理から発展させ、日本の他の地域から来た保護者からも情報を募った食育新聞

## 実施資料



保護者に英語の歌と手遊びを教えてもらう



県の研修で中国に行って来た高校生ボランティアによる異文化理解講座

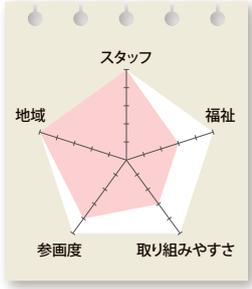


市内他施設にてインドネシア料理の補佐をするスタッフ

# 28 地域こども工房 ～屋外での木工作～

## ▶ 大人と子どもがものづくりを通してふれあう

台東区の8児童館が近隣の公園などを活用し、ものづくり・空間づくりを楽しむ行事です。子どもたちの発想や思いを大切にしながら、地域の大人との交流も図っています。共通の趣旨のもと、各児童館が別々の日程を組んで実施するため、必要な道具などを共有することが可能です。



### ねらい

- 色々な素材を使った自由なものづくりを通して、大人も子どもも共にふれあいながら遊びあう場とする。
- 公園という開かれた場所で行うことで、地域の様々な人々に児童館活動を周知する機会とする。
- 大人がこどもの遊びについて考えるきっかけにする。

### 実施条件

対象年齢	乳幼児親子から誰でも ※小学生以上は子どもだけの参加も可
参加する人数の目安	何人でも
必要なスタッフ数	なるべく大人数
設備/環境	地域の中の広い場所
実施時期	屋外なので春や秋が望ましい
備品/道具	児童館が用意するもの ● 工具 (なるべくたくさん) ● 様々な素材 (木の実、革、毛糸等) ● 文房具類 ● 木材 ● 救急セット ● 参加者用リボン ● ブルーシート ● 工具使用法の看板 ● テント (できれば) ● 木エイス ● 座卓 参加者に用意してもらうもの ● 汚れても良い服装、つま先のある靴、帽子 ● 水筒 ● タオル ● 作品を入れる袋
総予算	約 50,000円 (工具類、木エイスは全館で共有)

 事前準備

- 参加する全館の担当で年度初めに会議を行い、趣旨や日程などの調整・確認を行います。  
\*特に各館の近隣小学校や地域行事との兼ね合いを話し合います。
- 民生委員、児童委員協議会へ全館の日程を報告します。(当日の各地域の担当お手伝いの方が決定します)
- 各館から、保護者、地域の青少年委員、町会、学校PTA、近隣中学ボランティア部などの協力者へ当日のお手伝いの依頼を行います。
- 手続きや案内文などを作成します。
  - ・各館で使用する公園への占有申請など
  - ・近隣への案内文(周知文)
  - ・ポスター、チラシ
  - ・アンケート
- 木材調達の手配をします。
  - ・全館が頂いている材木店は全館で協力します。
  - ・その他各館で必要な材料の手配(例:革・自然素材他)

\*材料はほとんどが無償提供です。趣旨を理解していただいた近隣材木店より廃材を頂いたり、店舗などでの不用品などを頂いています。各館が新たなつながりを毎回開拓しています。
- 全館共通の工具箱と物品の確認をします。日程の近い児童館同士で行います。(参考資料①物品管理表を参照)
- 担当ごとにマニュアルシートを作成します。
- 全体スケジュールを作成します。
- 実施日の10日前を目安に、各コーナーの打ち合わせと全体の打ち合わせを行います。ボランティアスタッフに行事の趣旨、注意事項、流れを説明し、会議を行います。
- 実施日の20日前頃には近隣掲示板や児童館などにポスターを掲示したり、10日前には、近隣にチラシをポスティングします。
- 前日に、搬入物品を搬入用の車両に積み込みます。
- 事後用の各コーナー反省シートとお手伝い頂いた方々へのお礼状を作成します。

## 進め方



※スタッフの細かい全体スケジュール例については、参考資料③当日スタッフスケジュールを参照してください。

①「参考資料②公園配置図」に基づいて会場準備をします。

- ブルーシート優先して設置し、活動場所を確定
- テント配置
- 看板、横断幕、のぼり設置
- その他の会場準備

②ボランティアを含めた全体打ち合わせを行います。



③受付・イベントを開始します。



※お昼ごろに、コーナーごとで昼休憩を回します。

④午後のボランティアの打ち合わせを行います。

⑤イベントの終了30分くらいから、材料を含め、規模を縮小し始めます。

⑥終了合図を行い、片付けを開始します。

⑦物品を車両やリヤカーで搬出します。



← ↑ 参加者の作品

⑧公園の現状復帰を行います。

- ・トイレ清掃
- ・釘や木くずの掃除

⑨公園内の最終確認を行います。

### 開催後

①使用した工具やブルーシートは、他館も使用するため速やかに掃除、点検を行います。

②コーナーごとに反省シートを作成します。

③お礼状を作成し、配布します。

④近隣掲示板のポスターを撤去します。



## ポイント

事前のスタッフ会議を含め、  
参加者と接するスタッフに伝える際のポイント  
【現場で気を付けること】

- スタッフは、参加者自身が楽しく物づくりができるよう見守り、必要に応じてサポートを行います。
- 子ども自身の「やりたい」「作りたい」「こうしたい」の自由な発想や気持ちを大切にします。大人（スタッフやボランティア）が「出来ない」「こうしよう」と手や口を出しすぎないようにします。
- 何を作ったらよいかかわからない参加者のために見本がありますが、そのまま真似るのではなく参加者自身が創意工夫をできるような声掛けをします。
- 参加者は受付にて腕にリボンをつけています。付けていない方がいたら声を掛けてください。

- 置きっぱなしの工具などは、こまめに各工具箱に戻し、管理してください。また工具を持ったまま、歩き回らないように声を掛けてください。

- 道具の使い方に関しては、ある程度教えられているようにしておきます。違った使い方をしている方には、使い方の看板などを見てもらいながらアドバイスしてください。

### 【トラブル対応】

- 公園は公共の場なので様々な人が出入りします。酒気帯びや不審な動きの方がいたら、自然な形で間に入り様子を見てください。本部スタッフがすぐに対応します。
- 占有許可は取っていますが、ふだんより多くの利用者でにぎわいます。クレームなど対応が困難な場合は本部で対応します。

\*親子で毎年楽しみにしている方も多いイベ

ントです。  
子どもたちの自由な発想で出来た作品はどれも個性的で、大人の目を引くものばかりです。

完成度を求める物ではなく、自由な物づくりに視点を置いています。その後児童館に来館して、続きを作ったり色を塗ったり継続した児童館利用にも繋がっています。



 各地域によって内容は違っています。工作がメインの児童館もあれば、公園を通常とは違う形（ロープを張ったり砂場にスライダーを作ったり）の冒険あそび場的要素を取り入れる児童館もあり、大型ペイントを取り入れる児童館もあります。公園という場所を使い、幅広いバリエーションの活動ができるので、その年によって変えることも可能です。

 地域の方々の協力が不可欠ですが、人材によっては新たな展開が期待されます。（例：工務店や大工さんがいたら本格的に教えてもらうコーナー、丸太切りコーナー等）

### 安全への配慮

- 工具については看板などを用い、使い方を伝えると共に、注意事項（振り回さない・投げない・元の場所に戻す等）を伝えます。
- 工具は使い方によってはケガに繋がります。使い方に関してはこまめに声を掛けてください。
- 最終的に工具の数の確認をします。一つでも無くならないように注意してください（開かれた場所のため、持ち出されないように）
- 怪我や急病人が出た場合は必ず本部に連絡してください。なお、処置をした場合は事故簿に記入します。
- 当日は熱中症対策として児童館側でも多少の水分を用意しておきます。

## 子どもの主体的な 取り組みの視点



- ・公園という公の場で行うこと。また申し込み制ではないので、自分で足を運んで参加することが主体性（やりたい）に繋がっている。
- ・子どもが自主的に参加することで、保護者も一緒に参加することにも繋がっている。
- ・この行事は、子どもの自由な発想ややりたいを大切にすることを目的にしているため、スタッフ（ボランティア含む）は作品の完成度を高めるための口出しや手出しは、なるべくしないようにしている。（釘が出ている等、危険を伴う場合は別）
- ・完成度の高い見本を置くと、同じものを作りたくなるため、見本はなるべく置かないようにしている。

プログラム  
アドバイザー

● 松が谷児童館（東京都台東区） 館長 水野かおり

下町こども工房 工具・道具一覧および管理表(H29)

事前チェックを行った日	29年6月20日	チェックした人	松 児	チェック後毒児へFAX *ないものがあれば、 送信後電話で毒児担 当者に速やかに連絡 を入れて下さい。	送信者名
事前チェックでなかった物品	*物品名・個数を記入してください。				
事後チェックを行った日	29年6月24日	チェックした人	松 児		送信者名
今回紛失、破損した物品	*物品名・個数を記入してください。				

工具名	個数	工具箱									
		①赤	②青	③黄	④黄緑	⑤ピンク	⑥水玉	⑦黒	⑧オレンジ	⑨水色	⑩薄紫
かなづち	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
きり	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
ファイルソー	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
スコヤ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
クランプ	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
くぎ抜き	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2
ペンチ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
ラジオペンチ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
木工やすり	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
金工やすり	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
ドレッサー(赤ヤスリ)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
木工用ボンド	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
くいぎり	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
工具箱/破損ないか	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

\*破損があったら修理をお願いします。

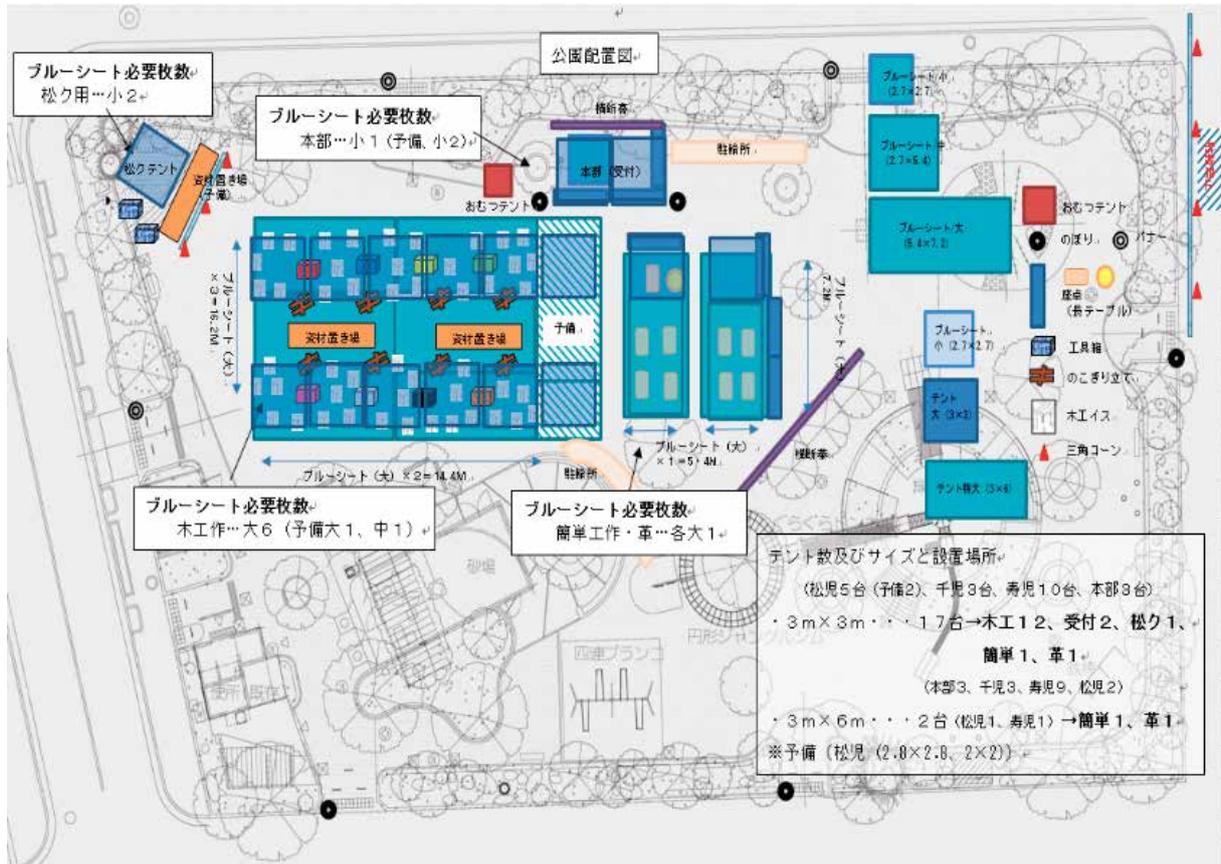
<b>緑衣装ケース</b> Zソー 23/23 スパイラルソー 6/6 パール 5/5 曲尺小 3/3 曲尺大 11/11 竹 1/1 柳刃のこ 2/2 8寸目 15/15	<b>工房NO. 1</b> ボンド 12/12 ボンド補充 1/1  <b>工房NO. 2</b> スコヤ ドレッサー替刃(中目) ドレッサー替刃(やすり目) Zソー替刃 14/14 のこぎり替刃 細工やすり平 2/6 細工やすり丸平 2/4 細工やすり角 2/5 細工やすり丸 2/6 細工やすり三角 2/6	<b>新しい工具NO. 3</b> ダンボールカッター カッター ガンタッカー のみ 2/7 小刀  <b>新しい工具NO. 4</b> ファイルソー プラスドライバー マイナスドライバー ミニプラスドライバー  <b>新しい工具NO. 5</b> スプリングクランプ 14/14 くいぎり ラジオペンチ ペンチ クランプ 5/5	<b>道具</b> 木工いす 57/57 ブルーシート大(特大倉) 8/16 ブルーシート中 4/9 ブルーシート小 9/18 ホース ホースリール たらい ハンドマグネット 2/2 ふるい 釘箱13~50 9/18 釘箱13~75 3/3 釘箱65~75 2/4 釘箱65~90 3/6 折れ釘入れ 8/8 ヒートン箱 1/1	<b>文具など</b> 紙すき道具(玉児保管) パナー 3/3 パナースタンド 3/3 横断幕 3/3 プラケースS 6/6 プラケースM 5/5 作業台 ノコギリ立 4/4 KURE5-56 屋内用敷き板
--	--	---	---	---

※補充用のクギは、19・20・25・30・38は1箱ずつ借りる。65・75・90は箱ではなく少量を借りる。

～以下の項目を確認してから返却をお願いします。～  
 工具の数、壊れていないかの確認     ブルーシートは使用后洗って返却     ボンドの補充  
 釘の補充、折れ釘をとる、釘の長さをそろえる、釘箱内のゴミ取り  
 工具のビニールテープが剥がれていたら貼り直す     老健号の使用後は清掃すること  
 ※メンテナンス後、不足のものがあつたら次回開催館に連絡するようこ！

参考資料②

公園配置図



参考資料③

当日スタッフスケジュール

プログラムの流れ	全体		受付		木工作				かんたん木工		福田さん	キッズレザ		クラブ保育	
	館長	館長携帯	トランシーバー	8:00~4:45	AMのみ	1:15~	館カメラ	8:00~4:45	松カカメラ	トランシーバー	北カカメラ	9:30~3:45	8:00~4:45	9:30~4:15	8:00~4:45
7:00	天候判断	天候判断													
8:30	公園10 館4 北1	老練指導員	館	公園	公園	公園	公園	公園	館	リアカー搬入	老練搬入	トイレ掃除	準備	レザ指指	9:30~
9:00	公園設置	準備	受付	準備	木工指指	準備	横断幕	8:30~9:50会室	準備						
10:00	打合せ	打合せ	打合せ	打合せ											
10:30	受付開始														
11:00															
11:30				休憩											
12:00			休憩												
12:30	午前ボラ終了	休憩		終了											
1:00	午後ボラ開始	休憩													
1:30															
2:00															
2:30															
3:00															
3:30	中小 午後ボラ終了	ボラ反省会													
4:00	終了 片付け	全体指指	受付	受付	受付	撤収指指	片付け	工具搬出指指	片付け	片付け	撤収指指	片付け	片付け	撤収指指	片付け
4:30	公園10 館3 北1	公園	公園	公園	公園	公園	公園	公園	公園	公園	公園	公園	公園	公園	公園
5:00	松見にて 反省会	反省会	反省会	反省会	反省会	反省会	反省会	反省会	反省会	反省会	反省会	反省会	反省会	反省会	反省会
5:15	終業	最終確認	▲閉門	終業	終業	終業	終業	終業	終業	終業	終業	終業	終業	終業	終業

参考資料④

宣伝チラシ (表・裏)

**台東区児童館合同行事**  
**松が谷児童館**  
**下町こども工房**  
 ~ギコギコトントン つくっちゃおう!!~

【日時】2017年6月24日(土) 午前10:30~午後4:00  
 【場所】入谷南公園 (台東区松が谷3-23-7) 雨天時は松が谷児童館内で行います

主 催・協 賛 先: 松が谷児童館 03-3841-6734

**台東区の児童館では**  
 平成8年から学校跡地や区内の公園を使って「下町こども工房」を行ってきました。この「下町こども工房」は、子供たちの思いや発想を大切に、いろいろな素材を使ってのづくり・空想づくりを楽しむ行事です。

**松が谷児童館では**  
 地域の皆さんのご協力のもと、子供たちのためにたくさんの木材を提供していただき、「木工」を中心としたものづくりを行います。子供たちに人気なプリントゲームや剣、自然素材などを使ったかんたん木工。そしてキッズレザプログラムとして筆を使った工作など、一日ものづくりを楽しむ「下町こども工房」です。ぜひあそびにきてください

**<入谷南公園 会場図>**

※お断りください。帽子・水筒を持ってきてください。おまけもたくさんあります。運動靴できてください。※作品を入れるための袋を持ってきてください。

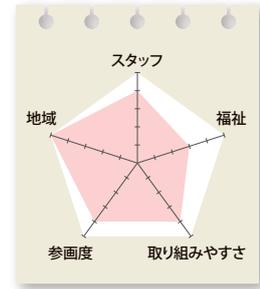
**今年度の開催一覧**

開催日	開催地	主催
★ 6月16日 (日)	松が谷児童館	松が谷児童館
★ 6月24日 (土)	入谷南公園	松が谷児童館
★ 6月25日 (日)	東横公園	台東児童館
★ 7月 9日 (日)	竹町公園	台東児童館
★ 11月11日 (土)	隅田公園	台東児童館
★ 11月12日 (日)	小島公園	台東児童館
★ 11月19日 (日)	駒形公園	台東児童館

## 29 児童館・こどもシティ ～就労体験型まつり～

### ▶ 仮想の街で働いて遊ぼう

子どもたちは、自らが考えた仮想の街で仕事を探し、働き、仮想通貨を得る体験をします。遊びを通して、働くことや社会の仕組みを学ぶことができる事業です。地域の子どもから大人までが一堂に会し、共に企画し、仮想の街を楽しむイベントで、中高生支援の取組にもなっています。



### ねらい

- 小学生、中高生、地域の大人の**遊び心を刺激**する。
- 小学生、中高生の**模擬社会体験の機会を創出**する。
- 小学生、中高生による**企画運営、ボランティア体験の機会**を提供する。
- 準備から本番へ向かうプロセスを重視し、子どもの意見を尊重するなかで、子どもが**自己実現**を図る。
- 小学生、中高生、地域の大人の**異年齢交流**を図る。
- 地域で子どもを育てる環境作りをすすめ、**地域ネットワークの構築**を図る。
- 遊びの持つ力が、**子どもを地域で健全に育てる力**となることを児童館が発信する。
- 地域で開催する新たな祭りの形式と仕組みを情報発信、児童館がコーディネートして各地域単位で地域住民主体の開催を推進する。
- 児童館のない地域に展開する。(例：八王子市は小学校70校に対して児童館は10館。市内を5つのブロック地域に分けて、2つの児童館で1ブロックの地域を担当。)

### 実施条件

対象年齢	未就学児から18歳
参加する人数の目安	未就学児から18歳：360人 大人実行委員（地域ボランティア・大学生）：90人 子ども実行委員（小中高生）：30人 保護者120人 総計：600人 店舗数は30店舗 ※未就学児は保護者同伴。大人実行委員も子ども実行委員もお客さんになって店舗を交代で回るため参加者にカウント。
必要なスタッフ数	スタッフ：6人、各店舗に3人の大人実行委員：計90人、子ども実行委員：30人
設備/環境	広域のオープンスペース（最低でも小学校の体育館程度の広さが必要）、雨天の場合も想定し、室内も確保して

	おく。電源、水場も必要。
実施時期	屋外での実施の場合、気候の適した春や秋、かつ近隣の学校や地域行事の重ならない土日祝日で、近隣の学校や地域のイベントと重ならない時期の祝日・土・日（特に中高生の試験期間は回避する）
備品/道具	屋外で30店舗、600人の参加者を想定した場合：テント、机、椅子、ブルーシート/こどもシティ住民票、ハッチ券、アルバイト・実行委員名札、店長マニュアル/景品、ジュース・飲み物/店舗看板、案内看板、場内整理コーンとバーのセット/筆記具、ガムテープ、電源ドラムコード、放送アンプセット、わたあめ機器、ポップコーン機器など。 ※詳細は「実施資料」を参照。
総予算	160,000円 ※詳細は「実施資料」を参照。

## 事前準備

- 年度初めに、イベントを理解するためにスタッフ研修を実施します。
- 中高生の参加意欲を引き出すため、児童館で日頃の遊びを通して、子どもや学校などと信頼関係を作ります。
- 地域の人材に児童館活動のボランティア参加を促し、子ども参画の意義に対する理解が深まるようにします。
- 子どものニーズや社会的課題に対応する新たな地域の祭りとして、地域住民主体で実施する今後の展望やイメージをPRします。

## 進め方

### 準備（初年度の初動の準備）

- ① イベントを理解するためスタッフ研修を実施します。
  - ・先駆的に実施している市外の児童館から研修を受け、新たな祭りの形式を理解します。研修も含め、モデル事業として1会場で実施します。
- ② 地域社会資源の調査と地域課題を把握します。
  - ・地域懇談会等の開催、主任児童委員、青少年委員、町会等との連携や懇談を頻繁に開催します。
  - ・会場となる学校や公共施設、公園を視察します。
- ③ 長期計画を立てるとともに3年、5年時に検証し、計画の見直しをします。



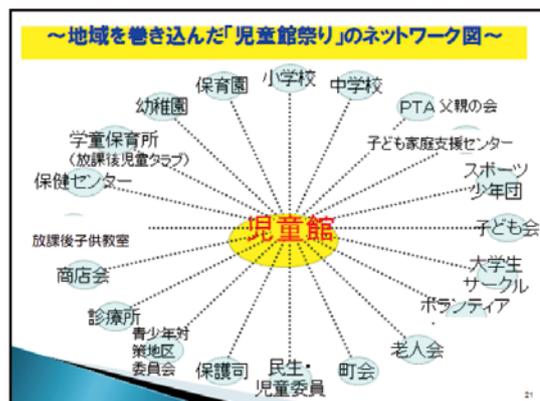
さまざまな店舗が広がる  
「こどもシティ」の様子

### 準備（実施1年前～半年前）

- ・大人実行委員（ボランティア）や子ども実行委員へ協力依頼を行い、日程、会場、財源など実施概要案を決定します。
- ・各団体や地域住民へイベントの主旨説明及び協力依頼と実行委員の協力依頼をします。
- ・会場、財源を確保します。

### 半年前

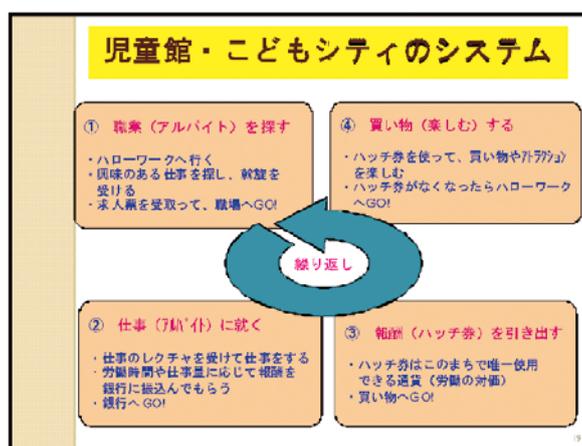
- ・大人実行委員の募集をします。
  - ・小学校PTA、民生・児童委員、町内会など開催会場の各団体や地域住民に依頼します。
  - ・従前から活動する児童館ボランティア、母親クラブのリーダー、ロールモデルとなる大学生や大学生サークルを大人実行委員に依頼します。
- ・大人実行委員会を組織し、会議と準備会を開催して活動概要を策定します。
  - ・大人実行委員の意見を尊重しながら、イベントの主旨説明をして理解を図ります。
  - ・ねらい、目標、日時、会場（雨天会場）、参加対象、来場想定、予算、スタッフの確保、今後のスケジュール、安全対策等の検討をして、活動概要を策定します。
- ・子ども実行委員を募集します。
  - ・児童館でチラシを配布、ホームページ等でも募集します。
  - ・学校、放課後児童クラブ、放課後子供教室、子ども会などで募集します。



## 準備（2か月前～1か月前）

### 2か月前

- 子ども実行委員会を組織して、会議と準備会を開催します。
  - 児童館内で定期的に行います。
  - 学校、放課後児童クラブ、放課後子供教室、子ども会単位で適宜準備をします。
  - 小学校、中学校、公共の施設を借りて、児童館が出張し、会議と準備を行います。
  - 会議では、私たちの暮らしにどのような施設や店舗が必要か、また担当したい店舗を話し合い、仮想の街を構想します。
  - 店舗に必要なものを準備し、店舗の副店長としてアルバイトマニュアルの作成や流通の仕組みを理解します。
  - 公共施設の設置希望が出た場合は、清掃事業所、消防署、警察署、郵便局、歯医者、病院などに協力要請します。



- 開催広報、PR、情報発信を行います。
  - 参加した子どもが、安全にアルバイト体験ができるよう到来場想定人数、駐車スペース等を考慮し、広報の範囲や手法を考えます。
  - 児童館でチラシやホームページ等や学校など募集の方法や周知先の選定をします。
  - 実施会場周辺地域や子ども利用施設など、子どもの目に触れるポスターなどの掲示場所も配慮し、効果的な情報提供をします。
  - 実施会場周辺、学校、町会等に案内を配布します。
- より具体的な準備を開始します。
  - イベント全般の運営に必要な準備として、店舗一覧、会場図、案内看板、店長マニュアル、住民票等の作成、通貨（ハッチ券）の印刷をします。
  - 必要備品の在庫確認、消耗品の購入を行い、食品系店舗がある場合は保健所への申請も行います。

### 1か月前

- 当日運営計画の策定と関係者への周知を行います。

- ・進行表、大人実行委員と子ども実行委員、スタッフの役割分担を作成します。
- ・当日の運営について関係者に周知します。

### 前日

- ・災害情報（警報・注意報など）と会場の状況等を考慮し、開催の判断をします。
- ・搬入する必要備品の最終チェックと大人・子ども実行委員の参加の可否の確認をします。

### 当日の進め方

- ・前日と同様、災害情報（警報・注意報など）と会場の状況等を考慮し、会場の変更や延期、中断、中止等、開催の判断を行います。
  - ・スタッフは8:30、学生は9:00に集合して会場の設置をします。
  - ・大人実行委員は10:00、子ども実行委員は10:30に集合して各コーナーを準備します。
  - ・11:00 こどもシティを開始、各店舗はアルバイトの受付とコーナーの運営を始めます。
  - ・15:00 こどもシティ終了。
  - ・片付け、子ども実行委員は反省会を行って15:30に解散します。
- ※詳細は資料の「児童館・こどもシティタイムスケジュール」を参照。

- 安全対策を講じながらも、規制や管理をしすぎずに、子ども主体のイベントになるように配慮して対応します。

じどうかん  
**児童館・こどもシティ 2017**

ごぜん 午前11:00～ご午後3:00  
うけつけ (受付:10:45～2:30)  
しよ 場所:都立小宮公園  
しよ 雑木林ホール前(サービスセンターまえ)  
しよ ★前のお台場ふぶどり山中学校  
しよ ★駐車場は有料です。

9/10 (日)

**「こどもシティ」は、みんなで「こどものためのまち」をつくり、はたらいたり、あそんだりして、たのしむイベントです。**

「こどもシティ」の中には、本物のまちと同じように市役所や放送局、食べ物のお店、ゲームのお店などがつづられています。ここでは、お店でお仕事をしてお給料(ハッチ券)がもらえます。もらったハッチ券は「こどもシティ」の中のお店で買い物をしたり、あそぶために使うことができるので、お仕事とあそびをくりかえして、たのしく遊ばせてあげます！

※こうえん(おそび)にきたひとたもすべてがあそべます。  
 (大人はお仕事はできません。ただし幼児の保護者はお子さんと一緒にお仕事をしてください。)  
 ※無料(むりよう)であそべます。

主催：児童館・こどもシティ実行委員会  
共催：東京都立小宮公園、八王子市立南大谷児童館・中野児童館  
問い合わせ：南大谷児童館 645-0482

【呼びかけ協力団体及び関係機関】  
民生委員・児童委員【第9地区、第9地区、第7地区】、八王子お手紙の会、小宮公園ボランティア、中学校・小学校実行委員【第二中、ひまわり山中、甲ノ原中、第十小、中野北小】、大学ボランティア【創価大学児童文化研究部、創価女子短期大学、明星大学メルシー】、青少年対策第二地区委員会、青少年対策甲ノ原地区委員会、青少年対策ひよどり山地区委員会、

実施日の2か月前に制作し、実際に掲出したチラシ



## ポイント

- モデル事業として児童館主導で1回実施し、イベントのノウハウと安全面を把握しておきます。
  - 児童館を日常利用できない子どもへの提供を考慮して、実施回数を毎年計画的に増やします。
  - PDCAのサイクルを重視して、開催後に必ず評価と改善を行います。また数年に1回、見直しを含めた再計画を行います。
  - 子どもの意見を尊重し、時間をかけて子ども参画の意識を強く持って接します。
  - 大人実行委員は、子ども実行委員が運営上で困った時にのみサポートするよう役割を徹底します。
  - 児童館はコーディネートに徹し、継続して
- 地域主体でイベントの開催ができるよう、予算の確保や仕組みを広く市民に公開していきます。
  - スタッフは、子どもを中心とした環境作りが地域福祉の向上につながることを意識し、地域住民が主体的に取り組めるように配慮します。
  - 参加者が面白いと思えるように、児童館の遊びを通した健全育成を柱としたプログラムにします。
  - 寄付を募るなど、安定した財源確保を図ります。
  - 大人実行委員と子ども実行委員が反省会で、振り返るとともに、アンケート、会議等でイベントを評価して、次回への展望を検討します。

## 発展

-  児童館を日常的に利用できない地域や子どもに対して、地域の大人の理解と学校との連携を図り、すべての子どもが参加できるように回数や会場などを検討します。
-  スタッフのコミュニティーワークのスキル向上のための仕組みとして、各児童館の祭りにこどもシティを取り入れます。
-  「まち」の仕組みの中に、子ども議員や市長などを設置します。子ども議会で仮想のまちの運営を子ども議員が掌るなど、子どもにやさしいまちづくりを目指して子どもの市政への参画事業として発展的に開催できます。

-  子どもの遊びが、就労や消費について学びにつながることを紹介するために、商工会議所、消費者センターなどのイベントでプログラムの仕組みを提供します。
-  地域性を活かして、商店会や企業を巻き込み、子どもを応援する企業の参画や自然環境を活かした事業にすることも可能です。これにより、子どもは地域の企業や商店とつながり、地元とつながることができます。
-  地域で顔の見える関係ができることで、子どもを守る防犯対策や安全対策にもつながります。

## 安全への配慮

- 地域の交通安全協会や地域の方の協力、車、防犯、衛生面、怪我、苦情対応などに気を配り、事故防止と安全対策を図ります。

## 子どもの主体的な 取り組みの視点



主体的・自発的な活動経験の積み重ねによって、子どもは自信を持ち、自尊感情が育ちます。そのためには、イベントの中で中高生実行委員の力を信じ、待つという大人実行委委員やスタッフの姿勢が重要となります。

思春期の子どもの心の状態や個々の発達の段階に応じて、児童館で日頃の遊びを通して、中高生の意欲を引き出し、信頼関係を構築してきます。

子どものまちのルールや店舗などの決定の時には、子どもの意見を尊重し、自分で決め、責任を持ちます。そして、時間をかけて仲間との合意形成をし、活動するように子ども参画の視点とプロセスを重視し見守ります。

大人実行委員は、子ども実行委員が運営上で困った時にのみサポートするよう役割を徹底します。

  
プログラム  
アドバイザー

- 中野児童館（東京都八王子市） 児童館長 井垣利朗



- 初年度の準備が半年前から段階を踏んで書かれ、実際に使用した資料が添付されていて、とてもわかりやすく準備に入ることができました。

飯島南児童センター（秋田市）

# 実施資料

じゆうみんひょう

## 児童館・子どもシティ

じゆうみんひょう

児童館・子どもシティサービスハッチ券

開催時間は 11:00~15:00 です。

10月10日 10月10日 10月10日

★ ハッチ券を使いきったおともだちで、もっとハッチ券がほしい人は ★

- ① 働きたいお店に行き、従業員さんにアルバイトできるか聞いてみよう。
- ② 従業員さんから仕事のやりかたを教わり、実習にしよう！
- ③ 1つのお店で働くのは1回です。
- ④ ハッチ券は複数回、どのお店で働いてもいいハッチ券です。
- ⑤ 仕事が終わったら、従業員さんから従業員さんのこの職に「ハッチ券」を渡してもらっていい。
- ⑥ ハッチ券を渡してもらった従業員さんのもと、実習に行きましょう。
- ⑦ ハッチ券を渡したお店に必ずお礼を言います。9月10日にもあります。

お店の名まえ	仕事を始めた時間	仕事が終わった時間	従業員	ハッチ券 受領印
1	:	:		
2	:	:		
3	:	:		
4	:	:		

いろいろな 仕事に 挑戦してみよう！



清掃事業所のアルバイトの様子



市役所のアルバイトの様子



中学生実行委員の活躍の様子



イベント会場の様子



### 中野児童館 子どもシティ・店長マニュアル

店舗番号	店舗名	受入人数	種類
本4	わた船屋	2人	飲食

大人実行委員名(店長)	児童館ボラ	児童館ボラ
子ども実行委員(副店長)	中学生	中学生

ブース備品一覧

品名	数	品名	数	品名	数
ドラムコード	1	看板	1	スタンプ	1
、テント	1	求人票2	250	ふきん(タオル)	5
スタンプ台	1	整理券	1	ビニール手袋	2
ペン	2	長机	250組	スプーン	1
ガラメ	7kg	割り箸	1	総アム機	1
消毒液	1	パイプ椅子	1	兼用ステロール	1
店長印、済印	1	割箸たて	1		

このブースの詳細

このブースはわた船の製造・販売です。わたあめは発電機の関係で1台で対応する。混雑が予想されるので、並ばせる。並び順がわからなくなるので整理券を使用する。  
 ・住民票のサービスハッチ券のわた船のところにスタンプを押します。  
 ・整理券を渡し、受け渡し場所に並んでもらう

店長さん(大人実行委員)へのお願い

・お仕事の輪は、各店舗で行います。  
 ・お仕事にきた子どもに求人票(名札)を渡し、仕事内容の説明をして下さい。年齢に応じた仕事内容(ハッチ券へのスタンプおし、船船を渡し、お客さんの整理などの配分は店長の判断にお任せします。  
 ・お仕事にきた子どもと、お客さんの子どもがきますので、列を分けて整理させて下さい。  
 ・一人の仕事時間は15分を原則としますが、状況に応じて多少の変更はお任せします。  
 ・お仕事にきた子の住民票の裏に店舗名、仕事時間を記入し、店長印を押してあげて、15分働いた後、求人票は受けとってください。その後、銀行に行かしてください。

## 実施資料

### 【必要な備品と購入価格】

活動に必要な備品や道具

・店舗の規模にもよるが、屋外で30店舗程度、600人の参加者と想定すると、

テント（8張：食品を取り扱うテントは衛生面で必要、屋外の場合は、各店舗にあるとよい。）

机（40台：各店舗に最低1台）

椅子（80脚：各店舗に最低2脚）

ブルーシート（10枚：雨天の際のカバーとなる。）

住民票（600枚）

ハッチ券（150枚）

アルバイト名札・求人票（100個）

大人実行委員、子ども実行委員名札（100個）

店長マニュアル（30部：30店舗分）

景品（4,200個：360個×子ども実行委員12店舗分、子ども一人につき100円程度換算）

ジュース、飲み物代（350本）

各店舗看板（30枚：30店舗分）

場内案内看板（トイレ、救護、本部、AED、避難経路他）

場内イベントPR旗（30本）

来場者整理のためのコーンとバーのセット（15セット）

各種店舗に必要な消耗品（各種）

筆記具（100本）、養生テープ（10個）、ビニール袋（100枚）、掃除道具など各種

絶縁タイプの電気器用のドラムコード（5個）

放送アンプセット（2台）

わたあめ機器、ポップコーン機器（各1台）など

＊店舗ごとに必要備品を1箱に入れて、箱に表示をする

【総予算】160,000円

＊テント・机・機材・など初期購入費用は除く

◆消耗品費（主に参加者に渡す景品代、ジュース代、文具代、用紙代他）100,000円

◆報償費（大人実行委員1人×500円、90人として：お弁当代）45,000円

◆会場使用料 必要に応じて

### 児童館・子どもシテタイムスケジュール

7:20	会場の決定	雨天時は、各団体へ会場の変更を連絡。
8:30	職員集合・準備開始	児童館より、各児童館車2台ずつで搬入。
		会場の設置。
		雨天時は、小宮公園に会場の変更の看板の設置。
9:00	学生集合	職員は指示し、学生と一緒に会場の設置を行う。
10:00	大人実行委員集合	各協力団体の顔合わせ&打ち合わせ。
10:30	子ども実行委員集合	
	各コーナー準備	自分の担当コーナーを確認し、準備と練習をお願いします。
10:45	受付開始	市役所にて受付が開始。
11:00	子どもシテ開始	各店舗はアルバイトの受け入れとコーナーの運営をお願いします。
11:30	子ども実行委員前半終了	小学生は、はじめの30分が終わったらあそびに行きます。後半の時間を確認し、あそびに行くように促してあげてください。
12:00頃～	昼食(各自)	交替で昼食(各自持参)を様子を見ながらとってください。飲食コーナーをご利用いただけます。
		子ども(中学生)が交替であそびに行けるようにご配慮下さい。
13:30ごろ	交通安全	
14:30	市役所 終了	受付終了 来場者はこの日のハッチ券を16:00まで使えます。
14:15	アルバイト受付終了	20分のアルバイト時間があるため、アルバイトの受付は終了となります。
14:30	子ども実行委員後半	後半の30分は再度子ども実行委員が限ります。
14:45	各店舗終了にむけて	混んでいる店舗は15:00で終了できるように、お客さんの調整をお願いします。
15:00	子どもシテ終了	各店舗は終了し、片づけをお願いします。来場者に気を付けてください。
15:10	子ども実行委員反省	子ども実行委員は集合し、反省会をします。
15:20	片づけ終了	反省 アンケート記入
15:30	解散	1日ありがとうございました。

まちの施設、お店の内容、アルバイト情報			
種類	お店の名前	アルバイト情報	
		仕事内容	募集人数
銀行	銀行	働いた人に50ハッチをホッチキスでつけます。	4
ハローワーク	ハローワーク	来た人にアルバイトの紹介をします。	4
市役所	市役所	受付に来た人に、住民票を発行します。	4
旅行代理店	パークレンジャー公園探検	一日一回だけ開催します。公園の仕事をします。	50
植物園・昆虫館	花畑、パッタ広場	ロープから中に入らないように管理します。	2
動物園	どうぶつふれあいコーナー	どうぶつのふれあいの注意を案内します。	2
児童遊園	ゆうぐ		2
カフェエリア	わたあめ屋(先着順)	わたあめを配ったり、わたあめ券にハンコを押します。	2
カフェエリア	ポップコーン(先着順)	ポップコーンを配ったり、ポップコーン券にハンコを押します。	2
カフェエリア	ドリンクスタンド(先着順)	ハンコを押したりドリンクを渡します。	2
商店街	みそ汁	みそ汁を配ったり、みそ汁券にハンコを押します。	2
商店街	ソースせんべい	ソースせんべいを作ったり、ハンコを押します。	3
商店街	ラーメン	ラーメンを作ったり、ハンコを押します。	3
商店街	小物や	小物を売ったり、ハンコを押します。	3
商店街	駄菓子屋	おかしを売ったり、ハンコを押します。	3
劇場	人形劇	募集なし	募集なし
児童館	ぶんぶんゴマ工作	ぶんぶんゴマを作るキットを配ったり、ハッチ券にハンコを押します。	3
児童館	おもちゃランド(幼児コーナー)	ハンコをおしたり、30ハッチを渡します。	3
児童館	お手玉・あやとり	募集なし	募集なし
電車・駅	電車	ハンコを押したりします。	3
パーキング	自転車おきば、バイク置き場	自転車の整理をします。ハンコを押します。	3
放送局	スタジオ放送局	アナウンスをしたり、お店のアナウンス情報の取材に行きます。	3
交番・警察	交番(警察)	公園内で落し物やけがやトラブルがないかパトロールに行きます。	3
病院	病院・診療所	怪我や体調の悪い人の対応をします。	3
清掃	清掃社	公園内のゴミ拾いと店舗からゴミをあつめてきます。ゴミを分別します。	3
遊園地	さかなつり	ハンコを押したり、さかなつりの手伝いをします。	3
遊園地	虫たたき	ハンコを押したりゲームの手伝いをします。	3
遊園地	ストラックアウト	ハンコを押したりゲームの手伝いをします。	2
遊園地	くじや1代目	ハンコを押したりゲームの手伝いをします。	3
遊園地	すらいむくじ	ハンコを押したりゲームの手伝いをします。	3
遊園地	しゃてき	ハンコを押したりゲームの手伝いをします。	3

実施資料

29年度27ロックシティ必要物品一覧

\*お菓子1店舗 350(10円50円用意、5円から8円を300)

\*テント足おさえ用の土蓋を4張り分とコン、ボール公園から借用、も借用

店舗名(●お菓子必要)	備品・消耗品					
1 バンク	看板1 はさみ1個	ハッチスタンプ8個 マニュアル1	ペン6本 求人票4個			テント1役所と共同① 椅子3
2 市役所	ビニール袋45210枚 住民票600枚 参加者名簿3枚	ビニール袋70010枚 看板1 集計用紙1枚	鉛筆30 マニュアル1 決裁版10個	消しゴム2本 ペン2本		求人票4個 住民票仕訳箱 椅子3 テント1銀行と共同①
3 わたぬぎ	綿あめ機 2台 雑巾10枚 タオル6枚	マニュアル1 ブルシ 大1枚 アルコール消毒液1個	看板1 粗目 7kg 手袋50個	ペン3本 割箸250本 マスク20個		テント1ポップコーンと共同② ドラムコード1個 椅子1 求人票2個
4 ポップコーン	ポップコーン器1台 コーン(たね)5kg タオル6枚	ブルシ 大1枚 スプーン3個 アルコール消毒液1個	ドラムコード1台 ビニール8号400枚 ビニール袋45210枚	ペン3本		テント1わたぬぎと共同② 求人票2個 椅子1
5 工作	どんぶり300個 木工用ボンド20本	下敷き10枚 マジック30本	ペン3本 看板1			
6 交通安全	看板1	ブルシ 大2 虫かご30個	講習修了書 鉛筆50本			靴1 マニュアル 椅子1
7 パークレンジャー	調査用紙50枚	虫網30本	修了書50枚	ペン2本		テント1本部と共同③ 椅子1
8 ●じゃんけんや	お菓子350個 マニュアル1	看板1	求人票3個	ペン3本		椅子1 椅子2
9 シャボン玉	看板1 合成洗剤250ml入り 5本	バット1個 PVAのり8本	ペン3本 雑巾10枚	求人票3個 モール100		椅子1
10 おもちゃランド	ハッチスタンプ3個 ブルシ大1枚	おもちゃ、ボール ごご8畳1枚	ペン3本 座卓1台	マニュアル1 求人票3個		テント1お手玉と共同⑤ 看板1
11 お手玉・あやとり	マニュアル1 ブルシ大1枚	お手玉 ごご8畳1枚	ペン3本 看板1			テント1おもちゃと共同⑤ 座卓2
12 のりもの(自転車)	看板1 コーン4個	機材一式(電車、自転車) コーンバー4本	ペン3本	求人票3個		椅子1 椅子2
13 ずらいむっさんぐ	ラム、スプーン5個 赤、青、黄 各1食紅	お題(箱入り)1個 ビニール9号350枚	ペン3本 求人票3個	バケツ1個 マニュアル1		ほう砂(500g×2個) PVAのり10本 椅子2
14 ヨーヨー&スーパーボール	ヨーヨー(留め具付)150個 スーパーボール 大100個 スーパーボール小200個	たらい 1個	ペン3本 求人票3個	バケツ1個 マニュアル1		景品(スライム)100個 椅子2
15 ●魚釣り	看板1 魚100匹	お菓子350個 プール1個	ペン3個 釣り竿5本	求人票3個 マニュアル1		ストップウォッチ1個 椅子1 椅子1
16 スタジオ放送局	アンプ、マイク 放送用紙	ドラムコード 求人票3	鉛筆 看板	ペン3 マニュアル		求人票3 椅子2
17 警備・診療所	案内図 救急セット	求人票3		ペン3 看板		マニュアル 椅子1
18 清掃社	ビニール袋452 10 ちりとり ビニール袋700 10	求人票3 火バサミ	看板 求人票3	マニュアル ほうき		椅子1
19 ●ストラックアウト	ストラックアウト台 スタンプカード350枚	ボール5個 求人票3個	ペン3 ブルーシート大1	求人票3 の4個		お菓子350個 手作り・もちよりの景品80個 椅子1 椅子1
20 ●くじ	マニュアル1	看板1	景品番号表1	スーパーボール		お菓子350個 椅子2
21 ●ボーリングくじ	ボーリングピン 14本 本体(段ボール)1個	あめ用のかご・容器 1 景品(スライム) 80	ペン3 求人票3	ボール(大・中・小)各1 マニュアル		お菓子350個 椅子2
22 ●しゃてき	求人票3個 割り箸鉄砲3個	的8個 わゴム50本	ペン3本 景品80	マニュアル 段ボール1個		お菓子350個 椅子2
23 ●わなげ	求人票3 輪投げの輪10本	ペットボトル10本 ひも1本	ペン3 看板	求人票 マニュアル1		お菓子350個 椅子2
24 ●UFOつり	求人票3個 つりざお 3本	宇宙人のセット 1組 平たい台 1台	ペン3 ストップウォッチ1個	看板1 マニュアル1		お菓子350個 椅子2
25 ●棒つかみ	求人票3個 棒つかみ用の棒 1本	マニュアル1	ペン3本 求人票3個			椅子1 椅子2
26 ●ことばえらび	求人票3個 「五十音」の書いてある缶 ブルーシート小1枚	ブルーシート 小1枚 コマ台 1台	ペン3本 ストップウォッチ 1個	マニュアル1		お菓子350個 椅子2
27 ●ディスクのあて	求人票3個	看板1	マニュアル1			椅子1
28 ●けいひんくいず	求人票3個 クイズ問題、本	クイズ番号を決めるくじ 景品入れる箱1箱	ペン3本 はさみ、セロテープ	水系1 マニュアル1		お菓子350個 看板1 椅子2
29 ●しゃてき&くじ	求人票3個 ぬいぐるみ	割箸250 輪ゴム	ペン3本 看板1	座卓1台 マニュアル1		お菓子350個 景品(スライム)80個 椅子2
30 ●ころころびんご	求人票3 カプセル1個	ガチャガチャ本体 1個 ビー玉10個	ペン3本 マニュアル1	スマートボール本体1台 景品80		お菓子350個 看板1 椅子2
31 ドリンクスタンド	缶ジュース350個 ビニール袋452	雑巾10枚 タオル6枚	アルコール消毒1本 求人票2個	ペン3本 看板1		マニュアル1 椅子1 椅子2
32 本部(全体)	マジック(太)10本 マジック(細)10本 実行委員名札100 すずらんテープ 蚊取り線香20個 はさみ10本 立ち入り禁止表示5枚	ビニール袋452 10 ブルシ大1枚 アンケート用紙100枚 トイレットペーパー5個 コピー用紙50枚 カメラ1台 案内図(配置図)10枚	ビニール袋700 10 配布資料50枚 画用紙50枚 養生テープ20 アンプ2台 大時計(中野)2	鉛筆100本 ティッシュ5個 トランシーバー4 単3電池20本 ドラムコード5個 雨用ブルシ大10(南大谷)		ガムテープ30個 雑巾30枚 実行委員用あめ300個 立て看板大3 休憩所テント④⑤ 大人お茶 椅子1 椅子1
駐車場	ブラカード1 ごご8畳3枚	トランシーバー1 持参	看板1 ブルシ小10枚			椅子1 レンタル35
備品手配場所	名札赤、黄色各100個 綿あめ機1台 シティの旗30本	共同倉庫 共同倉庫 共同倉庫	ブルシ大10枚 ゼッケン赤(中野)6枚 トランシーバー10個	持参 持参 共同倉庫		椅子計50 テント5 座卓4台 レンタル50 持参 持参

**【反省会・評価・次年度への引き継ぎ】**

- ＊引き継ぎを受けて各会場で改善してきた事例
- (ア) ハローワークでアルバイト紹介をしないで、各店舗で求人をする。
  - (イ) 通貨（ハッチ券）を発行しないでスタンプを押す形式にする。
  - (ウ) 変わらない継続的な老舗と毎年変わる遊戯施設があるため、仮想のまちの店舗も毎年すべて初めから検討せずに継続的な店舗を残す形式にする。
  - (エ) 商店街の本物の店舗を活用するなど地域の実情に合わせて実施する。
  - (オ) イベント案内チラシに住民票引換券や住民票をつけるなど市役所の住民登録の簡素化と迅速化を図る。
  - (カ) 開催日までに住民票引換券を児童館窓口で発券し、事前に参加者の確定と定員制限をする。

**【実施の上で運営のポイントや工夫】**

- ①ハローワークの機能と人数割り
- (ア) 参加者のアルバイト希望をかなえるために、アルバイト待ちの並ばせ方や求人の仕方を臨機応変に対応する。
    - ・アルバイト先の店舗ごとに待ち列をつくることで、待ち想定時間想定が出来るようにする。
    - ・待ち列を作り、先頭から希望店舗のアルバイト求人がでたら優先して受けられるようにする。
  - (イ) 理想のローテーション換算  
例) 300人の子どもが参加していたら  
a.ハッチ券を使用して遊んでいるお客 100人  
b.アルバイトをしている人 100人  
c.アルバイト紹介待ちでハローワークに並んでいる人 100人

★このa～cがローテーションすることが望ましい。

②住民票と祭り通貨（ハッチ券）

- (ア) 住民票は祭りの参加証明書とともに「お財布」でもある。紛失する子どももいるので、戻ってくるように名前や受付番号表記をする。
- (イ) 会場内は、基本的に無料店舗は設置せずに、ハッチ券のみが使える店舗だけし、ハッチ券を使い切ったら終了とする。

③景品や駄菓子の配分

- (ア) 各店舗に景品を置くためには、参加人数想定・ハッチの最大保有数・店舗で遊ぶハッチ券の単価から必要数を割り出すようにする。
- (イ) 各店舗で景品を渡さずに、「景品交換所」をつくり、交換券で交換をできるため、好きな景品を選ぶことが出来る。また、景品交換所にもアルバイトが配置できる。

**【発展形式の商店会、企業を巻き込んだイベント例】**

地域の商店会や企業から協力を得て、アルバイト先として実際のお店で受入れをしてもらう。

実例①

地域の2つの商店会が協力、20店以上でアルバイトを受け入れている。会場は商店会が管理する場所を借用してまつり会場としている。

実例②

12階の建物内の企業体が協力、各テナント20店以上でアルバイトを受け入れている。建物内にあるホール等を借用してまつり会場としている。

実例③

景品の一部や会場使用料等を商店会や企業から協賛を得ている。

実例④

児童館では当日運営をする大人実行委員にお弁当の用意をしているが、商店会や企業から助成を受け、お弁当をランチ券に変更して、商店会の飲食店でランチを食べられるようにしている。

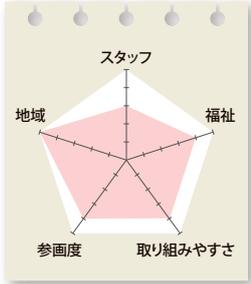


商店街の実際の店舗でアルバイト体験をする子どもの様子

# 30 地域ほっと・カフェ

## ▶ 児童館に設置された地域カフェで皆がつながる

児童館の一部屋を地域カフェにすることで、児童館が、地域の人たちにとって気軽に集える居場所になります。また、そこで出会った人同士が互いに刺激しあい、元気を与えあい、大切にしたいことができるようになります。



### ねらい

- 地域住民がカフェを利用することで、赤ちゃんから高齢者まで、**人と人が繋がるきっかけづくり**ができる。
- 地域住民にカフェを利用してもらうことで、**普段はあまり児童館に縁のない人たちに児童館について知ってもらう**ことができる。また、皆で、地域の子育て支援や次世代育成支援について考えることができる。
- おもてなしの準備や接客を経験することで、子どもたちの**自己肯定感が育まれる**。また、自分たちの力で町や地域が元気になれることを知る。

### 実施条件

対象年齢	すべての人（乳幼児から高齢者まで）
参加する人数の目安	カフェスペースのサイズによる
必要なスタッフ数	1人～カフェスペースのサイズによる
設備/環境	カフェにする部屋（イス、テーブル、ソファなど）
実施時期	いつでも可
備品/道具	●テーブルクロス ●花 ●CDのデッキやスピーカーなど
総予算	当館で実施した際は初期費用 10万円程度



カフェコーナーの  
テーブルセッティング

## 事前準備

- ☐ カフェらしい空間づくり  
イスやテーブル、ソファを用意し、ゆったりと座れる空間を作ります。テーブルには色鮮やかなクロスをかけ、テーブルにさりげなく花を飾り、センスよく美しい空間に整えます。また、カフェミュージックやオルゴールなど、気分が落ち着く音楽を流し、音量にもさりげなく配慮します。告知用のポスターや看板も作っておくとよいでしょう。

## 進め方

- 1 地域カフェオープン日は、館内の一室をセンスよく整え、カフェコーナーにセッティングします。
- 2 BGMは誰が聞いても心地よい音楽をかけるよう心がけます。
- 3 カフェの料金は利用しやすい設定にし、だれもが気軽に利用できるようにします。
- 4 食品衛生面等、十分に気をつけ、手洗い、消毒をこまめに行うようにします。
- 5 看板は見えやすい場所へセットします。
- 6 スタッフの接客姿を見た子どもたちから「接客をしてみたい」と意欲的な声が出た場合は、各子どもの年齢に合わせた接客内容を体験してもらうようにします。
- 7 子どもたちが案内する場合、接客に必要な声かけのタイミングや内容を明確にし、接客方法の基本を身に付けてもらうようにします。  
例) 「ようこそいらっしゃいました」「またいらしてください」



ソファコーナー



地域カフェを体験する子どもたちの様子



看板セッティング



## ポイント

- 人と人が知り合うきっかけになるよう、カフェを行いながら会話を楽しめます。

例) スタッフがコーディネーターとしての役割を担い、自然なつながりを促していくようにします。

- 民生児童委員や行政の方にも利用していただけよう、声をかけます。

例) 読書会など定期的に利用してもらうことで児童館・放課後児童クラブに通う子どもの様子を気にかけてもらうことができます。

- 町の子育て支援について語り合います。

(情報の共有、相談対応など)

例) 子育て中の母親と地域の方との交流が生まれ、育児経験談を会話の中から知ることができます。



さまざまな世代が交流できる居場所

- 場合によっては、カフェの利用時間を変更し、児童クラブの保護者と一緒に利用できるようにします。

例) 放課後児童クラブ対象に親子の夜カフェ(16:00～19:00)を開催します。(※夜カフェの運営マニュアルについてはP●を参照)



夜の地域カフェの様子。

やわらかな明かりが特別な雰囲気を醸し出す

- ・いつもと違った雰囲気の中で、カフェを楽しめます。
- ・ボードゲームを自由に使えるようにしておく親子で楽しむことができます。
- ・親子の時間や保護者同士が知り合うきっかけとなりお互いに交流することができます。さりげない会話の中から、悩みを打ちあけるなど、相談の機会につながります。

## 発展



### 「自分の町の子育て情報の共有」

カフェに集まった人と子育てについて語り合うことができます。



### 「出前カフェ」

館内で行うカフェを地域で行われるイベントへ出前カフェとして出向きます。地域へ出向くことで町全体を子どもの力で元気にします。また、子どもたちが接待を行うため、職業体験の場が自然と広がります。



### 「高齢者サロンへ、笑顔・元気を届けに行く」

カフェを通じて様々な事業所と関わることができます。

例) 地域の高齢者サロンへ子どもたちと一緒に出前カフェを届けることで、交流を深めることができます。



#### 【サロンのお年寄りからの声】

「子どもの声を聞いて元気が出た。」

「生きる力をもらって嬉しかった。」 など

#### 【効果】

社協スタッフと協働し、地域と交流することで、子どもとお年寄りのマッチングができ、お互いに良い刺激となり、すばらしい効果となりました。



### 「全国へ発信」

全国の方が訪れる場所へ出前カフェを行うことで、地域から全国発信に繋がります。イベントではなく、ゆるく繋がることで、継続性のある取り組みを行うことができます。

例) 四国88ヶ所のお寺にて出前カフェを行います。

#### 【効果】

お遍路さんへおもてなし体験をすることで、全国の方と繋がることができます。また、おもてなしをして「ありがとう」と、感謝されたことが自己肯定感につながります。



出前カフェにて、お遍路さんへおもてなしをする子どもたち

## ！安全への配慮

- 幅広い年齢層の利用を予測し、玄関に座りやすいイスや靴べらを用意すると高齢者も安心して利用できます。
- スリッパは履きやすく滑りにくい素材の物を用意し、スムーズに移動できるように配慮します。
- 玄関に消毒液を設置し、衛生面に気をつけましょう。



エントランスコーナー

## 子どもの主体的な 取り組みの視点



児童館で行う地域カフェの様子を見た子どもたちから、やりたいという意欲的な声を受け入れ、子どもの年齢に合わせた接客内容を体験できるようにする。また、他者に喜ばれることで、個々の心の変化が見られ、自己肯定感が育まれる。地域に出向くことで、人と人が出会う喜びを知り、子どもたちの力で地域全体が元気になる。

## プログラム アドバイザー

- NIKO NIKO 館（愛媛県上浮穴郡久万高原町）  
館長 白川真理  
主任 大堀純子  
渡部梨香

- ①親子が集える特別な日を選択します。
- ②事前申し込み制にすることで、家庭に案内用紙を持ち帰り、親子カフェの参加について親子相談でき、会話のきっかけになり、より楽しみが増します。
- ③ボードゲームを予めテーブルに並べておくと、好きなボードゲームを自由に見つけることができ、親子で楽しむことができます。



ボードゲームの効果  
 ・コミュニケーション能力育成  
 ・集中力を高める  
 ・会話が弾む

ボードゲームでじっくりと時間を過ごす親子の様子

- ④写真を展示したり、作品をセンスよく飾ると、親子や友だちと自然に会話が弾みます。



### 【写真や作品展示の感想】

#### \*子どもの声

「僕もこんなことやってみたいな」  
 「こんな昔から児童館があったんだね」  
 「知らないことがいっぱいある」  
 「すごいね」

- ⑤おもてなしをするカフェの場合は、一人分ずつトレーにセットすると、持ち運びやすく、テーブルの上も使いやすくなります。



- ⑥テーブルを囲むことで、保護者同士が知り合うきっかけにもなります。



ゆったりとした居心地のよい空間にすると、自然と会話が弾む。また、父親の参加率も高まる

### 【夜カフェに関する感想】

#### \*子どもの声

「お父さん・お母さんといっぱい遊べたのが嬉しかった」  
 「夜になっても、みんなで遊べて楽しかった」  
 「お母さんが笑顔で他のお母さんと話している姿を見て嬉しくなった」  
 「次はいつするの？」

#### \*大人の声

「いつも夕方は忙しいが、今日は子どもとの時間をゆっくり過ごすことができた」  
 「はじめて話す保護者もいたが、カフェしながらだったので、とても話しやすかった」  
 「こんなゲームもできるんですね。知りませんでした。今日は親子で真剣勝負しました」  
 「お喋りするの楽しかった」

#### \*スタッフの声

「いつも児童館で遊んでいるゲームを、生き生きした顔で一緒にきた家族にルールを教えたり、紹介したりする子どもの姿があり、子どもたちがとても嬉しそうだった」  
 「親子の時間をちょっとした特別な時間にする事で、親子がお互いに幸せそうな表情をしていた」  
 「色々な人と、触れ合うことで、親子の関係にいい変化がみられ、お互いにいい刺激を受けていたように思う」

カフェの開催日時、場所（地図）、連絡先、メニューなどが書かれたポスター

# 地域カフェ

- ◆ 毎週火・金曜日
- ◆ 10:00～14:00
- ◆ NIKO NIKO 館

ほっと tea を飲みながら、おしゃべりしませんか？  
 どなたでも OK！ 気軽にお越しくださいね。  
 予約も受けます。21-2335（NIKO NIKO 館）

**menu 100 せん**

コーヒー  
 カフェオレ と 手作りスイーツ  
 抹茶ラテ  
 紅茶



NIKO NIKO クラブ 保護者様

平成〇〇年 〇月 〇日  
 NIKO NIKO 館



## ★夜の NIKO カフェ★

昨年好評だった夜の地域カフェ。今年も NIKO NIKO クラブのクリスマス会に合わせて、夜のカフェを行います。親子でカフェを楽しんだり、ボードゲームで勝負をしたり、楽しみ方はそれぞれ・・・。

クリスマスムードたっぷり、いつもと違った雰囲気の中でお待ちしております。どうぞお越し下さい。

日程 : 平成〇〇年 〇月 〇日 (口曜日)  
 時間 : PM 16:00～19:00  
 メニュー: カフェ&スイーツ 100円

【おすすめボードゲーム】

- ・マンカラ
- ・ドラゴンのたから
- ・すすめ子ぶたくん

ぜひ親子で  
楽しみましょう

夜のカフェ 申し込み書

※ 〇月×日 (口) までにご提出下さい

大人 ( ) 名

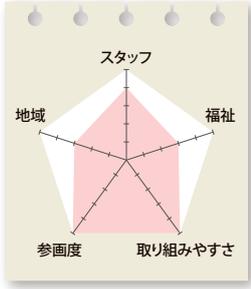
子ども ( ) 名

( ) 学年 名前 ( )  
 ( ) 学年 名前 ( )

# 31 おかえり! 児童館 ~同窓会でボランティア発掘~

## ▶ 児童館卒業生を再び児童館につなげる

児童館を卒業して大学生や社会人になった、かつての児童館利用者たちを主な対象として「同窓会風イベント」を開催。職員や当時の仲間との旧交、新しい出会いなど、『児童館OB・OGボランティア』としての活動や、いずれ自身が保護者として『里帰り来館』する上でのきっかけにつながるよう実施する事業です。



### ねらい

- 児童館を卒業後、学生や社会人、保護者になったかつての児童館利用者たちの中から、**児童館のボランティア人材を発掘**する。
- 児童館を卒業し、やがて結婚し、子どもを設け、**保護者（母親・父親）として再度児童館を利用するきっかけ**になるよう実施する。
- 児童館は長期的につながることのできる場所である。年を重ねるに連れて、利用者（幼児・小学生・中高生）からボランティア（学生・社会人）、保護者（父母→祖父母）と、**一生関わることのできる場所を提供**する。

### 実施条件

対象年齢	児童館のOB・OG
参加する人数の目安	20名程度 ※児童館の規模、実施スペース、OB・OGの参加人数により変更可
必要なスタッフ数	3名（受付1名、司会進行1名、記録（写真）1名。2名でも可能）
設備/環境	特になし
実施時期	年に1度、大学生や社会人が参加しやすいお盆時期や年末年始などが望ましい。また、児童館まつりなど、ボランティアが多く集まるイベントの後に設定するのも効果的である
備品/道具	茶話会をする場合は、それに伴う必要経費。参加費として一部徴収（100円程度）してもよい
総予算	約5,000円（20名程度で茶話会を実施した場合）



## 事前準備

児童館を卒業してから一定の年月が過ぎた後、当時とは異なる立場や視点（進学、就職、結婚、出産、育児など様々な人生経験）で再び児童館と関わる機会として、事業を実施します。

- 2か月前を目安に告知を行い、参加者受付を開始します。
  - (ア) 広報物の作成
    - ・チラシ、ポスター等を作成します。
  - (イ) 告知の方法
    - ・館内に設置し、利用保護者に告知します。
    - ・SNSやメール等の媒体を活用し告知します。
    - ・ホームページ、報道機関、情報誌等の無料の媒体を活用し、広く告知します。
  - (ウ) 申込方法
    - ・ホームページ、FAX、はがきなどで、参加希望者の住所・氏名・連絡先などの情報を添え申し込みます。
- 2週間前を目安に締切り、参加者へ参加決定通知を送付します。
- 前日及び当日に会場準備を行います。



《チラシ》チラシは当事業紹介の最後のページに添付しています。  
適宜、ご活用ください。

## 進め方

- ①参加者集合・全体受付
  - ・参加者には、開始時刻前までに来館してもらい、受付をします。  
※参加決定通知で本人確認
  - ・当時の写真を掲示したり、記録VTRを上映したりするコーナーを設置するのも効果的です。
- ②開会あいさつ
  - ・主催者による挨拶後、プログラムの流れの説明をします。
- ③懇談
  - ・アイスブレイキング

- ・自己紹介タイム（氏名、年齢、どこの児童館を利用していたか、当時のエピソード紹介など）
- ・軽食
- ・記念撮影

#### ④ 閉会あいさつ

- ・主催者による挨拶

#### ⑤ 参加者解散

##### <参加者の声>

「懐かしい。あの時の自分に戻ることができた。今考えると児童館でスタッフさんやボランティアの人に色々なことを体験させてもらった。次は自分の番で、できることから始めたい」

「子どもが生まれた。母親になって児童館を利用しようと思うのに、昔のように気軽に行くことのできない自分がいた。同窓会に参加して勇気が出た。今度は子どもを連れて利用しようと思う」

## ポイント

- 児童館を卒業する前に「つながる」機会をどれだけ設けられるか、卒業した子どもたちと「どれだけつながって」いられるか、一度途切れてしまったつながりを「再度どうやってつながることができるか」がポイントです。
- 長期的なプログラムのため、スタッフの異動や指定管理者制度による運営団体変更などの際の事業の引継ぎが重要です。成人式のように毎年開催なら問題ありませんが、隔年開催の場合、スケジュール管理が大切になります。
- 隔年開催の同窓会風イベントを開催するた  
めには、数年後、現在とは異なる場所に居住している場合があり、祖父母宅など確実に通知が受け取れる住所と宛名を各自で記入してもらうことが重要です。また開催時期の調整も都市部と地方では異なると考えられます。地方の場合は、長期休暇中、お盆や年末年始など、地元を離れたかつての児童館利用者が帰省する可能性の高い時期を選んで開催したほうが参加者が集まるはず  
です。
- 主たる目的は同窓会風イベントを開催することではありません。イベントを“きっかけ”として、そこから新たなつながりが持てるように仕掛けることが大切です。

児童館の利用対象年齢を終えた卒業生が参加する会になるため、児童館利用対象の間に、将来につながる仕掛けがどれだけできるかが重要です。それを踏まえ、下記のようなイベントを実施しました。

### 『卒業バトンイベント』

児童館を卒業する高校3年生を送り出す事業。これを実施することで、利用者として、1つの区切りをつけることができます。たとえ参加人数が少なくても、毎年実施することが重要です。継続して実施することで“想い”のバトンが次の世代に引き継がれていくためです。



### 『タイムカプセルイベント』

1999年12月31日の深夜に年越しイベントとして実施した、2000年のカウントダウンイベントの参加者が同窓会として10年ぶりに集合しました。当時の動画や写真を使い、皆で振り返りを行い、10年後の自分に宛てた手紙を各自開封。次の10年後の開催を約束し、10年後の自分への手紙をタイムカプセルに入れました。タイムカプセルは10年間、児童館で保管し、2010年に開封イベントを実施しました。

### 『児童館応援団 ～おじいちゃん、おばあちゃんになっても～』

ボランティアは学生や社会人だけではなくありません。かつて保護者として利用していた父親や母親が、祖父母になって孫と一緒に来館することもあります。常時ボランティアを受け入れている中で、子育てが落ち着いた今、「当時お世話になったから」との理由から、児童館でのボランティアにつながるケースもあります。「できる人が、できる時に、自分にできることを」の感覚で無理なく、高齢者（おじいちゃん、おばあちゃん）ボランティア自身が得意なことで、参加者と一緒に楽しみながら活動できることにメリットがあります。「昔遊び」や「ちぎり絵」、「もちつき大会」などのイベントにご協力をいただいています。

## ！安全への配慮

- このプログラムは、長期間、個人情報を取り扱うことになります。スタッフの異動や担当者変更による事業引継ぎの際には細心の注意が必要です。

## 子どもの主体的な取り組みの視点



児童館を卒業したOB・OGが、これまでの利用者として立場ではなく、今度は自分にできることでボランティアとして参画をすることができます。

OB・OGの中には、「何でもいいからお手伝いがしたい」という漠然としたビジョンのボランティアさんもいることでしょう、体験を経て「こんなことがしたい」という具体的なビジョンを持つボランティアさんもいることでしょう。

どちらにしても、OB・OGのボランティアさんが事業に参画してくれるということは、児童館にとってこんなにも心強いことはありません。

しかし、ボランティアさんは学生や社会人・保護者であったりし、スタッフではありません。

「できるときに、できる人が、できることを」を合言葉に、スタッフがボランティアさん一人ひとりを見極め、無理のない範囲での参画していただくことがポイントです。

## プログラム アドバイザー

- 北条児童センター（愛媛県松山市） 山下洋一郎
- 南部児童センター（愛媛県松山市） 森田洋喜
- 久枝児童館（愛媛県松山市） 黒田泰士

## 実際に やってみました

- これからの実施ですが、「オリジナル名刺を作ろう」「名刺交換会」「児童館の思い出を語ろう」「大なわ大会」「お茶会（おやつタイム）」などをプログラムとして考えています。
- 初回はスタッフがプログラムを組みましたが、今後継続していくのであれば、小中学生の参加者目線で行い、子どもたちの意見を聞く機会を設けられればと感じました。

京ヶ瀬児童館（新潟県阿賀野市）

# カウントダウン同窓会

→2000年→2010年→2015年→

1999年12月31日、児童センターでカウントダウンパーティーを行いました。  
 ご参加をいただいた皆さん、覚えていただいていますか？お約束の同窓会を行います。  
 あの時に小学1年生だった人は高校生？大きくなりましたね。  
 今回は2015年に開けるタイムカプセルも埋める計画です。  
 10年前に参加をいただいた方も、今回初めての方もご参加お待ちしております。

日時：平成22年1月11日（月・祝）10:30~12:30

場所：ハーモニープラザ3階 多目的室2

対象：10年前のカウントダウンイベント参加者&  
 2015年に開けるタイムカプセルに参加したい人



定員：150名程度

内容：“夢邪気”と一緒にあそびまショー、タイムカプセル埋蔵など

参加費：100円 ※ジュース、軽食を販売します

同日開催!!



## もちつき大会

※こちらもご参加ください!!

＜お問い合わせ＞

松山市中央児童センター

〒790-0808 松山市若草町8-3

TEL 933-9311



社会福祉法人 松山市社会福祉事業団  
市内児童館・児童センター8館共同企画

**おかえり児童館！**

# 同窓会パーティー

平成29年3月19日(日) 18:00～

**[場所]** 松山市中央児童センター(松山市ハーモニープラザ)

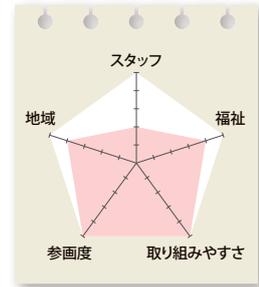
【対象】 18歳以上の男女40名程度  
【内容】 バーベキュー、カラオケ、ゲーム大会など  
【参加費】 無料  
【申込】 **平成29年3月5日(日) 必着**  
※申込方法については裏面をご覧ください



## 32 じどうかん遊び塾 ～地域クリーン作戦～

### ▶ ゴミ拾いを楽しみ、地域ともつながる

自分たちでまちをきれいにして達成感を感じたり、自然と地域のことを知ることができるのが、この活動の特徴です。一見遊びとは無縁のゴミ拾い活動ですが、拾ったゴミの重さを量り、チャンピオンを決めることで、競争心が働き、遊びになっていきます。参加者に配布される50円の駄菓子券も、子どもたちの参加意欲につながっています。



### ねらい

- 様々な経験を経験し、自ら考える力を養えるようにする。
- 活動を通して新たな人間関係を構築できるようにする。
- 活動を通して集団活動や社会性を養えるようにする。
- 活動を通して一般来館につなげ、第三の居場所づくりのきっかけになるようにする。

### 実施条件

対象年齢	小学生（1年生から6年生まで）
参加する人数の目安	スタッフ・ボランティア等の体制次第で何人でも可だが、15～30人くらいが進行しやすく、地域へのPR度も高い。
必要なスタッフ数	子ども10人に対し、スタッフ1人
設備/環境	特になし
実施時期	週に1回、放課後の1時間程度 ※当館は毎週水曜日17：00～18：00に実施
備品/道具	台車、ゴミ袋、火ばさみ、軍手、ゴミ箱、のぼり旗、ゼッケン、駄菓子チケット（1回につき50円×人数分）など
総予算	約9,000円程度（参加人数による）



児童館の窓に貼られた参加者募集のチラシ



地域を練り歩きながらゴミ拾いをする子どもたち

 **事前準備**

- 毎月のおたよりに記載し、随時募集します。
- 参加したい子どもはスタッフに申告し、当日来ればよいものとします。事前申し込みをする必要はありません。
- 出欠確認は、遊び塾メンバーのみ行います。

 **進め方**

- ①活動時間までに児童館に集合し、活動の趣旨説明、注意事項を確認します。
- ②遊び塾に登録している子ども以外の参加者を紹介し、全員で掛け声をして士気を高めます。
- ③衛生上およびケガ予防のために必ず軍手を着用することを促してください。火ばさみ、ほうき、ちりとり、ゴミ袋の準備をします。
- ④缶、瓶、ペットボトル、燃えるごみ、燃えないゴミなどの分別ができるカゴをセットした台車を引きながら、地域の道路、公園などを参加者全員で練り歩き、ゴミを拾います。
- ⑤活動の最中に、活動に興味を持った子ども（小学生なら誰でも可）に遭遇した場合は、活動の途中でも積極的に参加を受け入れます。
- ⑥児童館に戻り、集めたゴミの重さを量り、チャンピオンを決めます。
- ⑦手洗い・うがいをします。
- ⑧参加者全員に駄菓子券（50円分）を1枚ずつ配布します。
- ⑨地域にある馴染みの駄菓子屋さんに参加者全員で行き、買い物をします。
- ⑩児童館に戻り、買ったお菓子を食べ、「お疲れさま会」を行います。遊び塾に登録している子ども以外は、駄菓子を買ったら、そのまま帰宅しても構いません。



## ポイント

- 清掃活動は地味で地道な活動・経験ですが、地域貢献という非常に有意義な活動であることを、子どもたちが理解できるように説明をすることが重要です。その際、地域の一員であることも伝えます。
- 地域を練り歩く際は、すれ違う地域の人たちへの挨拶をしっかりと行うことで、社会性を身に付けるようにします。
- 小学校1年生から6年生の幅広い年齢層のため、6年生をリーダーにして活動が進められるように工夫します。
- 下の学年の意見も汲み取れるように配慮します。
- 父母・OB・OGに対しても、機会があるごとにボランティアとして参加するよう呼びかけます。
- 公園などを掃除した際、その場にいる小学生にも参加を促し、一般来館につながるようにします。
- 日没が早い冬の期間や、天候が悪い場合は、児童館内の掃除を行います。



拾ってきたゴミを種類別に並べ、環境問題について考えるきっかけにすることもできます。



地域住民も巻き込んだ清掃活動ができるように工夫すると、本活動の意義がより深いものになります。



地域に出向く事で、地域資源を発掘し、新たな活動や行事へとつなげていくことが可能です。

例) 公園、地域の店、福祉施設など、子どもの居場所となるようなところ全般



### 安全への配慮

- 道路を歩くため、子どもたちの前後にスタッフを配置し、安全管理には十分気を付けましょう。
- 清掃活動においては、汚物や危険物などもあるため、スタッフが注意喚起の声かけを常に行うことが大切です。

## 子どもの主体的な 取り組みの視点



- ・頑張っている姿を受け止め、やる気を促す声かけを忘れない。
- ・地域について知り、地域の一員として街を綺麗しているという事を伝えることで意識の向上を促す。
- ・ゴミ拾い大会のような遊びを取り入れながら進めると、飽きずに集中して参加できる。
- ・清掃を行った後の駄菓子購入（50円）は子どもたちの楽しみであり、他の活動には無いため参加意欲につながっている。
- ・適切な時間配分の設定。短すぎて雑な清掃にならず、間延びしない程度の時間。墨田児童会館では移動時間を含め30分程度が妥当。

プログラム  
アドバイザー

- フレンドリープラザ墨田児童会館（東京都墨田区）  
館長 八重田裕一郎  
中山羽菜

実際に  
やって  
みました。

- ゴミの分別の意識が高まると思います。
- 事前に、経路を確認し、駄菓子屋さんと交渉しておく必要があると思いました。
- 当館では、駄菓子屋さんまで少々距離があるため、ゴミ広は片道で終了する形にしました。

KFJ多摩 すかいきっず（川崎市）

## 実施資料

### 【参考タイムテーブル】

- 17:00 集合  
館内で遊んでいる子にも声をかける
- 17:15 説明・出発 → クリーン作戦開始!
- 17:40 帰館・駄菓子購入  
おやつ&交流タイム
- 18:00 次回の予告・解散

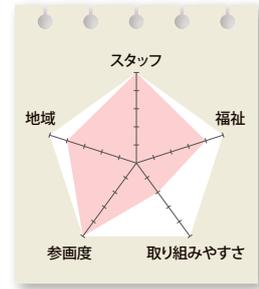


「駄菓子券(50円分)」でのお買い物は活動後のお楽しみ

## 33 こどもヘルパー活動

### ▶ ボランティア活動参加で来館機会を増やす

小学生がヘルパーとなり、地域の異世代交流や児童館行事にボランティアで参加する事業です。子どもたちが主体的に参画し、**地域共生ケア**を体験します。児童館が遊びの提供だけではなく、小学生がボランティアとして参画するプログラムを提供することで、地域支援にもなっています。



### ねらい

- 地域の行事や児童館事業に小学生ボランティアとして、参画することにより、地域活動支援と高学年児童の**児童館利用を促す**。
- 人の役に立つ喜びを体験しつつ、楽しみながら思いやりの心を学び、「**地域共生ケア**」の精神を育む。

### 実施条件

対象年齢	小学校4年生～6年生
参加する人数の目安	20人程度
必要なスタッフ数	1～2人
設備/環境	特になし
実施時期	5月頃（新学年が落ち着く頃が望ましい）
備品/道具	ユニフォーム、バンダナ、名札など
総予算	年間30,000円（助成金内）

## 事前準備

- 児童館周辺の小学校や児童館運営委員、役所関係、地域の各団体等へ事業の開催趣旨を説明する広報を行い、募集や活動への協力を仰ぎます。
- こどもヘルパーが活動できる場の情報を集めます。役所や地域の関係機関、児童館運営委員に説明して、活動・交流できる情報を収集し、活動の依頼をします。
- 活動のための資金を準備します。助成金や物品を提供・協力してくれる役所、共同募金委員会、児童健全育成財団など関係機関・団体を探します。
- 児童館周辺の各小学校や、地域行事の年間予定を調べ、児童館行事予定と合わせて年間予定表を作ります。ここから、こどもヘルパー活動の年間予定を決定します。
- 予算上可能であれば、こどもヘルパーのユニフォームやバンダナ等をそろえます。ユニフォームを着用するとヘルパーとして活動していることを周囲にアピールできるため、子どもたちの士気が上がります。
- 行事保険に加入します。
- 活躍の記録として、写真や動画を撮影します。このため、肖像権や個人情報の問題を考慮して、年度当初に保護者に許可をもらっておきます。

## 進め方

- ① 申し込み用チラシを配布します
  - ・実施日から1か月前を目安に、児童館周辺の各小学校4～6年生全員に対し、学校を通して、申込書のついたチラシを配布します。
  - ・申込書には保護者の承認を得る欄を作ります。  
※「実施資料」を参照
  - ・実施日まで2週間程度のゆとりを持って募集を締めきります。
  - ・土曜日や学校長期休業日に、年間を通して参加できる子どもを20名程度を集めると活動がしやすいです。
- ② オリエンテーションを開催します。
  - ・応募者を集め、みんなの前で、活動への期待や、参加動機などを発表する場をつくります。
  - ・大まかな年間計画を発表して、活動への期待を高めます。
- ③ 参画のための学習会や資格取得の機会を作ります。

異世代交流で高齢者にマッサージを  
することもヘルパーたち。夏休みの3  
日間に「マッサージインスクール」で  
マッサージの技術を学んだ。



- 例1) 高齢者との交流会のツールとして、専門家からマッサージの方法を学びます。
- 例2) 募金活動をする前に、共同募金委員会に依頼して「募金の必要性」などについての学習会を行います。
- 例3) ヘルパーとして防災訓練のスタッフをする場合は、まず、こどもヘルパーが防災訓練を体験するなど、事前に学習する機会を設けることで、子どもたちのやる気を促します。

**4** こどもヘルパーとして事業に参画します。

- 地域から依頼される乳幼児親子や高齢者との異世代交流会や、児童館の行事にスタッフとして参加します。
- 児童館の夏祭りや秋祭りのブース担当、クリスマス会などの季節行事に司会やスタッフとしての参画をします。
- 募金活動、防災・防犯の訓練の参画等も考えられます。

**5** 修了式と活動報告会を開催します。

修了式には、活動に協力した関係機関、保護者、各学校関係者、次年度参加希望者を招待し、こどもヘルパーが各自体験を発表します。さらにヘルパー体験をまとめた冊子を作成したり、修了書を授与する等を行い、子どもたちに達成感を持たせるようにします。



活動を記録した動画を見ながら  
発表することもヘルパー



## ポイント

- 居場所づくりも目的の一つです。  
参加者のボランティアとしての成長を促すだけでなく、高学年児童の居場所づくりも事業の目的です。ヘルパー活動以外で来館した時には、たっぷり遊ばせて、スタッフとの「おしゃべり」や「相談」などを心がけ、高学年児童が楽しんで、児童館が信頼される場所となれるよう、スタッフは留意しましょう。
- 子どもの意志を尊重することが大切です。
  - ・ 学校の協力を得て募集チラシを配りますが、参加については学校の先生や保護者の強制ではなく、あくまでも子どもの意思を尊重して行います。
  - ・ 活動に関しても、あくまでも子ども自身が考えたもので実施しているという意識を持たせるように援助します。(例えば、夏祭りの「お化け屋敷」で、子どもたちには脅かす段取りや、備品、効果音を考えてもらい、目に見えてやった感のあるところを担当させます。スタッフはコースの安全に配慮する等、裏方に回ります。)
- 応募を促し、継続を目指します。  
スタッフは、意識して前年度から行事で活躍する子どもたちをアピールすることで、まだヘルパーに応募できない3年生には、あこがれる気持ちを持ってもらえるようにします。また、3年連続参加するリピーターが生まれるように、子どもたちに働きかけます。
- グループワークで意欲を高めます。  
事業内容を考えるためのワークを行う場合は、グループワークを心がけます。今、何を決めているのか、パネルなどを使って視覚支援するなど、年齢にあった持続力を考慮し、飽きないよう短時間でまとめるように支援をします。
- 参加のためのきまりを作ります。  
学校行事ではないので、盛りだくさんの活動事業に全て参加しなくても良いこととします。ただ出欠連絡だけは行うように義務付けます。
- アンケートで意識を高めます。  
毎回の活動終了時には、自分たち自身の言葉で感想を述べてもらい、アンケートを取ることで、活動への意識を盛り立てます。
- お便りを発行します。  
学期単位ぐらいの期間で、保護者向けのお便りを発行します。お便りでは、ヘルパー事業予定を記載して、保護者が確認できるようにすると共に、子どもたちの活躍の様子を伝えることで、家族からの支援を得て、子どもたちに安心感を持たせます。

## 発展



子どもたちが、乳幼児やその保護者、高齢者、地域活動のボランティアなど、多くの異世代交流を意識することで地域社会の一員だという認識を持たせることができます。また、この経験から地域での相互の見守り活動につなげることができます。



様々な地域活動を体験することで、「地域共生ケア」の精神を育むことができます。



経験者が、中学生以上になっても、児童館ボランティアとして活躍の機会を提供することで、さらに地域ボランティアとしての成長を促すことができます。こうして居場所づくり、館の利用につなげることができます。



### 安全への配慮

- 社協の行事保険に加入しておきます。
- 参加児童の保護者には書面了解をとっておきます。

### 子どもの主体的な 取り組みの視点



これまで、参加者として慣れ親しんできた児童館イベントや地域行事に、子どもたちが参画活動とするには、スタッフや大人が考えた企画ではなく、子ども自身が考えたもので実施しているという意識を持たせるように援助することが大切です。そのため活動の前段階として、資格取得や事前に体験するための学習会の機会を作ること、また子どもたち自信が考え、行動できるような企画会議、活動ごとの感想を話せる時間などを設けるなど、そのプロセスがこの活動の特徴になります。特に学校の学習ではない児童館での体験だから「遊びこころ」を持って、取り組むよう心掛ける視点が大切です。

### プログラム アドバイザー

- 落合児童館（神戸市） 館長 古田説子  
浜野里香

協力

- 神戸市須磨区社会福祉協議会 主査 池本貴子



実際に  
やっ  
て  
みま  
した:

- 「こどもヘルパー活動」というネーミングや、マッサージインスクールという取り組みに興味を持ち実施したいと思いました。
- 子どもの参加者だけでなく、参加した高齢者の感想や社協の地域福祉の観点からの感想が掲載されると、地域共生ケアの精神が伝わりやすいのではないのでしょうか。
- チラシやアンケートが載っているので、具体的な活動をイメージしやすかったです。

---

蒲江児童館 (大分県佐伯市)

【こどもヘルパー募集チラシ】

**平成29年度 落合児童館 子どもヘルパーメンバーぼしゅう!**

落合児童館では、小学生ボランティアとして、地域の行事などで活躍する4・5・6年生のみなさんを子どもヘルパーとして募集します。

**子どもヘルパーってなにをやるの?**  
 地域や児童館の行事のお手伝いや「楽しいお祭共同募金活動」「ふれあい募金会」でのマッサージなどのボランティア活動をおこないます。

**だれができるの?**  
 小学4年生から6年生で、土曜日に活動ができるみなさん(定員20名程度)を募集します!

**平成29年度のおもな活動予定**

★ 6月10日(土) 午後2:00~	子どもヘルパー集合「オリエンテーション」
★ 7月15・29日(土)	マッサージ・インスクール
★ 8月2日(水)	地域の「ふれあい募金会」にてマッサージ実演
★ 8月5日(土)	「なつまつり」
★ 8月22日・29日(水)	午前 乳幼児親子のひろばお手伝い
★ 10月のいずれかの日曜日	「落合地区福祉大会」
★ 10月14日(土)	「落合っ子フェスタ」
★ 11月1日(土)	名品献立企画にて「楽しいお祭共同募金活動」
★ 11月・2月のいずれかの土曜日	乳幼児親子「土曜なかよしひろば」の手伝い
★ 12月16日(土)	「クリスマスお楽しみ会」
★ 3月3日(土)	「花谷地域防災訓練」
★ 3月17日(土)	平成29年度「修了式と活動報告会」

☆このほかにも活動日が増えたり、予定は変更になることがあります。「子どもヘルパー通信」でお知らせします。

お問い合わせ・申し込み: 落合児童館 まで (TEL/FAX 791-7644まで) 申込み締切: 5月27日(土)

※校区外での活動もありますので、申込みについては、保護者の方が了承の上、ご記入ください。

平成29年度 落合児童館 「子どもヘルパー」に申込みます。

小学校 年 組

住所 連絡先

【こどもヘルパー参加者の声】

いろいろ大変なこともあったけど、しっかりできて良かったです。

何回か休んでしまったけど、小さい子と遊んだりしていやされたり楽しめたことがたくさんあったので、いい思い出がたくさんできました。

ヘルパーの活動  
 すごく楽しかったです!

落合っ子フェスタのおもてなしコーナーでお茶を渡したり、マッサージをしたりして楽しかったです。共同募金ではいろいろな人が募金してくれてうれしかったです。募金してくれた人は、私たちに「ありがとう」と言ってくれてうれしかったです。

地震の体験では震度7の体験をして、めっちゃ揺られて怖かったです。

クリスマスおたのしみ会で楽器を演奏してすごいなと思いました。

子どもヘルパーを来年もしていこうと思います。

【参考】

・事業が軌道にのってくると、多方面から依頼の声がかかるので、活動内容を精査する必要があります。また、前年度の「活動報告会」へ各関係者を招くことで、事業をより広く周知広報できるため、次年度の活動できる機会や場所を依頼することができます。

・子どもたちの参加状況について  
 この事業は参加を強制するものではありませんが、子どもたち自身がやりがいを見つけると、欠席者は少なくなります。

・こどもヘルパーは年間を通しての参加が基本です。ただし、別例として単発で地域から交流を求められる場合もあります。また、児童館の事業があるたびに、募集するやり方もあります。

・ユニフォームについて  
 当館では、夏は半そでの黄色いTシャツを、冬は白のトレーナーをサイズ140・150・160号のスリーサイズで準備、左胸には「落合児童館子どもヘルパー」のロゴ入りで約30枚づつある。毎回貸し出し、使用後は当館で洗濯している。一年3万円ほどの予算で2～3年かけてそろえた。

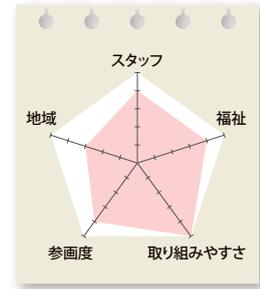
・アンケート内容の例

子どもヘルパー活動をふりかえって感想を書いてみよう  
 なつまつり(準備・当日)  
 ※こんなことしたよ  
 ※感想(かんじたこと・よかったこと・もっとこうすればよかったこと)

## 34 ハロウィン・パーティー

### ▶ ファンタジーの世界にみんなで参加できる

子どもたちが企画から考えて準備したハロウィンパーティーです。児童クラブの登録児童も、自由来館型の児童もみんなが参加して行うイベントです。さまざまなゲームやファッションショーに参加する中で、子ども同士の連帯感が生まれ、ボランティア精神の育成にもつながります。



### ねらい

- 子どもたちで企画を考えて開催まで行うことで計画性が育ち、協力して成功する体験が得られる。
- 児童クラブの登録児童が、自由来館児童と分け隔てなく一緒に活動できる。
- 子どもボランティアと、次世代を担う児童クラブの上級生（プレ子どもボランティア：プレボラ）をつなぐことが可能。
- このプログラムを通して、子ども自身が楽しくボランティア活動を始められる。
- 子どもたちが持つ共通のイメージの中で、来館者が思い思いに楽しみながら参加できる。

### 実施条件

対象年齢	小学生以上
参加する人数の目安	100名程度 ※小型児童館室内で行う場合の目安
必要なスタッフ数	スタッフ全員（全館行事のため） ※80名程度の参加者の場合、5～6名で対応可
設備/環境	特になし
実施時期	10月
備品/道具	●参加費100円 ※原則、参加費は参加者に還元するものに使用 ・50円はテーマにあったお土産グッズの制作費、50円は飲み物代。 ●ハロウィンを盛り上げる装飾や、レイアウトの時に使用するかごや入れ物は、徐々に取り揃えていったので、児童館でかかるお金はガムテープや画用紙などの消耗品費など。その年によって違うが、かからない年もある。
総予算	約15,000円

## 事前準備

- 子どもボランティアとプレボラによるハロウィン会議を行います。今年のテーマを決めて、参加者にどんな体験をさせたいかを考えます。
- 決まったテーマに沿って、絵本や資料を集めます。それを参考にしながら、ゲームや占いなどのイベントを考えて準備します。
- テーマのイメージに合う装飾品を作ったり、告知ポスターを作ることを日常的に行うことで導入とします。
- 参加する子どもの申し込みを受け付けます。受付時には、参加費100円と袋菓子1つを集めます。(参加費は当日の参加者のお土産代や飲み物代に使い、袋菓子はお菓子食べ放題のハロウィンカフェでのお菓子里に使用します)
- イベントの招待状を作って、児童館近隣の住民や小学校の先生に渡し、参加を促します。

## 当日準備

- 事業は午後からですが、午前中は子どもボランティアとプレボラによる開店準備を行います。
- ハロウィン・ファッションショーの打ち合わせ・リハーサルを行います。
  - ・参加者の入退場の流し方
  - ・司会進行/音響チェック
  - ・審査員との打ち合わせなど
- 午後からの事業なので、児童クラブはサテライト室で午前中を過ごし、時間になったら仮装して児童館へ向かいます。歩いていくことで、仮装行列を地域の方々にしてもらい、イベントの告知にもなります。

## 進め方

- ①参加者は受付で参加申し込みの際に配布された、「参加証」を見せて、ハロウィン・パーティーに参加するアイテムをもらいます。
- ②ハロウィン・ファッションショーに参加する場合は、エントリーシートに記入して申し込みます。
- ③ウォークラリー形式で、ゲームコーナー、占いコーナー、ハロウィン・



ハロウィン・ファッションショーで  
マリオに扮した子ども



新春おまつり遊び

カフェの全てを回り、お土産を手に入れます。

- ④ 15時半からハロウィン・ファッションショーの開始です。保護者の見学はファッションショーの時間からになります。前半の遊びのコーナーには参加できません。



## ポイント

- 準備の段階から、イメージが掴めるように全体像を示しながら目標を具体的に定め、本番までの準備を行います。企画段階で盛り上がり、本番まで間に合いそうもないこともあります。その場合は、企画の縮小など引き算を考え、何を楽しむのかをアドバイスして薦めます。
- プレボラは日常的に長い時間を児童館で過ごすので、仕事をあらかじめ決めて進めておくことができます。
- 子どもたちはコーナー運営に夢中になるので、スタッフがタイムキーパーとなり、次の展開の予告や気づきを促します。どう参加してよいかわからない子には、世界観を楽しめるよう声掛けをしながら、子ボラにつなぎます。
- 各コーナーをすべて回った後でも遊べるように、何度も参加できるゲームなどを用意しておきます。また、壁や館内に一人でも遊べるしかけを設置しておくのもよいでしょう。
- ファッションショーの参加者は大勢の前でのパフォーマンスになります。みな緊張しながらランウェイを歩いているので、一人ひとりの緊張をほぐして、最後までやり遂げられるよう声掛けをしていくことが必要です。
- 普段、個で話すことのできない子ども、ファンタジーの中だと本音を話し出すことが出来ることがあります。占いコーナーでは、スタッフが側にいて、その場で助け舟を出してあげられるようにしてください。また、要支援児童のためには、製作コーナーなどを設けてわかりやすく参加できるように構造化を考えましょう

-  ハロウィン・パーティーは小学生対象です。乳幼児親子には規模を縮小し、そのままのプログラムで運営ができます。
-  プレボラや参加した児童クラブの子どもたちが、ハロウィン・パーティーでの体験から多くのイメージを共有できます。このため、ハロウィン・パーティーでのゲームなどが、日常的なごっこ遊びに展開することが多くみられます。
-  ハロウィン・パーティーをヒントに、日常的に遊んでいる遊びをモチーフにして、各々が得意な遊びをコーナーとして受け持ってウォークラリー形式で参加する「あそびのマルシェ」を開催することもできます。
-  当日参加できない子どもも、準備段階でハロウィン飾りなどを製作するなど、イベントに参加できる方法を考えておきましょう。

## 効果

- 児童クラブの多くがイベントに参加します。運営側に上級生がいるため、子どもたちが児童クラブで自然発生的に「ハロウィンごっこ遊び」をするようになります。
- 子どもボランティアが児童館に来て準備をするため、普段なかなか上級生と接しない児童クラブの子どもたちも、仕事を共有することになります。それによって、連帯感が生まれ、縦割りの関係が構築されます。
- ハロウィン・パーティーには、子どもボランティアOB・OG（中高校生）なども顔を出します。このため、外から見た場合のアドバイスや参加した大人の感想など、本人たちの頑張りを外部が評価してくれる機会が増えます。
- 児童クラブ出身者で、子どもボランティアとして児童館に関わる子が増えます。
- イベントの成功にという同じ目的を成し遂げる仲間として、子ども同士が受け入れ合います。このような経験を積むことで、子ども同士の日常的トラブルが減ります。

## 安全への配慮

- 飲食を行うカフェでは、スタッフがアレルギー対応の子どもに必ずつくようにします。

## 子どもの主体的な 取り組みの視点



一つのものをつくりあげる時にテーマに沿ったあらすじを提示すると、子ども同士でどんどんと物語を肉付けすることができます。(児童館を舞台にした壮大なごっこあそび)

子どもたちの経験や体験が反映されたアイデアを皆が面白がって受け止めます。どんな意見も受け止めてもらえる場を作ることで、自分の気持ちや意見を安心して表現できるようになります。

プログラム  
アドバイザー

● 岩切児童館（仙台市） 館長 羽賀崇子

実際に  
やって  
みました。

- 低学年が中心の児童館なので、子どもボランティアの役割は難しかったので、司会や大道具などの大まかな役割を担当してもらいました。
- エントリーしたが何をしてよいかわからない子どもたちには、地域の方への招待状作成や環境政策で参加してもらいました。



横代児童館（北九州市）

【当日のタイムテーブル】

時間	当日の流れ	児童クラブ
9:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフ打合せ</li> <li>・ボラ顔合わせ・打合せ</li> <li>・各コーナーで準備</li> </ul>	サテライト登館 出席確認
9:30		
11:30	昼食  準備完了していなければ 続きを行う 司会進行・音響チェック	12:00 昼食
13:00	子ボラ・スタッフ 仮装・衣装着替え メイク	
13:30	各自・担当場所 最終チェック・スタンバイ	13:30 児童館へ移動
14:00	ハロウィン・パーティー開始 ※ファッションショー受付	13:55 児童館到着
15:30	ファッションショー開始 ・エントリー者出場 ・審査 ・入賞者発表 ・表彰・終了 ・集合写真	
16:30	解散	児童館の児童クラブ 室で時間まで過ごす

【スタッフの役割分担】

＜事前準備等＞

- 企画メイン
- 企画サブ
- 会計
- 記録（カメラ）
- 受付・参加者管理

＜当日の担当＞

- あそびのコーナー担当
- ファッションショー担当
- ボランティア担当（子ボラ・一般）
- 児童クラブ担当
- フリー（※）

※フリーのスタッフは、当日の会場の状況をみて、フェイスペイントやカードゲームなどのイベントごとに、子どもの流れを分散します。また、各自の特技で会場の雰囲気盛り上げます。

## 実施資料

### 【ハロウィン・ゲーム・占いコーナー】

テーマに沿ったゲーム内容やネーミングをつける

	<p>●魔法の秘薬 秘薬の効能がかかれた薬（ジュース）を透明な小さいカップに混ぜて飲む おいしいブレンドと微妙なブレンドが出来る大人気コーナー</p>
	<p>●カッパトッテチッテタ 河童を釣って甲羅の点数を競うゲーム ●カッパの皿のせ 河童の皿を頭にのせて障害物コースを歩く</p>
	<p>●占う妖怪づくし 妖怪カードをめくって占う 占いが終わったら、数珠をもらえる</p>
	<p>●ススランパスラン すすわたり掴み。 とったすすわたりをざるに入れる ゲーム終了後すすわたりがもらえる</p>
	<p>●小豆洗いの小豆小屋 小豆を箸で皿に移す タイムを競う</p>
	<p>●鬼太郎の ゲタ飛ばし</p>
	<p>●手の目修行 (まとあて)</p>
	<p>●だるまおとし</p>

※上記は平成28年度「ジャパニーズ・ハロウィン」

### 【ハロウィン・カフェについて】

みんなで持ち寄ったお菓子で、ヘンゼルとグレーテルみたいにお菓子をたくさん食べたい！という想いを実現するカフェです。受付時にカフェ利用券を渡し、みんなが利用できるように、完全入れ替え制です。イベント最後のファッションショーの前まで利用できます。

※アレルギー対応の子どもにはスタッフをつけます。

＜カフェ入れ替え時間＞

- ① 14:05 ～ 14:20
- ② 14:25 ～ 14:40
- ③ 14:45 ～ 15:00
- ④ 15:05 ～ 15:25



### 【岩切児童館、ハロウィンテーマの歩み】

- ハロウィン・パーティー
- 『おもてなし』
- おばけのパーティー
- びっくりぎょうてん
- 魔女の森
- 迷宮のとびら
- Ghost Ship
- Magical School ～魔法学校へようこそ～
- ハロウィンタウン ミュージアム
- ジャパニーズ・ハロウィン
- お江戸のハロウィン

2006年の児童館開館当初からハロウィン・パーティーは行っていましたが、テーマを決めての企画はこれまで11回実施してきました

実施資料



ハロウィンの参加証です  
100円と引き換えにこの参加証をもらいます



魔女さんへのメッセージ  
自由に書いてポストに入れるコーナーをつくって置いておきます



内容はこんな感じです  
入国証の下に、プレゼント引換券と  
カフェの入場券をつけています  
(全員に渡るようにするため)

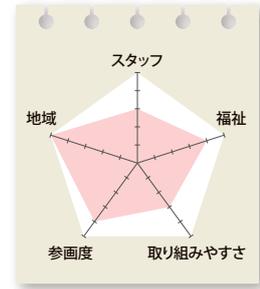


じゃばにーずハロウィンの時のおみやげ  
右から  
・すすわたり  
ポンポンをつくり目のボタンをつけます。和紙折り紙で封筒をつくり半分に切っています  
・妖怪大福帳  
障子紙を束にして製本テープで止めています。紐はクラフト製作の際のあまりものです  
この大福帳に各ゲームコーナーを回るとシールやハンコをもらえます  
・革と100円ショップで購入したクリスマスツリーの飾りを数珠に見立てて作りしました

## 35 新春おまつり遊び

### ▶ おまつりを通して伝統や文化で遊ぶ

児童クラブが中心となり、新春にちなんだ「お祭り」を企画し、みんなで楽しむイベントです。子ども獅子舞の取り組みを通して、地域住民やお店、公的機関などとも関係性が構築されます。保育園を招待することで次年度以降に児童館に来る子どもたちと触れ合うこともできます。



### ねらい

- 地域に伝わる伝統芸能や祭礼行事の中に生きる日本文化を体験することができる。
- 児童クラブが中心となって開催するプログラムで、自由来館児童とも分け隔てなく遊べる。
- ハロウィンパーティーでの経験を活かして、お祭りをみんなで作り上げる。

### 実施条件

対象年齢	乳幼児以上
参加する人数の目安	100名くらい
必要なスタッフ数	獅子舞練り歩き2名、おまつりあそび（神社コーナー・縁日コーナー・駄菓子くじコーナー）各コーナー最低1名
設備/環境	児童館内は、廃材などを利用し、神社っぽい装飾が施される。
実施時期	1月
備品/道具	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 廃材などのエコクラフトを利用</li> <li>● スタンプラリーでもらえるものは、おみくじ、おまもり、たこやき、たいやき、いちごあめ、だがしくじの6つ。おみくじ、おまもりは古紙などで手作り。たこやき、たいやき、いちごあめは古封筒などで作ったもので実際には食べられない。だがしくじは食べられる駄菓子が当たる。6つのスタンプが貯まると、最後にチロルチョコ（本物）がもらえる。</li> </ul>
	※くじで当たる駄菓子、チロルチョコは購入する。
	● 子ども獅子舞 スタッフ有志で結成した和太鼓と獅子舞を行う「宮音座（みやねざ）」指導の下、歴代の子どもたちやスタッフがつくった獅子舞と一緒に地域を練り歩く。
総予算	約15,000～20,000円



全コーナーを回るともらえるもの

## 事前準備

### 1か月前の土曜日から準備開始

- 八坂神社「こどもお神楽」にイベントへの出演を依頼し、出演者の人数と八坂神社のスケジュールを確認しておきます。
- 地域新年会で地域の方々に「新春おまつり遊び」の招待状を配布して告知します。また、地域保育所へも招待状・案内を送り、来場を促します。
- 当企画より早く行う別イベントの乳幼児親子企画「小正月あそび」でだんご木（ミズキに紅白の餅を飾る）づくりをして、児童館の館内を新春にふさわしく飾りつけをして、雰囲気盛り上げます。
- 子どもボランティアの、イベントでの担当を決め、各自のスケジュールを確認します。児童クラブの補助が必要な場合は、どんな役目に何人必要か確認をとります。
- 冬休み中、児童クラブは、おまつり準備として、たこやき/たいやき/いちごあめ/おまもりの4品の屋台と、おみくじ、おまもりなど神社あそびの商品を作ります。また、児童クラブの3年生以上のメンバーでイベント準備のためのプレボラ会議を行います。

### 子ども獅子舞練り歩きの準備

- 子ども獅子舞練り歩きの準備では、練習だけでなく、警察や区役所への届け出や地域への告知も必要です。
  - 1) 子ども獅子舞・お囃子の練習をします。
  - 2) 子ども獅子舞練り歩きルートを決定をします。
  - 3) 警察署へ、練り歩きルートの「道路使用許可申請書」を提出して申請をします。
  - 4) 区役所へ練り歩きルートの「交通指導隊員出動申請書」を提出して申請をします。
  - 5) 獅子舞練り歩き地区へチラシをポスティングして、イベントの告知と地域への協力・見守りを促します。



## 進め方



- ① 子ども獅子舞が地域の練り歩きを開始します。
- ② 児童館にやってきた参加者の受付をします。受付では各自に「おとしだま」袋が配られます。お年玉袋には紙で作った「いちごあめ」などのお菓子引換券、「だがしくじ」が入っています。
- ③ 「おまつり遊び」のオープニング、ステージで「こどもお神楽」が披露されます。
- ④ 「神社・縁日」がスタート、おとしだま袋に入っている券で子どもたちが屋台やお店を回ります。
- ⑤ 児童館に戻ってきた「子ども獅子舞」がステージで披露されて「おまつり遊び」のエンディングとなります。

### 【当日のタイムテーブル】

時間	当日の流れ	児童クラブ
8:45	・スタッフ打合せ	
9:30	・ボラ顔合わせ・打合せ ・各コーナーで準備 司会進行・音響チェック <子ども獅子舞隊> サテライト集合・練習	9:00 児童館登館 出席確認 児童クラブ係 担当ブースへ移動
10:00	子ども獅子舞練り歩き	児童クラブ参加準備
10:15	参加者受付開始	受付開始
10:30	<神楽>児童館到着 新春おまつりあそびOP 神楽披露	遊戯室に集合 おまつり参加
10:45	神社・縁日スタート 神楽の子たち着替 えた後お祭り参加	
11:00	<獅子舞児童館到着>	
11:15	エンディング準備声掛け	
11:30	エンディング	
12:00	子ども獅子舞披露 終了 子ボラ振り返り	昼食 閉館まで児童クラブ



## ポイント

- 子どもたちの多くは、神社仏閣のお祭りに参加したことがあるため、「お祭り」に対する共通のイメージがすでに共有されています。そのイメージの中で、お祭りの体験や面白かったことなどを子どもたちと話し、イベントの発想を引き出します。
- 正月あそびや小正月行事などで、松の内は過ぎていきます。「新春おまつり遊び」は、1月の下旬に行うため、冬休みから事業実施まで時間をかけアイデアを出し合いながら計画を練ることができます。
- 本企画において、子どもボランティアは児

童クラブのスタッフとしての立ち位置で見守るよう伝えます。お店の飾り方の工夫や接客の仕方など、客観的に見たアドバイスをお願いします。

●子ども獅子舞のルートは決まっていますが、どこの家や店舗を訪ねるかは当日の子どもたちが交渉して行います。気持ちよく舞うことができるように、場づくりをする必要があります。



今回の屋台遊びでは、紙で作ったたこやきを使いましたが、実際に食べられる食材を使った屋台あそびも可能です。子どもボランティアの反省会では、みんなでたこやきを作って食べています。大人数対象は難しくても、日常の中でたこやきパーティーパーティーを行うことは可能です。



「おまつり遊び」以外にも、子ども獅子舞によるWSを行うことができます。近隣の保育所への獅子舞は、卒園児などの成長した姿を見せられることもあって、先生方に大変喜ばれます。また子どもたちからも、自分たちのハレの日を共に喜んでもらったという誇らしさを感じられます。地域のお祝い事の行事などへも、子ども獅子舞が出張して舞うことができると、さらに意義深いものになります。

### 安全への配慮

- 獅子舞をかぶった子どもは周囲があまり見えません。交通指導隊員の方についてももらっていますが、獅子舞には先導役を付け、救護班も一緒に回りましょう。
- 子どもの動線、動くゲーム同士が干渉し合わないよう配置します。
- 館内にほっとできる空間やひとりでも楽しめるスペースをつくれます。

## 子どもの主体的な 取り組みの視点



子どもたちが一度は体験している日本の祭は、「お祭り」というだけで共通イメージを持つことができます。楽しさを体験した祭りのイメージを皆で話し合うことで、その時のワクワク感が増長されていきます。

お祭りは、様々な年代の人々と一緒に楽しむことができ、自分たちの頑張りを認めてもらえる場です。どちらも初めて行う時はスタッフの助言が必要ですが、回数を重ねると、大枠が固まってくるので子ども同士で進めていくことができるようになります。

プログラム  
アドバイザー

● 岩切児童館（仙台市） 館長 羽賀崇子

実際に  
やって  
みました！

- 想定参加人数と実際の参加者数、子どもボランティアの人数も書かれているといいと思います。
- 「たこやき」など、当日のブースの様子がもっとわかるとよいでしょう。「Facebookに掲載」と書いてもいいと思います。

弥生児童館（大分県佐伯市）・中野島子どもセンター（川崎市）

## 実施資料

### 【新春おまつりあそび準備・当日の様子】

	<p>●準備 おみくじつくり 大吉～凶まで様々なおみくじを子どもたちがつくる。引くと不思議と悩みが解決するおみくじ。できたおみくじは丸めて下のように（午年バージョン）</p>	<p>●子ども獅子舞練り歩き 保育所などへ訪問すると獅子の代行進に乳幼児は阿鼻叫喚。保育士は大喜びで写真撮影。</p>	
			<p>何頭もの獅子がいるため、一度噛まれても次の獅子が待機してるので、恐怖の時間が続くという、乳幼児にとっては・・・（笑）皆様の健康と幸せを祈って舞っています</p>
	<p>●たこやき・たいやき 新聞紙とお花紙でつくったたこ焼きと封筒でつくったたい焼き。児童館にたまった封筒でつくります。</p>		<p>●八坂神社の子ども神楽 地域の神社で行われている神楽を児童館で披露。笙の音が響くと不思議と館の雰囲気が変わるのが毎年不思議</p>
			<p>●神社風お社 卓球台に布をかぶせているだけのもの。手前の賽銭箱は段ボール製風呂敷や布の色。紐などで和風テイストを表現できます</p>

実施資料

	<p>一日おまつり であそびスタ ンプラリーを まわると、 これだけの おみやげがも らえます</p>
	<p>スタンプラ リーを全部ま わると、「あ りがたちょ こ」がもらえ ます (この時期に しか売らない チロルチョコ です)</p>

【スタッフの役割分担】

主に下記の役割を担当

＜事前準備等＞

- 企画メイン
- 企画サブ
- 会計
- 記録（カメラ）
- 受付・参加者管理

＜当日の担当＞

- 縁日担当
- 獅子舞担当
- 神楽担当
- ボランティア担当（子ボラ・一般）
- 児童クラブ担当

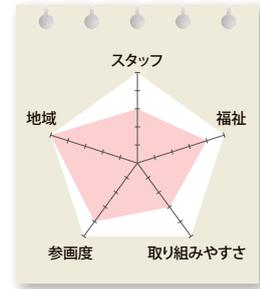
【子ども獅子舞について】

	<p>生活とともにあったはずの 民族芸能をもっと身近に！ と児童館職員有志で結成され た宮音座に指導を受け 太鼓の練習・獅子舞の練習 を本番前に行っている 獅子舞とは何ぞや。どうい う動きが獅子舞らしいのかな どレクチャーをうけている</p>
	<p>子ども獅子舞サークルとし て独立して、定期活動はまだ できていないが、昨年度 獅子舞を経験した子どもが、 動きを教えたり、経験を伝 えたりと、定着した事業にな りつつあるのを感じている</p>
	

## 36 じどうかん子ども食堂 ～みんなで食べるとおいしいね～

### ▶ 子どもたちの自立と生きていく力を培う

子どもたちが大人と一緒に食事を作り、その経験を通して自立や生きる力を育むプログラムです。児童館ならではの遊びや学びを通し、生産者や食材に対する感謝の気持ちや物の大切さ、思いやりを持つことができ、また活動を通して地域との交流が生まれます。



### ねらい

- 食事を十分に取れなかったり、料理の仕方を知らなかったり、保護者が忙しくて独りで食事をしている子どもたちが大人と一緒に食事を作り、共に食べることで、自立する力を身に付け、みんなで食べる食事の美味しさを知る。
- 余っている食材を有効に利用する「フードドライブ」や、まだ食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」について学び、生産者や作ってくれる人への感謝の気持ち、物の大切さや思いやりを学ぶ。
- 地域・学生ボランティアによる学習支援や遊びの交流を通して子どもたちが経験や知識を得たり、地域が一丸となり、子育て支援を行う体制を築く。

### 実施条件

対象年齢	0～18歳、すべての利用者
参加する人数の目安	何人でも可
必要なスタッフ数	参加する人数による。 ● 大人子ども合わせて100人以下の場合 スタッフ3名、調理・遊びボランティア合わせて6人～10人くらい。 ● 普段から児童館を利用している子どものみ20人程度の場合 スタッフ3名、調理・遊びボランティア各1人～2人くらい。 ※遊び、学習の内容により人数の増減あり。
設備/環境	キッチン
実施時期	子ども食堂開催の日時については通年可 ※初回は、3か月前から、地域との連携会議、食材集め、ボランティアとの連携などを行う。 ※2回目以降は、1か月前から、開催日の告知、参加者募集、内容決定などを行う。

備品/道具	<b>100人規模で開催したときの備品</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●調理器具（大鍋50人用×2、一升炊き炊飯器×2、フライパン、水切りザル、ボール大小、食器洗いかご、お玉、菜箸、バット、大皿、トレイなど）</li> <li>●食器（取り皿、汁椀、箸、スプーンなど人数分）</li> <li>●食材（フードドライブ、寄付、その他の食材費（3,000円/1回））</li> <li>●消耗品（ゴミ袋、キッチンペーパー、紙コップ、台拭き、ふきん、洗剤など）</li> </ul>
総予算	約5,000～70,000円（既存の厨房施設にある備品、食器等を借用できる場合は、消耗品と食材のみで開催可能）

## 事前準備

### 立ち上げ準備（初回のみ必要な準備）

※開催日の3か月前から準備を開始します。

- 取り組みに至ったプロセス**
  - ・食事を含めた生活習慣が気になる子どもたちの存在（偏食や孤食による栄養不足、食べ物を大切にできないなど）
  - ・成長期における食事の質の重要性を学ぶ中、子ども食堂イコール貧困対策というイメージを持たせないために、すべての子どもたちが大人と一緒に食を学び、遊び、食べて、成長できる場を作りたいという気持ちからスタート
- 児童館内で打ち合わせを行い、計画書を作成します。**
  - ・ほかの地域での食堂の実態を調査
  - ・地域の子どもたちの現状と様子
  - ・児童館として開催する意味と目的の共有
  - ・計画書の作成
- 行政、保健所への相談・届け出をします。**
  - ・運営管理者、行政への相談と必要な許可を取る
  - ・保健所への届け出が必要な場合は提出をする

※市町村により違うため事前に確認をしておく。
- 地域への提案、打ち合わせを行います。**
  - ・アレルギー事故や食中毒などの対策
  - ・参加対象者、定員、運営費、会場、開催回数などに関する問題点の洗い出し
  - ・地域への協力依頼（ボランティア、会場設備、光熱費、広報など）。
- 開催日時・会場を決定します。**

食材を確保します。

- ・市場や食品加工会社などへ協力依頼
- ・フードバンクからの提供
- ・地域町会からのフードドライブ
- ・参加者からのカンパなど

※当館では公設市場2社、食肉加工卸1社へ依頼

各種ボランティアを集めます。

- ・調理ボランティア
- ・学習支援ボランティア
- ・遊びボランティア
- ・音楽ボランティア など

参加対象、参加費用、申し込み方法を決定します。

- ・参加人数や会場規模により、参加対象者を決定
- ・運営費を試算して参加費を検討
- ・アレルギー事故防止や運営責任を明確にするためにチラシを作成し、書面による申し込みを行う

※申し込みチラシの例は「実施資料」を参照

**当日までの準備（2回目以降から必要な準備）**

※開催日の1か月前から準備を開始します。

食事メニュー、遊び・学習の内容を検討します。

- ・メニューは人数の増減に対応できるものにする  
(例：カレーライス、おにぎり、豚汁など)
- ・子どもたちのアンケートによりメニューを決めてもよい。  
また、寄付していただいた食材がある場合は、それをもとにメニューを決める。
- ・遊びや学習については、調理手伝いから調理完成の間に行うため、  
集団遊び・昔遊び・宿題やコンサートなど、三世代が関わる  
ことができるものを考える



調理の手伝いを  
している様子

- **開催に向けて必要なグッズを作成、用意します。**  
申し込みチラシ、プレスリリース、受付名簿、名札、タイムテーブル、食材依頼書、招待状、カンパ箱、アンケート、エプロン・三角巾、垂れ幕、設営看板など

---

- **広報・告知活動を行います。**
  - ・ 新聞社へプレスリリースの送付
  - ・ 小学校を通して全児童家庭へ申し込みチラシ配布
  - ・ 町会回覧版での告知
  - ・ 食材協力者への招待状

---

- **参加人数を決定し、食材の手配をします。**
  - ・ 提供業者、フードドライブへの手配
  - ・ 不足食材の購入
  - ・ 調理担当ボランティアとメニューの打ち合わせ

---

- **子ども、スタッフ、ボランティアの役割を決定します。**

《子ども》

  - ・ 制作物担当、調理担当、会場づくり、掃除、片付けなど

《スタッフ、ボランティア》

  - ・ 遊び担当、学習担当、調理担当、取材の対応、買い物など

---

- **事前学習として食品ロスやフードドライブについて学びます。**
  - ・ スタッフが学んだり、子どもたち自身が調べた内容を日々の児童館活動や開催日に学びあう

## 進め方

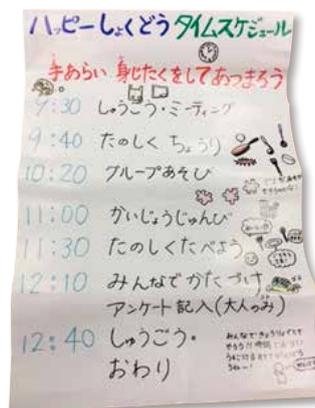
### ① 会場集合・受付を行います

- ・ 受付担当が名簿をもとに参加者をチェック
- ・ 参加者は名札・エプロン・三角巾を付ける

※事前申し込みのない子どもが来てしまった場合は、当日に保護者の許可を得た上で参加できるようにします。

### ② ミーティングを実施します

- ・ 1日の流れと役割を確認



タイムスケジュールの例

### ③会場を準備します

- 垂れ幕、机、調理器具、カンパ箱、アンケートを準備

### ④調理を開始します

- 調理ボランティアは、会食開始に間に合うスケジュールで事前に調理をスタートしておく
- 子どもたちは野菜洗いや皮むき、切る、お米研ぎ、調味料を混ぜるなどの簡単な調理を行う。

### ⑤遊び・学習タイム

- 調理の待ち時間を使って、集団遊びや学習支援を行う。



三世代での集団遊びの様子



学習の様子

### ⑥配膳の準備をします

- 遊びの片づけ後、手洗い、食事用機の設置、取り皿、箸の配置、食事の盛り付けを行う。



会場配置の例

### ⑦会食を始めます

- 食材提供者、調理者の紹介
- 地域代表、開催責任者のあいさつ
- 大人と子どもは同じテーブルにつき食事を開始



子どもと大人が向かい合って座っている様子

### ⑧片づけ・清掃を行います

- ・全員で机、食器の片づけ、清掃を行う
- ・厨房や食材の片づけは大人が中心になって行う
- ・手が空いた参加者（大人）にアンケートを記入してもらう

### 開催後

参加した大人たちに行ったアンケートや、子どもたちからの聞き取り、カンパ、会計帳簿をまとめ、館内で反省会を行い、情報を共有します。その後、開催報告書、食材提供者へのお礼状を作成し、館内に開催写真を掲示します。



## ポイント

- 開催地や規模、食事代の有料・無料によって届け出の規準が異なるため、開催前に市町村の保健衛生関連の条例を確認しておきます。また、衛生管理士や調理師の資格保有者をスタッフに入れます。
  - 運営に携わるボランティア・支援者との連携、打ち合わせを密に行って、具体的な作業内容を依頼します。  
(例：町会ボランティア部会→食事作り、民生委員と一般参加者→遊び相手と配膳)
  - タイムテーブル・看板・招待状作りなどの事前準備の手伝いや、受付・会場準備・調理・配膳・片付けなどの当日の役割分担を、子どもたちの参加型にします。
  - 調理補助や調理の待ち時間に行う遊び、学習などを通して、食事の楽しさ・美味しさだけでなく、経験と知識を持ち帰ることができるようにします。
- (例：調理補助、フードドライブや食品ロスの講演、読み聞かせ、学習支援や集団遊びなど)
- 食事中は子どもたちの日頃の生活の様子を聞くことができる機会であるため、大人と子どもは一緒に食事をして、食事の仕方や食べる量などを見ておきます。
  - 配慮が必要な子どもが気兼ねなく来られるように、個別に声かけをするなどします。
  - 地域と連携を取り、信頼関係を深めるようにします。寿台では、地域行事への積極的な参加、館行事への招待、運営委員会などで情報交換を行っています。小規模児童館では、衛生面や設備面で食事提供が難しいケースがありますので、地域施設を利用したり、地域ボランティアの協力を得ることで開催が可能になりました。

### 🍃 ハッピー弁当

フードドライブ活動中に、大人でもご飯が作れず食べられない人がいることを聞き、子どもたちが将来生きていく力を付けるための自立支援を目的としたプログラムです。子どもが「自分で考えて自分の弁当」を作ることで、ソーシャルスキルを高め、自分自身で生活環境を切り開く力を付けることができます。

全く刃物を使わないメニューからスタートして、刃物→火→フライパンと一つ一つステップアップしながら、約2か月に一度の間隔で調理実習を行います。

#### 【調理内容の例】

フォークで卵サンドづくり、一番だしをとって作る味噌汁、子どもがメニューから考えるお弁当づくりなど。最終回はグループに分かれて自分たちで決めたおかずのお弁当を作り、お世話になった人に食べてもらいました。平成28年4月～平成29年3月に実施しました。



調理の様子

### 🍃 わくわくハッピーワールド

ハッピー弁当の継続活動として、平成29年4月より実施しています。調理を覚えた子どもたちとともに、世界の国を学びながら年4回、調理体験を取り入れた活動です。外国籍の子どもが多い地域のため、自分と違う考えや文化の人たちを理解し、差別や偏見をなくし、いじめ防止や人を思いやる気持ちを育てる目的で開催しています。

#### 【活動内容】

国旗あてクイズ、子どもが先生役の中国語講座、ブラジルの方に教わる本場のおやつ作り、興味ある国を調べるわくハピノート作りなど



調べたい国を国旗から選ぶ子どもたち



### さんかくおむすびくらぶ・どうようおむすびくらぶ

「子ども食堂」を毎月開催してほしいとの要望から生まれ、児童館、子ども、地域の三者を「三角」に見立てて、おむすびを食事に取り入れた「学習支援+食」の活動です。調理ボランティア、講師を地域ボランティアに依頼し行っています。

平成29年度、松本市では「子どもの未来応援事業」として子どもの居場所づくりの支援をスタートしました。おむすびくらぶは、この交付金を利用し開催しています。

#### 【活動内容】

小学生高学年、中学生に対応した講師付きの学習支援を週1回、小学生全学年対象にした寄り添い型の学習支援を月1回、平成29年4月から行っています。



学習会の様子



### 食品ロス、フードドライブ活動

子どもたちの話し合いや出前講座を通して、「食べられること」のありがたさと、今も食べられない人がいることを学びながら、子どもたち自身が考え活動をしています。

#### フードドライブとは？

家庭の中でも食べられるのに捨てられてしまう食品ロスがあります。食品ロスをなくし、必要な方に届けるため、広く住民に呼びかけて食料を持ち寄る活動のことをいいます。「もったいない」を「ありがたい」を合言葉に活動をしています。松本市としても、この活動に力を入れています。

#### 【活動内容】

- ・平成28年5月より、公設市場との連携で、食べられるけど売れない食材をいただき、利用者の家庭・近隣・おむすびくらぶ・こども食堂で活用しています。
- ・子どもたちが自分の言葉で創作絵本を作成して、こども食堂や夏休みの公民館お話会、保育園での話会、いどう児童館、子どもの居場所づくりシンポジウムなどで読み聞かせをして地域の人とも食品ロスについて共有しました。
- ・福祉ひろばにもフードドライブの箱を置いて、地域の方々にも協力してもらっています。届いた食品は、生活困窮者を支える団体への寄付とこども食堂で活用しています。



創作した絵本を読み聞かせしている



## 地域の高校生ボランティアとの連携

子どもたちと関わる仕事を目指す若いボランティア育成のために、市内の高校へのボランティアを依頼しています。実体験を通して、子どもとのコミュニケーションの仕方を学んでもらいながら子どもたちにも年が近い人たちとの遊びを体験してもらいます。

コンタクトの無い学校については、まずスポット的なボランティア依頼から始め、また、ボランティア募集ポスターの張り出しを高校に依頼しています。夏休みのボランティア依頼がきっかけとなって、現在、部活動として週1回児童館へ活動に来ている方もいます。

### 【活動内容】

子ども食堂・ハッピー弁当など行事の補助や普段の児童館での遊びのボランティア

#### \*参考資料1

##### 子ども食堂の内容と参加人数

開催日	開催内容	人数
1回目 H28.3.26	カレー、カレーゲーム(食材カード集め)、 手作りすごろく大会	65名
2回目 H28.6.20	東北の料理、自分の手で握るおにぎり、 松本市出前講座「地産地消と市場」	64名
3回目 H28.8.3	夏休みBBQ大会(リクエスト)、学習支援、縁日	48名
4回目 H28.8.19	ハッピーモーニング食堂 サラダ、ゆで卵、 スープ、トースト、学習支援	31名
5回目 H28.8.27	あんかけ丼とトン汁(リクエスト)、学習支援、 ハーブ体験教室	43名
6回目 H28.11	郷土料理の伝承「おやき教室」	36名
7回目 H29.3.25	春休み企画 カレー、カレーゲーム	55名
8回目 H29.6.24	手巻き寿司(リクエスト)と昔遊び	62名
9回目 H29.8.5	ハッピーモーニング食堂 ご飯、味噌汁、 納豆など和食バイキング、学習支援	19名

### ! 安全への配慮

- 食物アレルギー・参加中の事故防止のため、子ども本人からの自己申告だけでなく、保護者には必ず申込書に記載してもらい、承諾を得るようにします。
- 参加中の事故への対策のひとつとして、ボランティア行事用保険に加入します。
- 食中毒防止のため、スタッフならびにメインの調理者は定期的に(2ヶ月に1回)検便、毎回検食を行います。

## 子どもの主体的な 取り組みの視点



「食べにいくだけ」、「食べさせてもらうだけ」はなく、準備から片づけまで関わり、何かを学び取る時間にしてもらいます。

事前準備として、食べ物の大切さや作り手への感謝を学んだり、招待状やポスター製作などを子どもたちは行ないます。当日は受付、調理助手、学びとして「学習支援」、また、三世代遊び、集団遊びなどに参加することでコミュニケーションを学ぶことができます。

メニューの一部を自分たちで考えることで自分たちも「主催者の一人」との自覚が生まれ、積極的に参加ができるようになります。

プログラム  
アドバイザー

● 寿台児童館（長野県松本市） 竹内亜哉  
設楽秀子

実際に  
やって  
みました

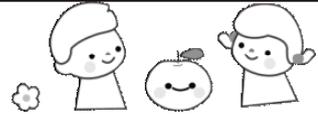
- 参加人数の他に、参加ボランティアの人数の目安があると、イメージが湧きやすいと思います。
- 実施にあたり食材が先か、献立が先かなど、献立の決め方の順を考えました。



蒲江児童館（大分県佐伯市）・浜岡中央児童館（静岡県御前崎市）

8回目

☆みんなでたべるとおいしいね☆



# 寿台ハッピー食堂

みんなで作って!みんなで食べて!みんなで学ぼう!

食べられるってうれしいね、食べもののこすのもったいないね  
こまったときはおたがいさま、ありがとうのきもち  
食べることをとおしていろいろなことを学ぶ場にしたいと思います。

かいさい●6月24日(土) 9:30 しゅうごう 12:40 おわり

ばしょ●寿台ふれあいセンター

今回は普遊びと手巻き寿司です。みんなで遊んで楽しく食べましょう。

\*コマ回し、マンカラ、けん玉、お手玉..遊びの達人募集!

\*季節柄、具材に生ものはありません。

大人も、子どもも、誰でも参加いただけます。



もちもの

エプロン、バンダナ、ハンカチ

のみもの(大人も子どもも忘れずに!!!)

☆貴重品は持ってこないでね

さんかひ  
参加費



子どもはむりょうです。

大人は 100 円以上のカンパにご協力をお願いします。次の食堂の材料費になります。

お願い



大人も子どもも、初めて参加されるかたは食物アレルギーの有無を児童館に出してください。子どもは「ほごしゃ」に書いてもらってください。

申込書は子どもが持ってきても OK です。

2 回目以降は児童館で名前だけ書いても OK。おうちの人に参加することを必ず伝えてくださいね!

主催: NPO 法人ワーカーズコープ松本  
共催: 寿台児童館運営委員会、寿台町会連合会、寿台児童館

食材提供(敬称略): フードバンク信州、

問合せ: 寿台児童館 0263-86-1069

..... 切り取り .....

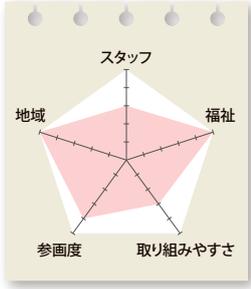
もうしこみ書	
名 前	( 年)
	( 年)
	( 年)
保護者名	
住 所	松本市
緊急連絡先	
アレルギーの有無	食物名

\*6月19日までに寿台児童館へご連絡ください。

# 37 障がいのある子を持つ親の会

## ▶ 児童館がつくる悩みを語り合う場

障がい児を持つ親同士が不安や困りごとを話しあい、エンパワメントしあう関係性を築く取り組みです。障がいそのものに対する理解も自ずと深まり、虐待や2次障がい防止にもつながります。また、「親の会」を作るHOW TOを共有することで、行政・社協・学校との連携も広がります。



### ねらい

- 発達障がいの子どもを抱えて、育て方やかわり方に不安を抱えている保護者は多い。そんな悩みを共有したり、情報をもらったりする場所を作ることで、**親同士がエンパワメントしあえる。**
- 発達障がいと診断されると、親はどうしていいかわからず、とても苦しい思いを抱える。そんな時に**先輩ママからの助言や経験は大きな助けになる。**
- 発達障がいへの理解が深まり、子どもとの関りがよくなることで、**2次障害や虐待の発生防止**につながる。
- 地域が発達障がいへの理解を深めることで、**障害のある子どもが生活しやすい地域づくり**へと広がる。

### 実施条件

対象年齢	乳幼児～中学生
参加する人数の目安	何人でもOK
必要なスタッフ数	固定的に会の中心になってくれるリーダー（障がいの子をもつ保護者）1人（できれば2人）、スタッフ1人
設備/環境	親の会をするための部屋
実施時期	いつでも可。準備期間は1～2か月程度。お互いの確認をしっかりと、場所が決まればすぐに開催可能。広報には多少の時間がかかる。リーダーやスタッフの負担がないように、実施頻度は月1回程度がよい。第何週の何曜日、何時等を決めたら変更はしない方がよい。決めておけば、「今日行ってみようかな？」と思ったときに参加がしやすい。
備品/道具	●紙コップ ●お茶やお茶菓子（なくてもよいが、食べたり飲んだりすると話がはずむ） ●記録簿 ●参加者名簿
総予算	お茶菓子代 1回 100円程度

**まず地域からリーダーを見つけます。**

子どもの障害や発達で悩んでいる保護者は多く、悩みを共有する場所を探しています。そんな保護者は、背中を押してくれるスタッフの「一緒にやってみよう」の一言を待っているはずです。思い切って声をかけてみましょう。

できればリーダーを2人決めておくと、リーダーの負担が軽くなります。

**外部機関と連携します。**

行政の障がいや保健福祉関係の担当課、社会福祉協議会、学校の支援学級へ「こんな会を設置したい」と相談してつながりましょう。連携を取ることで、リーダーになれそうな方を紹介してもらったり、会の広報をお願いしたりできるので、活動が広がるきっかけになります。行政は連携の必要性を常に感じてますから、積極的に働きかけてみましょう。

**リーダーとスタッフ相互の思いを共有します。**

リーダーになる人が決まったら、どんな場所にしたいか、お互いの思いを共有しましょう。例えば、「勉強する事より、おしゃべりをしながら、気持ちをすっきりさせるような場所にしたい」など、会の方向性や、「お茶菓子・飲み物」「資金」「会のルール」「曜日や時間」「会の名前」等の枠組みを共有しておくことが大切です。

**トラブルを防ぐために。**

ア) 会を運営するにあたって、不安な事やあいまいな事は事前に確認して解消しておきましょう。会のルール作りは特に大切なので、「他人を批判しない」「発言を批評しない」「ここで話したことを一歩外に出たら噂話にしない」など、お互いが気持ちよく過ごせるような場作りを確認しておきましょう。

イ) ルールを確認しても批判や批評が出てくる場合は、スタッフが話を一時ストップして、再度ルールの確認を行いましょう。

**広報やPRを行います。**

児童館はおたよりやポスター・市の広報などを活用したり、学校・児童デイサービス事業所・市の障害福祉担当課にも、広報をお願いするとよいでしょう。保護者は、口コミやSNS等のできる範囲で会のお知らせをしてもらいましょう。



おしゃべり広場  
ひだまりの会の様子

## 進め方

- ①始める前に、スタッフとリーダーさんと参加者を迎え入れる準備をします。飲み物やお菓子の準備など、セッティングをします。初めは少人数でも口コミでどんどん広がっていきます。
- ②会の進行はリーダーが行います。参加者にルールの説明をします。「人を批判しない」「批評しない」「ここで話したことは他言しない」「会場を出たら忘れて噂話にしない」など、お互い気持ちよく過ごせるようにしましょうと話しておくことが大切です。
  - ・ルールの確認は、毎回必ず会の最初に行います。ルールをA3くらい用の紙に書いておき、一緒に確認するとよいでしょう。
- ③初めて来る方のために、自己紹介は毎回するとよいでしょう。
- ④自己紹介がすんだら、自然とおしゃべりが始まります。その時その時の雰囲気にならして進めましょう。話がなかなか始まらない時は、アイスブレイクや本の紹介（こんな事が書かれています）などを行うことで、リラックスして話す事ができます。
- ⑤終了時間になったら声をかけて、一緒に片づけをしましょう。
- ⑥発達障がいをサポートする事業所からの参加があるときは、親のための会であることを説明して、「事業所のPRはしない」ことを確認しておきましょう。



## ポイント

- リーダーは、会の運営上の悩みや気になることなどを抱えがちです。これをスタッフが一緒に考えていくことで、リーダーの負担は軽くなります。会の終了時には、短くてもいいのでスタッフとリーダーで振り返りの時間を持つとよいでしょう。
- スタッフが会に参加することで、発達障がいを持つ親の気持ちに気づくことができます。

- 発達に課題を抱えた子どもと児童館で接するときの学びになります。
- 悩みを解決する力は本人が持っています。悩みを解決してあげようという姿勢ではなく、じっくりと話を聴くことが大切です。
- アドバイスを本人が望んでいると気づいたり、スタッフがアドバイスが必要と感じた

ら、会の終了後に個別に行いましょう。

- 取り組み時にスタッフが申し合わせている事は、遅れてきた方の部屋への案内や、会の準備のお手伝いをします。
- スタッフが援助で求められるスキルは、聴く役に徹して、リーダーを支える黒子になる事が大切です。

## 発展

- 児童館が地域の人材を育てる場所となります。
- 親同士がつながり、自発的に活動できるようになります。
- 親同士で必要な勉強会や研修会を考えて実行できます。
- 当事者の保護者が、障がいへの理解を地域に広げる活動へとひろがります。
- 子どもへの関り方の理解につながります。
- 行政の支援につながるケースも考えられます。



「にこキッズフェスタのダンス練習会に参加した子どもたち。  
押しているのはダウン症のHくん、全身麻痺のMくんの車を押してくれて、会場入りしました。みんなで協力しながら、にこキッズダンスの練習に参加しています。」



## 安全への配慮

- 「他人を批判しない」「発言を批評しない」「話したことは、一歩外に出たら話さない」のルールは徹底して守るように確認しておきましょう

### 保護者の主体的な 取り組みの視点



障がいの子を抱えた親の会は、悩んでいる保護者が多い事からスタートしました。障がいの子がいる保護者は、社会に子どもの障がいを理解してほしいという思いがとても強く、また同じような悩みを抱えた方と繋がりたいと考えています。定期的集まる居場所を提供し、保護者同士のつながりができると、自分たちのやりたい事をどんどん実現するための行動につながってきています。児童館はその会を支えていく事と行政や地域へ親の会の活動を広報する事で、行政からの支援や協力を受けやすくなり、保護者の活動がどんどん広がってくると思います。

### プログラム アドバイザー

- みどり町児童センター（沖縄県うるま市） 館長 山城康代
- いしかわ児童館（沖縄県うるま市） 玉那覇優子
- 屋慶名児童館（沖縄県うるま市） 森根明日向

### 実際に やってみました

- 児童館としては、イベント時に授産施設やグループホームの方々にも参加していただいた実績がある。
- 周知は出来たが、区内にすでに団体があるので参加者は少なかった（自施設の親子のみ）。
- 3団体ほどすでにあるため、新たな企画を児童館で実施というよりは、スタッフがその場へお邪魔して何かサポートできるような事案があるか聞いておくことで、別なイベントなどの広がりが出来ると感じた。
- エレベーターがないので、車いすの方への配慮も検討しなければならない。

高田馬場第一児童館（東京都新宿区）

## 実施資料

時 間	ゆんたく広場えんじえる（参加人数 多くて20名程度） 毎月第2水曜日 午前10時～12時開催 参加費100円
9時30分	お茶・お菓子の準備 机のセッティング 参加費を入れる入れ物を準備する。参加者が来たら、参加費を入れてもらい、飲み物を自分で入れてもらう。
10時	集まったらリーダーさんが挨拶をして、注意事項を話す。 自己紹介をしたら、あとはフリートーク 一人の話をみんなで聞く場合もありますが、2～3人で話したりしてもOK。気持ちがすっきりして帰れて、子どもとゆっくり向き合えるといいですね。
11時45分	講演会や勉強会等と次回の会の日程をお知らせして、参加者と一緒に片付けをして終了



### ●取り組んだきっかけ

児童館に来館するお母さんが「保育所に子どもが発達障がいであることを話したら、お母さんの育て方が悪かったんですね、と言われて一週間泣きました」と話されました。学習がゆっくりであるために学校に援助をお願いしても、発達障がいへの理解がないこともあります。発達障がいは、外見ではわからない障がいであるために、親だけではなく子どもも困っている事を感じました。地域への障がい理解につなげ、親の支援をするためには、当事者の親の想いを聴き、情報を届けられる居場所を作る必要性を感じました。ここから、児童館に出入りしている保護者に呼び掛けて会の実施になりました。

### にこにこキッズフェスタ（障がい児フェスタ）

にこにこキッズフェスタは行政と児童デイサービスの事業所、親の会が一緒になり開催している、障がいの子のためのフェスタです。

親の会では親子の交流を目的に10回の親子ダンスレッスンをし、フェスタで発表をしています。ダンスレッスンでは高校生ボランティアや行政担当者などが関わりながら、みんなが子どもの事を理解し、親子での関わりと親同士のつながりが生れています。子どもたちもお互いを知り合いフェスタでは練習風景と親の願いや子どもたちの様子をビデオにし、最後にダンスを披露して毎回、感動の渦が広がっています。

その他に親の会からの提案で、障がいを理解してほしいと親の願いを書いたうちわを1000枚会場で配布するなど、地域への理解啓発にがんばっています。積み木のワークは、5000個の積み木を会場に持ち込み、障がいを持つ子どもとそうでない子どもと一緒に、あきることなく遊び続けています。友達と協力して大きなタワーを作って壊したり、親子でお家をつくったりとフェスタでは欠かせない交流と遊び場になっています。今年で5回目を迎えました。



## ゆんたく広場 障がいの子を持つ親の会

こどもの発達が  
気になる

話を聴いてほしい

子育て、みんな  
どうしてる？

たのしくおしゃべり  
しましょう！！

なんでも気軽におしゃべりしましょう！！子どもの事、自慢、困っていること、気になること、なんでもかまいません。近くのゆんたく広場に出かけてみませんか？

お茶代100円（各ゆんたく広場）



ゆんたく広場

えんじえる

毎月第2水曜日 午前10時

場所：みどり町児童センター

電話：972-6200



ゆんたく広場

さくらんぼ

毎月第3木曜日 午前10時

場所：いしかわ児童館

電話：964-6051



ゆんたく広場

ひだまり

毎月第2金曜日 午前10時

場所：なかきす児童センター

電話：974-1309



ゆんたく広場

クローバー

毎月第3金曜日 午前10時

場所：屋慶名児童館

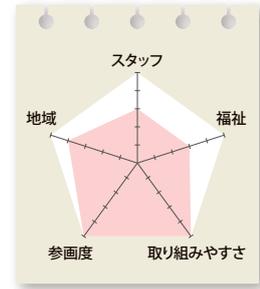
電話：978-6082

おしゃべり広場を呼びかけるチラシ。「ゆんたく」は沖縄の言葉で「おしゃべりする」という意味です。

## 38 防災ダンボールキャンプ

### ▶ 防災意識を高める遊び体験

災害を知らない子ども・家庭を対象にした、防災意識を高めるためのプログラムです。ダンボールを使ったキャンプという遊び体験を通して、自分で考え、工夫する機会をつくり、「あたりまえ」を「ありがたい・ありがとう」に変えることで、防災に対する意識を高めていきます。



### ねらい

- 災害を経験していない子どもたち（家族）が、**防災を「他人事」ではなく「自分のこと」としてとらえることができる**ようにダンボールを使った宿泊体験を実施し、防災について考え・知る機会とする。
- **災害経験者とつながることで防災意識が高まる**。
- 持ち物の指示を行わず、**必要なものを自分（家族）で考えリュックに準備**し、キャンプ終了後、必要だと思ったものを荷物に追加し、各家庭の『非常用持ち出し袋』とする。
- 子どもだけでなく、保護者も事業の一部に参加してもらい、災害時を意識し、**避難場所の確認や非常時の家族の連絡方法などを再確認**する。
- 欲しいものが簡単に手に入る環境、困ったらすぐに大人が手伝ってくれる環境から意図的に離すことで、**子ども同士で協力・工夫**し、「あたりまえ」を「ありがたい・ありがとう」に変える。
- 今までの体験をつなぎ合わせ、その場に応じた形に**応用・工夫**することで「成功体験」を得る。また、知識や体験を重視するのではなく、「失敗体験」＝「こうするとうまくいかないという発見体験」を通じ、**状況に応じて工夫する力を育む**。

### 実施条件

対象年齢	小学生以上とその家族
参加する人数の目安	親子20組程度（実施場所の広さによる）
必要なスタッフ数	スタッフ2名、地域ボランティア数名
設備/環境	宿泊できる場所（児童館や学校体育館等） ※夜間の安全が守れるところ
実施時期	あまり寒くなりすぎない時期が望ましい
備品/道具	*児童館側で準備するものとしてチラシで周知しておく。また、実際の避難先に、潤沢な物資があるとは限らないため、主催者側が準備できた量を予め子どもたちに伝え、皆で協力し、譲り合って使うことを伝える。 ●ダンボール ●紙製のガムテープ（1グループに対して1つ）

※紙テープは、布テープと違い、上から重ねて貼ることができないため、どのように使うかを考えるきっかけになる

●新聞紙

●飲料水（1人につきペットボトル1本）

●乾パン（全体で1缶）

総予算

約5,000円（場所代・保険代等）

※人件費を除く

※水や非常食などは行政機関の備蓄の入れ替えと連携

## 事前準備

チラシを作成し、開催の案内と参加者の募集をします。

参加者に対し、宿泊に対応した保険をかけておきます。

チラシには、下記が必須の記載事項となります。

- ・ダンボールハウスをつくり室内で宿泊をする
- ・トイレは使用可能
- ・児童館側で準備するもの一覧
- ・上記一覧に記載されているもの以外は、自分または家族と一緒に必要なものを考え、リュック1つにまとめて持参する

※寒い時期に実施する場合はリュックが1つ以上でも構いません。

※児童館から「〇〇を持って来てください」の指示はしないでください。

なお、持参する内容に正解はありません。

## 進め方

### ① 導入（保護者と共に参加）

下記のような質問で家族の防災意識を確認します。

「被災した経験のある人は？ ない人は？」

「自分の家の避難場所を知っていますか？」

「連絡をとれない場合の家族の集合場所は？」

### ② 『持ってきたものなあに？』（保護者と共に参加）

参加者全員で輪になって座り、各自、持参したものを自分の前に広げます。その際、人に見せたくないものはリュックに入れたままでよいことを伝えます。

↓

自分が持参したものの中から、おすすめのを一人ずつ発表していきます。

↓



ライターやマッチなど、火が付くものを持ってきている子どもがいる場合は、安全のため、スタッフが帰宅時まで保管します。

### ③ 『親子防災プログラム』（保護者と共に参加）

#### ≪六甲道児童館実施例≫

##### ● 防災ダック（防災教育用カードゲーム）

カードゲームで子どもたちにわかりやすく災害時（地震・火事・洪水・津波等）の対応を伝えます。

※カードは日本損害保険協会にて購入可能

<http://www.sonpo.or.jp/news/publish/education/0008.html>

##### ● あの日の風景 / 現在の風景

阪神淡路大震災時の写真を見せて、それが現在のどこの場所なのか、どのように変わったのかを皆で意見を共有します。また震災を経験しているボランティアスタッフや保護者に当時の様子を話してもらいます。

##### ● 新聞紙で作る防災グッズづくり

小学生が考えた新聞スリッパを紹介し、実際に作ってみます。ここではあえて片足分しか作らず、後のダンボールハウスづくりの際にもう片足分を作るよう促します。

##### ● 防災パッククッキング

限られた水や汚れた水で、温かい食事をつくる方法を紹介し、皆で作り、試食します。



「防災ダック」は未就学児でも参加することができるゲームです

震災時、屋外にはガラスが散乱し、室内から裸足で非難することは難しい状況だったことを伝え、あるもので工夫することを伝えます



#### ④保護者帰宅（これ以降は子どものみで行う）

ダンボールハウスづくりなどの様子はブログやSNSなどで随時投稿し、保護者の皆様が子どもの様子を確認できるようにします。

#### ⑤グループ分け

ダンボールハウスを作る際のグループ分けは、子どもたちに任せます。1人でチャレンジしても構いませんが、他の小学校や異なる学年の子どももいるため、さびしい思いをする子がいないよう、子ども同士で配慮してもらうようにします。

#### ⑥ダンボールハウスづくり

グループごとに、寝泊まりするためのダンボールハウスを子どもだけで作ります。

このとき、スタッフは全体に関する注意事項だけを伝え、教えすぎないようにします。子ども同士がお互いに教えあうことを重視します。なお、ガムテープは1グループに1個までとし、節約・工夫の大切さに子どもたちが気づけるようにします。

注) 子どもたちが、「〇〇を貸してください」、「手伝って」、「教えて」等を言いにくても、予めチラシで告知していた備品以外は渡さず、自ら持ってきたもので対応するよう促します。大人はなるべく口を出さず、子どもたちが自分たちの力で解決できるように導きます。

例) 「ハサミを貸してください」→「児童館で準備しているのは新聞、ダンボール、ガムテープだけだよ」

→使わなくてもできる方法や、持参している子に借りに行くなどの対応を子どもたちに考えさせます。

#### ⑦夜更かしタイム

21時になった時点で消灯する旨を事前に伝えておきます。

消灯以降に起きている場合は、寝ている人の迷惑にならないよう伝えます

→各自就寝



ハサミがない子どもたちがダンボールでダンボールを切っている様子



周囲に配慮することが大切であることを学んでいきます

## ⑧起床・非常食準備・片づけ

6:00に起床し、全員で非常食（アルファ米）を準備します。水とお湯、両方のものをひとつずつ準備し、できあがりの時間が片付け終了頃に合うよう調理します（片づけ前に水のを、片づけがまとまってきたころにお湯のを準備）。調理と並行してグループごとに荷物を整理し、ダンボールハウスを解体しまとめます。まとめたダンボールは廃品回収に出します。

## ⑨朝の活動

### ●非常食試食会

水で作ったごはん、お湯で作ったごはんを参加者がスプーンで一口ずつ試食します。持ち物の中に火をつける道具が入っていなかった人は、水でしか作れませんが、火を分け合えば、全員があたたかいご飯を食べることができます。それを伝えることで、協力・分かち合いの心を考える機会にします。

※児童館側で準備している乾パンは、参加者が非常食を持参していない場合に、ダンボールハウス製作時から自由に食べていいこととしています。ただし、「全体で1缶」なので自然に皆のことを考えるようになります。

### ●マッチで火をつける

屋外に出てマッチを擦る体験を試みる。

## ⑩フィードバック（保護者と共に参加）

朝、7時に保護者に集合してもらい、親も含めて、全員で昨夜の様子を振り返りを行います。物品（発展①参照）などを配布し、家に帰ってからの作業について説明します。

## ⑪振り返り

各自、自宅に戻ってから、今回持参したもの以外で「こんなものがあると役に立つ」と感じたものや「絶対に準備しておくべきもの」などを家族で話し合い、リュックに追加し、非常用持ち出し袋としてすぐに持ち出せる場所に常備しておきます。また、保護者には子どもと話し合ったうえでアンケート用紙に記入し、児童館に提出するよう依頼します。



## ポイント

●知識や体験を重視したプログラムが多い傾向にありますが、大切なことはそれらをつなぎ合わせる力です。子どもが成功できるように準備しておくのではなく、子ども自

身が「組み合わせ」、「工夫する」、その余地をあえて残しておくことが大切です。

●大人は、子どもたちに失敗してほしくない

という思いから、すぐに手や口を出し、成功させてしまいがちですが、本事業において重要なことは、まず、たくさんの「失敗体験」（こうするとうまくいかないという発見体験）をすることです。その上で、周囲との協力や、自身の創意工夫が成功につながることを知ると、それが深い学びになります。したがって、ボランティアスタッフや保護者に対し、子どもを信じて待つことの大切さを事前に周知しておくことが必

要です。

- 地域によっては実施の時期を検討する必要があります。寒いことも経験ではありますが、体調を崩さない時期にするなどの配慮が必要です。
- 申し込み時に、参加児童のアレルギー保有や疾患など、気になることについて保護者に聞き取りをしておきます。

## 発展

-  行政などが準備している備蓄食料は、賞味期限切れにならないように定期的に補充しています。非常食試食会に、賞味期限が迫ったものを活用してもらえよう、事前に行政などに掛け合っておきます。また、参加者に非常食を持ち帰らせ、家族にも体験してもらうようにすると、より意義深いものとなります。
-  自分が直面した課題を自分自身で解決する力をつけてほしいのはすべての保護者の願いです。しかし、マッチが擦れない、缶切りを使えない、紐が結べない、といった子どもが数多く存在しています。したがって、そうしたことを実体験する機会をプログラムの中に組み込んでいくようにします。
-  あえて制限を強めることで、工夫する力を引き出します。  
(例: 食べ物は持ってこない、持ち物はリュック1つに入るように持ってくる、各グループにガムテープ1つ、など)
-  安全面を確保できれば屋外でも実施可能。  
(実施時期と不審者侵入防止などの観点も必要)
-  キャンプ場などを活用し、家族単位で実施することも可能です。



複数回にわたり実施したら、経験者枠をつくり、そこに該当する子どもたちにはグループ構成の際に、あえて異なるグループに分かれて入ってもらうようにします。そうすることで、実体験を踏まえ、工夫する力を発揮しやすくなります。

例) 床が固く眠れなかった子どもが次回は重点的に床を作る、窓際で寒くて眠れなかった子どもが次回は窓から離れてダンボールハウスを設置するなど。



### 安全への配慮

- 万一来に備え、救急用品を準備しておきます。
- 万一来に備え、参加者の緊急連絡先を記入した名簿を準備しておきます。
- 衛生上、長期にわたり屋外で保管されていたダンボールや新聞紙は使用しないようにします。
- ダンボールは側面で手を切ることがあるので注意が必要です。
- カッターやハサミを使う場合は、後ろ側に人がいないことを十分に確かめてから行うよう注意を促します。

### 子どもの主体的な 取り組みの視点



子どもたちの段ボールキャンプの参加に伴い、備品などを家族で考えたりフィードバックしてもらうことで、防災を子どもだけではなく家族全体の意識に広げていく。「できない」「こまった」という子どもたちの発言など、キャンプ実施中に表出してきた子どもたちの困ったことをスタッフやボランティアスタッフが手伝うのではなく、自ら考え仲間と共に協力して解決できるように導いていきます。スタッフやボランティアに課せられた最大の仕事は口や手を出さず、見守ることです。安全に配慮しながらそれをするのは実は最も難しい関わりなのです。

プログラム  
アドバイザー

●六甲道児童館（神戸市） 館長 金坂尚人  
八木千波  
大谷幸子

実際に  
やって  
みました。

- 参加メンバーが確定した時点で「保護者説明会」を実施しました。保護者にプログラムの趣旨を事前に理解していただくためには必要なことだと思います。
- 12月に実施したため、風邪をひかない程度に暖房を使用しました。子どもが体調を崩すことを心配する保護者が多かったので、適度な空調は必要だと思います。
- 低学年の子どもが多い場合は、スタッフがスタッフルームと称して見本となるダンボールハウスを作るなど、作り方のヒントを見せるといいと思います。
- 参加者を増やすには、近隣の小学校や役所にチラシを配布したり、ポスターを掲示させてもらうといいと思います。
- 今回は無料で実施しましたが、保険料だけは徴収してもよいかもしれません。これには安易なキャンセルを減らす効果もあると思います。



KFJ多摩 すかいぎっず



寿台児童館

KFJ多摩 すかいぎっず (川崎市)・寿台児童館 (長野県松本市)

神戸市立六甲道児童館 子育てコミュニティ育成事業

いざという時、どうするの???ダンボールハウスでのお泊り会を通じて防災意識を高めます。

# 平成28年度 ぼうさい 「防災ダンボールキャンプ」

9/24 (土) 18:00 ~ 25 (日) 7:30

申し込み期間  
**(未経験者優先) 9/13~**  
申込み時間 9:30~12:00 13:00~17:00

集合解散：成徳地域福祉センター（成徳小学校隣接）

※下の申込用紙に参加費を添えて  
児童館まで直接提出ください。  
※定員になり次第締め切ります。  
※定員に達した同日に提出された分は  
抽選とさせていただきます。

プログラム内容〔予定〕

- ・持ってきたものはなあに???
- ・グループわけ
- ・ダンボールハウスづくり
- ・防災スリッパづくり
- ・防災MYコップづくり
- ・よふかしタイム
- ・非常食試食（朝）
- 他

児童館で準備するもの

- ・ダンボール・ガムテープ
- ・新聞・乾パン・水

対象：小学生1年から6年生 20名  
（保護者の方は必ず送り迎えをお願いします。  
また、集合から1時間は一緒に参加してください。）

※ 夕食・朝食・入浴はプログラムに含まれません。

- ・FAX/電話での申し込みはできません。
- ・お友達の方の申し込みは出来ません。
- ・当日のお問い合わせは下記の携帯電話までお願いいたします。

持ち物：

- ・非常食1種類（朝用）
- ・外でダンボールで家を作って泊まると仮定し、防災に必要と思うもの、今回のキャンプに必要と思うものを家族で相談し、リュックに入れてきてください。
- ※当日は室内におうちを作ります。



参加費  
**100円/1人**  
保険費含

お問い合わせ：神戸市立六甲道児童館 078-841-2331  
当日用携帯 080-6132-3089 担当 金坂

「平成28年度 防災ダンボールキャンプ」申込書



参加者名前

小学校 年生  
小学校 年生

保護者氏名

(印)

保護者連絡先(携帯)



領収証

\_\_\_\_ 様

\_\_\_\_ 円  
ダンボールキャンプ参加費として  
平成28年9月 \_\_\_\_ 日  
神戸市立六甲道児童館  
開放委員会

## 39 スタッフによる「自分の世界」企画

### ▶ 多様なスタッフによる多様なプログラム

夏休みなどに期間限定で行う、スタッフの個性や専門性を最大限に活用した特別プログラムです。スポーツ活動、創作活動、遊び、ゲーム、児童文化等の活動を週に1回、「AZA夏タイム」として30分～1時間程度実施します。



### ねらい

- スタッフ一人ひとりの個性と魅力を子どもたちに伝え、**スタッフと利用者がプログラムを通して結びつく**機会とする。
- 夏休み等、期間限定のプログラムとして実施することで、**その期間の魅力づけ**を行う。
- **スタッフの専門性の有効活用及びトレーニング**の機会とする。

### 実施条件

対象年齢	幼児～高校生
参加する人数の目安	10～30人程度 ※人数はプログラムによって異なるが、最低10人程度は集まるプログラムになるよう実施する。
必要なスタッフ数	1～2人
設備/環境	特になし
実施時期	夏休み期間中
備品/道具	各プログラムによって異なる
総予算	各プログラムによって異なる



トライアル館（中央区堀留町児童館）で、スタッフがプロジェクションマッピングを子どもに見せたときの様子

## 事前準備

各プログラムの準備は、担当スタッフに任せますが、スタッフのモチベーションを高め、質の良いプログラムを実施するために、次の点に留意します。

- 本プログラムの目的や意義をスタッフに理解してもらいます。
- 内容は、スポーツ、ゲーム、創作、音楽等どんなジャンルでも可とします。スタッフが専門性を活かしたり、新しい事にチャレンジしたりするなどの姿勢が大切です。
- 実施日の2～3日前には、担当スタッフから上司等にプログラム内容を報告してもらうようにします。
- スタッフの技能や経験によっては、2人組み等で行うことも可とします。

## 進め方

- ①実施期間の1か月程度前に、上司から担当スタッフに本プログラムについて告知します。その際に、実施の日時、ペアがいる場合はペアも発表します。
- ②それぞれの実施日の2～3日前に、上司は担当スタッフから報告を受け、内容を把握しておくようにします。その際、修正が必要な場合はアドバイスをを行い、内容を修正してもらいます。
- ③実施の当日は、子どもたちに告知を行い、多くの子どもたちに参加してもらえよう、施設全体で取り組みます。
- ④プログラム実施中は、担当上司が運営内容をチェックするよう努めます。
- ⑤プログラム終了後は反省会を行い、次につなげます。

## ポイント

- 担当スタッフは忙しい中で、0からプログラムを考え、それを自分で実行することになるので、通常のプログラム運営より責任が重く、ストレスを感じるが多くなります。上司は進行状況を確認するなど、スタッフの状況を把握するよう努めることが大切です。
- 個人の裁量でプログラムを計画していくため、内容の深まりに欠ける、無理がある等のケースもあります。上司は、進行状況の確認を行いながら、適宜、アドバイスを行ってください。
- 本プログラムは、上司がスタッフの仕事に

対する意欲や技能を把握する機会にもなります。計画から実施までのスタッフの取り組み状況をよく観察し、スタッフ育成に反映させましょう。評価のポイントは次を参考にしてください。

- ①働く意識や意欲、責任感
- ②チームワーク(報告、連絡、相談の状況等)
- ③知識(プログラムの目的の内容設定等)
- ④技能やセンス(指導技術や状況に対する感受性等)

## 発展



本プログラムは、原則的に1回限りのプログラムですが、実施当日の子どもの反応や上司の判断によって、定期的実施するプログラムに発展させることも可能です。



定期的なプログラムとして実施する場合には、スタッフ個人ではなく組織的な取り組みが必要です。そうすることによって、内容の深化が可能になります。

## 考察



児童館で行われるプログラムは、あらかじめ定められた年間の目標に沿って、「いつ、どの時期に誰に向かって、何をやるか」が計画されます。専門職が行う児童健全育成事業は、当然のことながらこうした「目的性と計画性」を持ち、組織的に取り組む事が重要になります。しかし、その一連のプロセスが形骸化してくると、プログラムのマンネリ化を招くことがあります。特に歴史のある児童館で、ベテランスタッフが多いと、「これをやれば絶対大丈夫」という定番を持っているので、どうしても新しい事にチャレンジしにくい状況になりがちです。今回紹介したこの取組は、事業の「目的性と計画性」というタグを一旦外すことで、プログラムに自由度を与え、新しいプログラムの創造と形骸化した事業計画プロセスに刺激を与えることとなります。

また、「ポイント」にもあるように、スタッフ育成の視点も重要です。地域に密着した児童館は、プログラムの魅力よりもスタッフの魅力のほうが重要だと考えます。そのためには個性あふれる、魅力あるスタッフを育成することが、管理職の重要な役割だと考えます。現代の若いスタッフの多くは、自分の個性をアピールしたり、新しい事にどんどん取り組んだりすることが苦手なように感じます。この取り組みは、こうした若手スタッフに、自由にのびのびと仕事に取り組む機会を、そのプロセスを上司が観察、評価することで魅力あるスタッフ養成につながると考えています。また、管理職のスタッフ育成能力の向上にもなると思われます。

## ！安全への配慮

- 各プログラムによって配慮するポイントは異なりますが、スタッフが企画・運営する内容を上司が把握し、危険がないかどうかを常に客観視することが大切です。

## 子どもの主体的な 取り組みの視点



「子どもの主体性」は児童館で行われるすべてのプログラムにとって、とても重要なキーワードですので、スタッフの「子どもの主体性」に関する知識、それを醸成するための技術も重要な能力になります。実施されるプログラムの中で示される担当スタッフの様々な技量を、「子どもの主体的な取り組みをどう支援しているか」という視点でとらえ、上司が評価すると良いでしょう。プログラムの中に子どもの主体性を尊重し、醸成する内容が含まれているか、実際の運営の場面での働きかけが適切であったかどうかを観察、評価します。熱意溢れるスタッフが、一生懸命企画したプログラムが、結果的に子どもを「遊ばせていた」だけに終わるケースが時々あります。こうした事がないよう「子どもの主体性」を評価基準にすることが必要です。

## プログラム アドバイザー

- 麻布子ども中高生プラザ（東京都港区）館長 佐野真一

## 実際に やってみました

- 「自分のスキルを児童館で活用できるのか」、「実施してよいのかどうか」を判断しづらいスタッフもいるため、館長が普段から個々のスタッフのスキルをきちんと把握しておくことが大切だと思いました。



堀留町児童館（東京都中央区）

厚生労働省委託事業  
『児童館等における「遊びのプログラム」の開発・普及に係る調査研究業務』

---

# 児童館等における 遊びのプログラムマニュアル

平成30年3月

---

[発行]  
一般財団法人 児童健全育成推進財団